

カネソウ E X ジョイント 建物用

エキスパンションジョイントカバー 施工要領書・取扱説明書

対象製品：

ステンレス製SXシリーズ

SX11/SX12/SX22/SX22A/SX22AE/SX23/SX23A/SX23AE
SX44/SX45/SX45B/SX55/SX66/SX56A

アルミニウム製AXシリーズ

AX11/AX12/AX22/AX22A/AX22AE/AX23/AX23A/AX23AE
AX44/AX45/AX45B/AX55/AX66/AX56A

施工およびご使用される前に必ず最後までお読みください

この度は、カネソウ建物用 E X ジョイントをご使用いただき、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、必ずこの「施工要領書・取扱説明書」をご一読いただきますようお願いいたします。

間違った施工・取扱を行いますと、製品のガタツキや損傷、事故につながる可能性がありますのでご注意ください。

なお、施工終了後は本書を御施主様あるいは建物管理者様へ、必ずお渡しいただくようお願いいたします。

本書は、いつでも見られる場所に必ず保管していただくようお願いいたします。

カネソウ株式会社

〒510-8101 三重県三重郡朝日町大字縄生81番地

TEL (059) 377-3232 FAX (059) 377-3905

東京支店

TEL (03) 3433-6645

仙台営業所

TEL (022) 214-8088

大阪営業所

TEL (06) 7639-5870

福岡営業所

TEL (092) 432-2532

URL: <https://www.kaneso.co.jp/> E-mail: info@kaneso.co.jp

この内容は2026年2月現在のものです。仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

EXジョイントを安全にご使用いただくためのお願い

本製品は正しく取り扱うことで、安全にご使用いただけます。
製品の誤った場所での使用、誤った取り扱い、破損したままの製品を継続して使用することによる、事故の未然防止のため、下記の注意事項をお守りいただくよう、お願いいたします。

設計上の注意事項

設計条件を超える荷重がかかる場所では使用しないでください。

床用のエキスパンションジョイントには設計荷重があります。適用荷重を超える荷重がかかると、破損や変形を招き、事故を引き起こす恐れがあります。

設計前に必ず使用場所の確認をしてください。

設計前に必ず使用場所の確認をしてください。エキスパンションジョイントは製品によってサイズ・形状・仕様が大きく異なります。設計前に必ず使用場所の確認をしたうえで、製品の選定をしてください。本施工要領書・取扱説明書に掲載されている製品の使用場所以外には使用しないでください。

施工上の注意事項

加工をしないでください。

切断、穴あけ、切削、変形などの加工を施さないでください。製品強度の低下や、錆の発生原因となり、事故を引き起こす恐れがあります。

外部からの強い衝撃を与えないでください。

搬入時などエキスパンションジョイントに、衝撃や荷重をかけないでください。破損や変形する恐れがあります。

取扱・維持管理上の注意事項

維持管理上の注意について

カバーが破損したり紛失した場合は、速やかに取り替えまたは補充をしてください。取り替えまたは補充をしないと、転倒事故などによりケガおよび骨折の恐れがあります。特に地震など大きな変位があった後は、製品の破損状況やカバーなどが所定の位置に戻っているか、ガタツキ等がないかを確認し、安全な状況を確認してから通行してください。

すき間に指を入れないでください。

カバーとカバーのすき間や、カバーと受枠のすき間などに指を入れると、指詰めなどのケガをする恐れがあります。すき間に指を入れないでください。

持ち運び及び輸送には、充分ご注意ください。

重量の重い部材があります。腰などを痛めたり、足の上に落とすとケガの恐れがあります。

取り付け・取り外しは専門業者に依頼してください。

エキスパンションジョイントの施工および取り扱いについては、製品の機能を維持するため、また、施工・取り付け不良による破損や変形、不具合を防止するためにも施工要領書・取扱説明書記載の手順を厳守してください。清掃や交換などのメンテナンスが必要な場合は、専門業者に依頼してください。取付方法を誤ると、破損や変形、ガタツキを招き、事故を引き起こす恐れがあります。取り付け・清掃・交換・点検などの際は必ず作業用手袋を着用してください。

ステンレス製品について

ステンレスは、絶対に錆びない金属ではありません。ステンレス製品を美しく保つには、設計、施工上の配慮に加えて、適切な清掃と手入れが必要です。清掃にあたっては、状況に応じた適切な方法を選んでください。また、ステンレス製品のうち、SUS304を使用している製品におきましては、通常、磁性を有しませんが、生産工程における曲げ加工や溶接などにより、加工部分の金属組織が変わり、磁性を持つようになる場合がありますので、ご了承ください。

破損、変形、ガタツキが発生したエキスパンションジョイントは使用しないでください。

何らかの原因で、破損や変形あるいはガタツキが発生しているエキスパンションジョイントは、強度が著しく低下しており、事故を引き起こす恐れがあります。適正な製品に交換してください。

油などが付着した場合、すみやかに取り除いてください。

油などの滑りやすいものがエキスパンションジョイントの表面に付着すると、車両のスリップや歩行者の転倒などの事故を引き起こす恐れがあります。すみやかに清掃を行い、油などを取り除いてください。

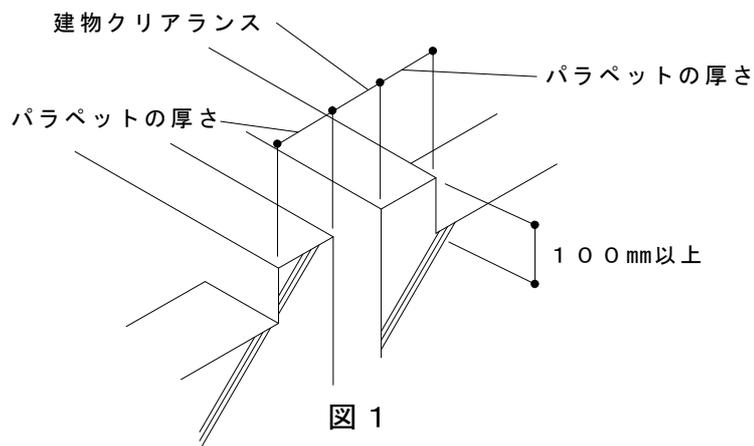
目次

タ イ プ	製 品 符 号	ペ ー ジ
① 屋根-屋根	SX (AX) 11	11-1~5
② 屋根-外壁	SX (AX) 12	12-1~6
③ 外壁-外壁(先付)	SX (AX) 22	22-1~6
④ 外壁-外壁(後付)	SX (AX) 22A	22A-1~7
	SX (AX) 22AE	22AE-1~7
⑤ 外壁-外壁コーナー(先付)	SX (AX) 23	23-1~6
⑥ 外壁-外壁コーナー(後付)	SX (AX) 23A	23A-1~8
	SX (AX) 23AE	23AE-1~7
⑦ 天井-天井	SX (AX) 44	44-1~7
⑧ 天井-内壁	SX (AX) 45	45-1~6
⑨ 内壁-内壁	SX (AX) 55	55-1~6
⑩ 内壁-内壁コーナー	SX (AX) 45 (B)	45 (B)-1~3
⑪ 床-床	SX (AX) 66	66-1~5
⑫ 床-内壁	SX (AX) 56A	56A-1~5

屋根－屋根用 S X (A X) 1 1

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. E X P. J 取付部のパラペット高さは、カバーと他の金物等の干渉と地震可動時パラペットとの干渉をなくすため図1のように100mm以上の段差を確保してください。
2. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。



取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

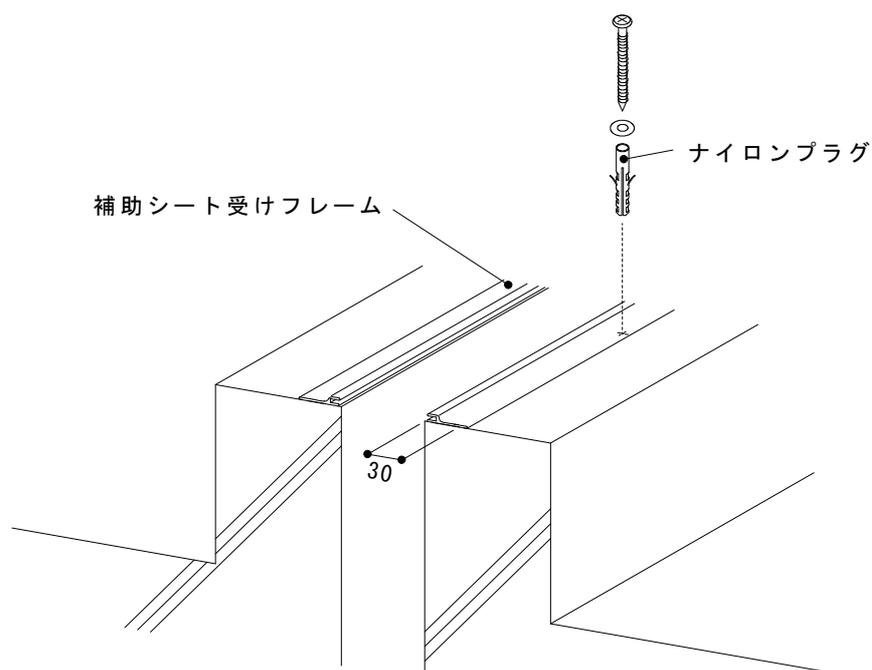
1. 補助シート受けフレームの取付

パラペット、クリアランスによって図2のように内側から35mmの位置に補助シート受けフレームを取付ます。取付に先立ちフレームの穴位置に従って躯体に、φ6、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。

（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）

注）規格品については、パラペット厚が120mmを除く全機種に補助シート受けフレームは取付けます。

注）規格品以外は、施工図に基づいて補助シート受けフレームの取付を行って下さい。



2. パラペット用フレームの取付

パラペット用フレームの穴位置に従って躯体に、 $\phi 8$ 、深さ60mmの下穴をパラペットの外側から65mmの位置にあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）この時フレームの長手方向の端部はパラペット端部に合わせます。（図3、4）また、補助シートの取付位置については、1で述べた補助シート受けフレームに取付るタイプを図3にその他の直接パラペットフレームに取付るタイプは図4にそれぞれ示します。補助シートの長さについては、図3、4に示すように200mm程度垂れ下がるようにして下さい。この部分は、外壁用補助シートと接着することになります。

フレームには、止水テープ（ブチルゴム付きアルミテープ）を図4のように張りつけて下さい。

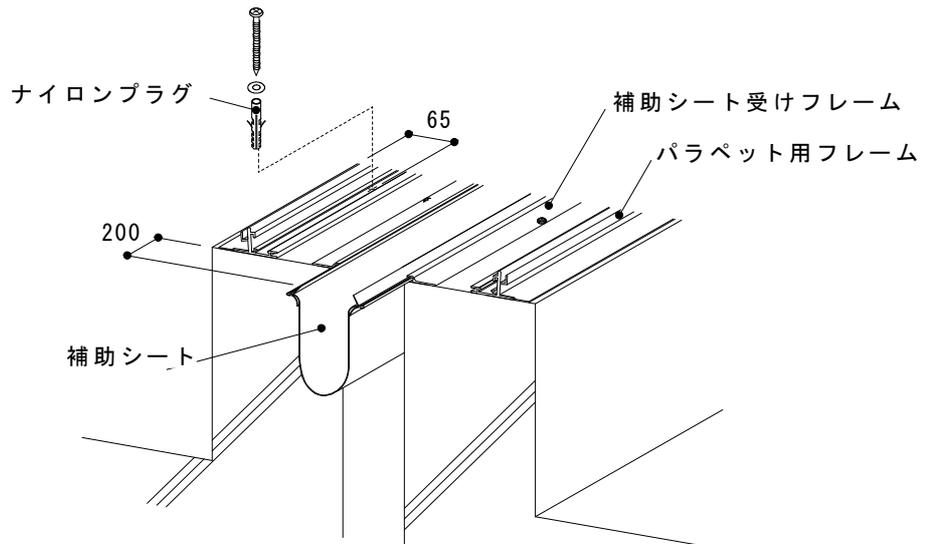


図 3

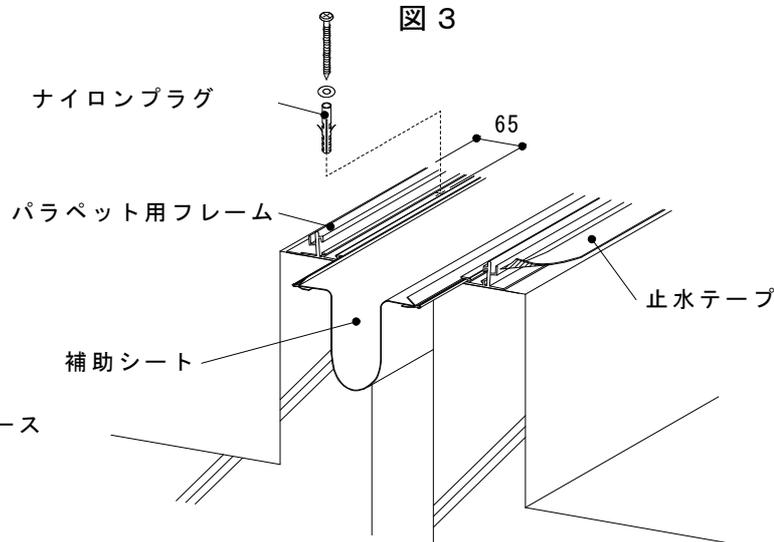


図 4

レベルアジャストピース
平板タイプ

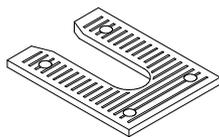


図 5

注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定して下さい。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース（図5）を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用して下さい。

注3) パラペット用フレームのジョイントは、図6のように接続金具を差し込んでねじで締め付けて固定して下さい。

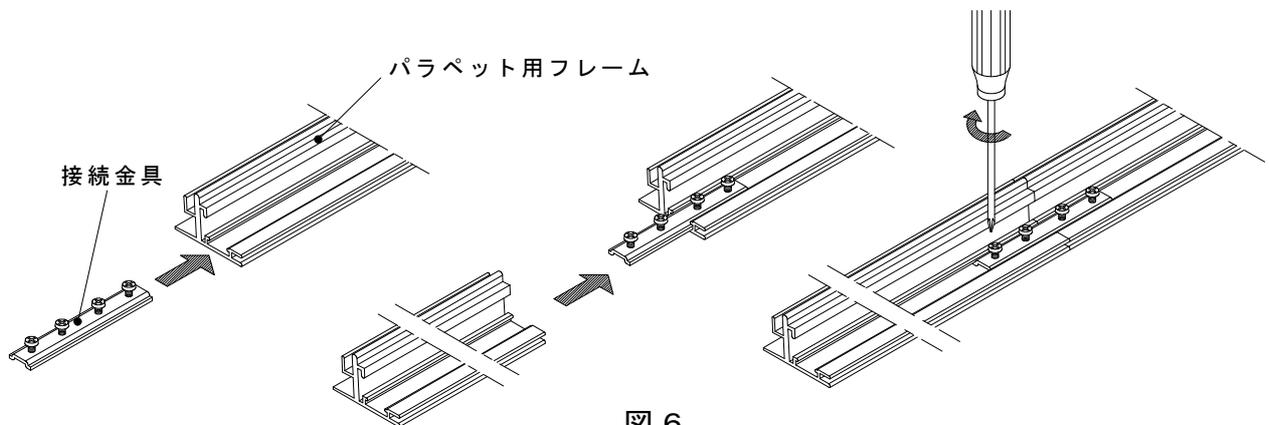


図6

3. ホルダーユニット及び止水板の取付

パラペット用フレームに対して止水板とホルダーユニットを取付ます。フレームの端部に合わせて止水板を取付、次にホルダーユニットを取付ます。止水板は、ホルダーピッチ決めにもなっているので交互に図7のように取付けていきます。ホルダーの取付方については、図8に示します。ホルダー取付金具を下に押しパラペット用フレームの溝部に引っかかるようにして取付けて下さい。次に、取付たホルダーの位置を左右均等に割り付けて下さい。この際ホルダーユニットのホルダー受けがパラペットの端から端の中心部になるように取り付けて下さい。

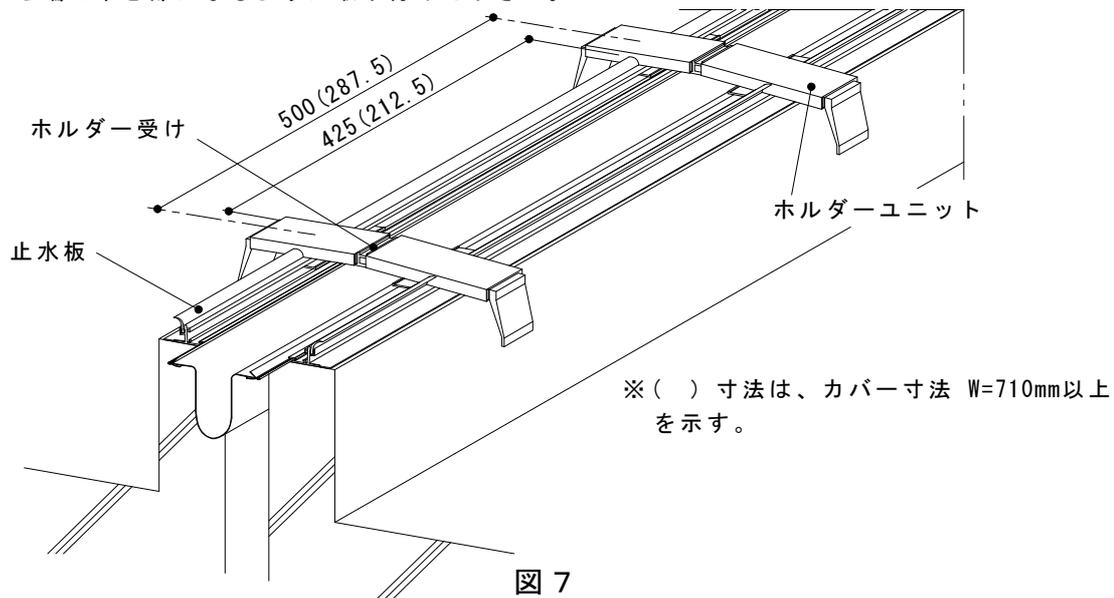


図7

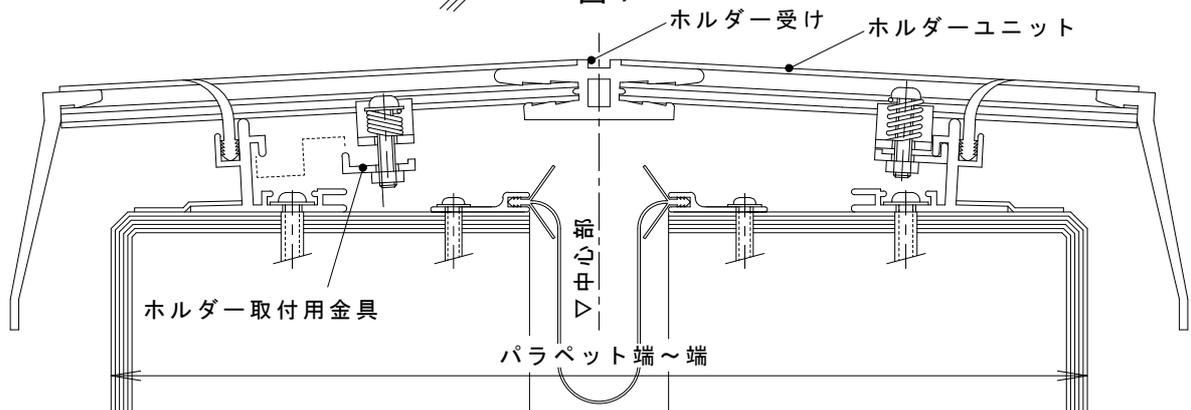


図8

4. カバーの取付

カバーの取付は、両端の小口カバーの付いたものから取付ていきます。この時、既に取付たホルダーユニットに図9のようにカバーを嵌合させます。

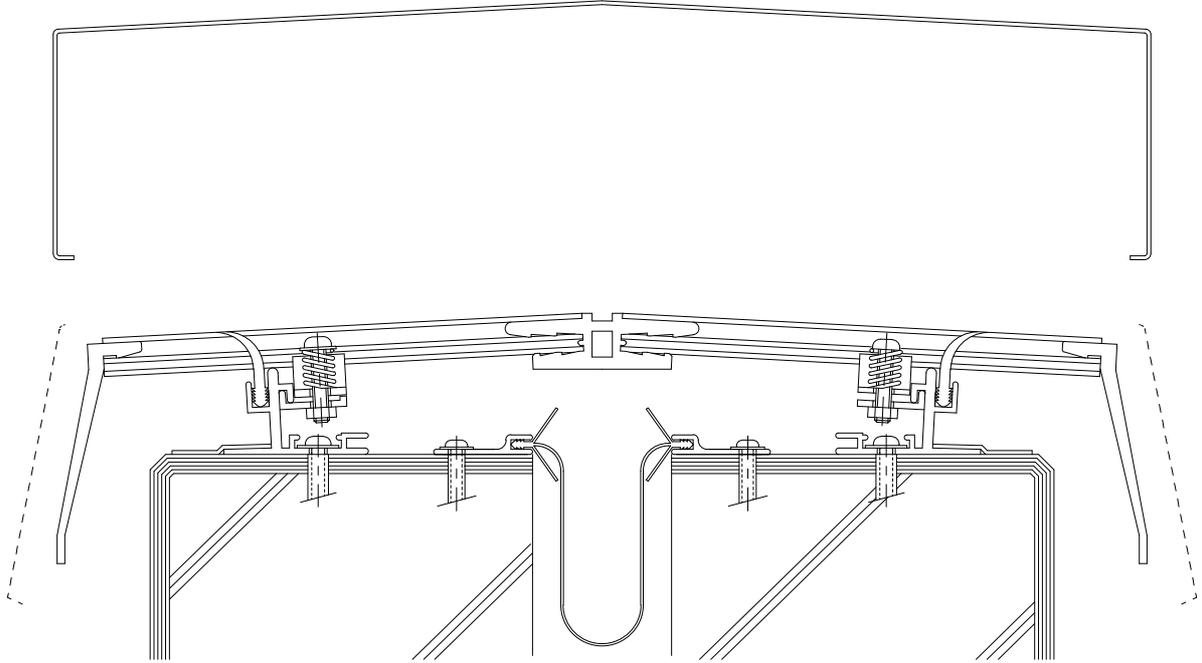


図 9

※カバー接続部の取付は、次のように行います。

カバー接続部は、コーキング不要のジョイナーを取付ます。取付方については、図10に示すように片側のカバーの先にジョイナーを嵌合させておき、そのままホルダーに嵌合させます。そしてもう一方のカバーを先に嵌合させたカバーに対してジョイント目地を取りジョイナーの上より嵌合させます。

注) 屋根用のカバーの接続部は図14に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は屋根における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

※ () 寸法はカバー寸法W710mm以上で
カバー長さが3000mmの場合です。

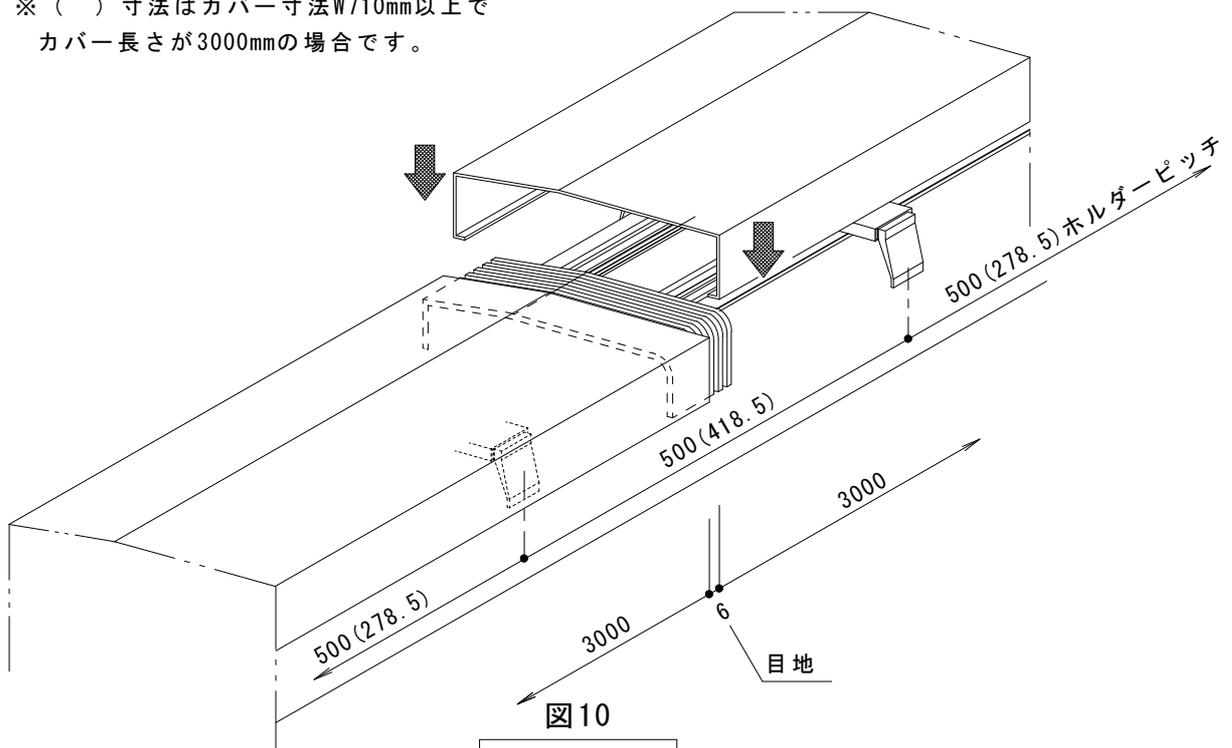
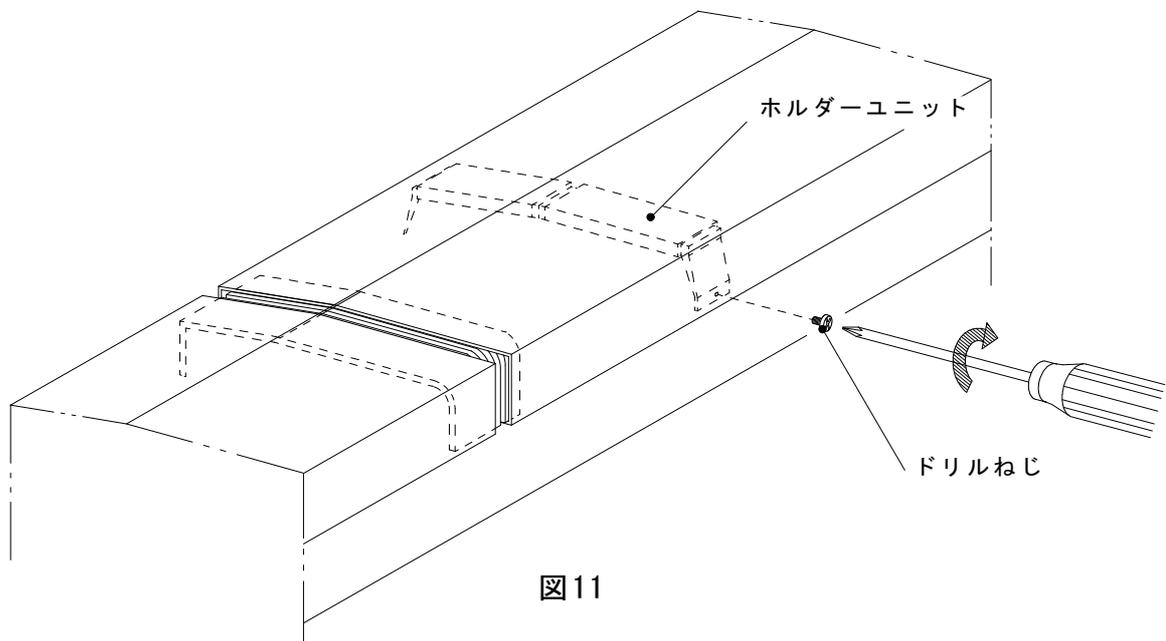
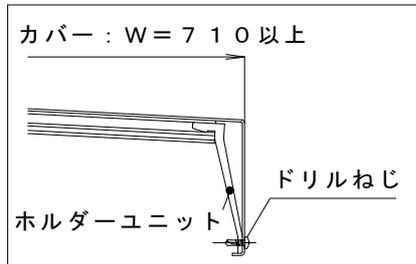


図10

5. カバーのねじ止め

カバー寸法 $W=710$ mm以上の場合は、図11のようにカバーとホルダーユニットに $\phi 3.6$ の下穴をあけカバーにドリルねじで固定します。



屋根－外壁用SX（AX）12

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. EXP. J取付部のパラペット高さは、カバーと他の金物等の干渉と地震可動時パラペットとの干渉をなくすため図1のように100mm以上の段差を確保してください。
2. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A，B寸法）は、図2及び表1を参照して下さい。

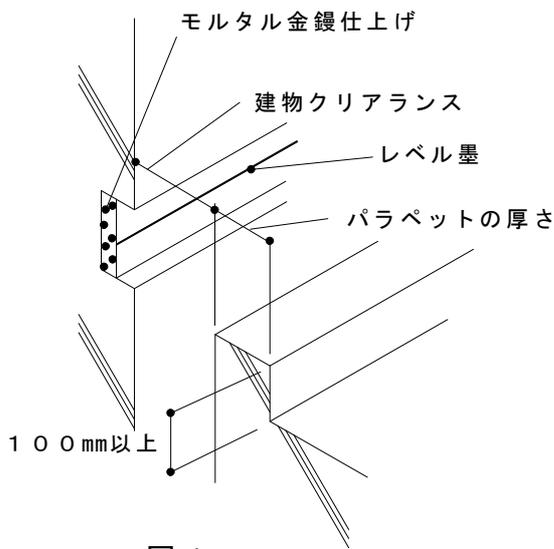


図 1

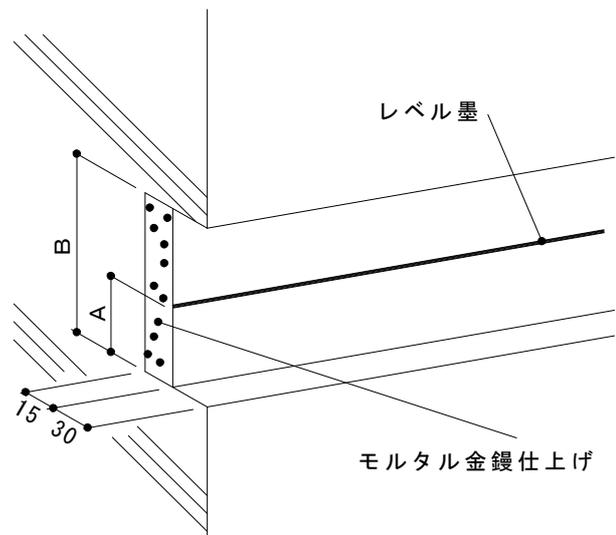


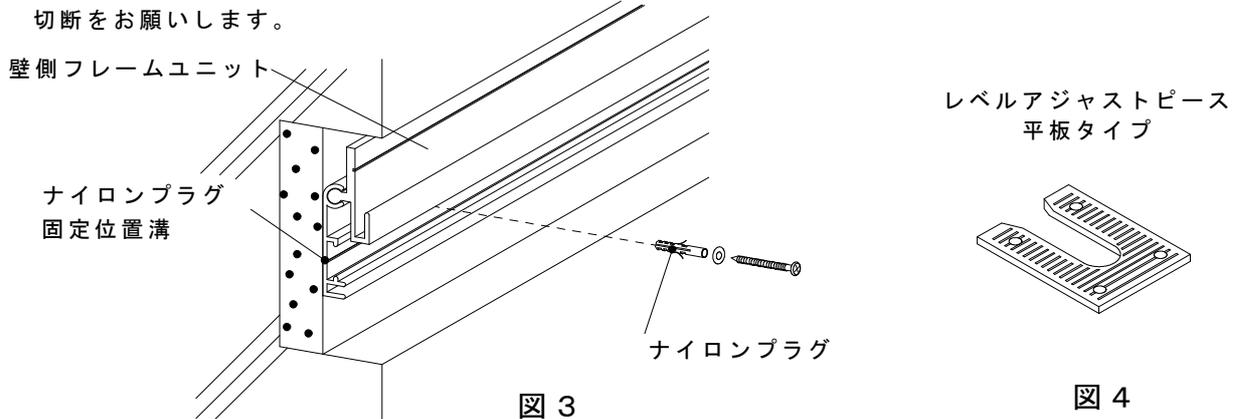
図 2

表 1. A，B寸法表

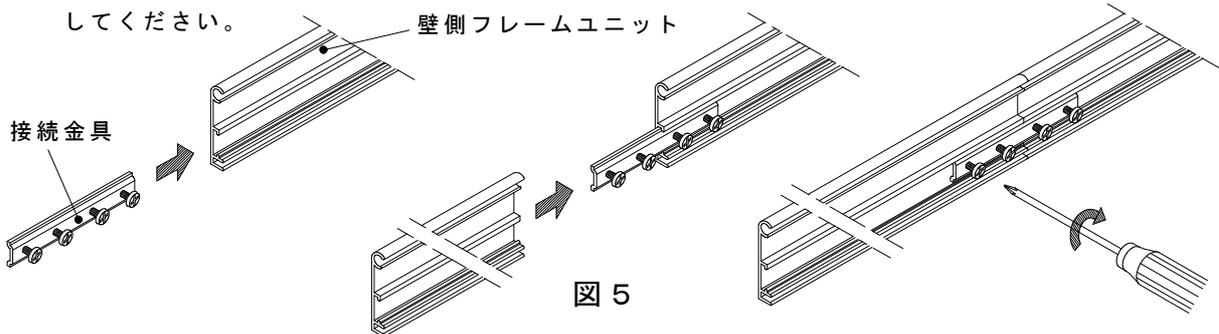
呼 称	A 寸 法				B 寸 法				
	パ ^ラ ペ ^{ット} 厚	1 2 0	1 5 0	1 8 0	2 0 0	1 2 0	1 5 0	1 8 0	2 0 0
SX12 - 50F		25	27	29	30	80	82	83	84
SX12 - 100F		28	30	31	32	83	85	86	87
SX(AX)12- 50G		25	27	29	30	80	82	83	84
- 100G		28	30	31	32	83	85	86	87
- 150G		31	32	34	35	86	89	89	90
- 200G		34	35	36	37	89	90	92	93
SX12 - 300G		39	40	42	43	94	95	97	98

2. 壁側フレームユニットの取付

壁側フレームユニットにあげられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで壁側フレームユニットを固定します。取付下地の不揃いはレベルアジャストピース（付属品）を利用して調節します。図3、4を参照してください。
 ※フレームユニットの長さは12-6 図13のようにジョイント材（ジョイナー）を設置する為に160mmスキマを設けられるようにあらかじめ出荷時より短めに切断されている為、ユニット全体の切断をお願いします。



注) 壁側フレームユニットのジョイントは、図5のように接続金具を差し込んでねじで締め付けて固定してください。

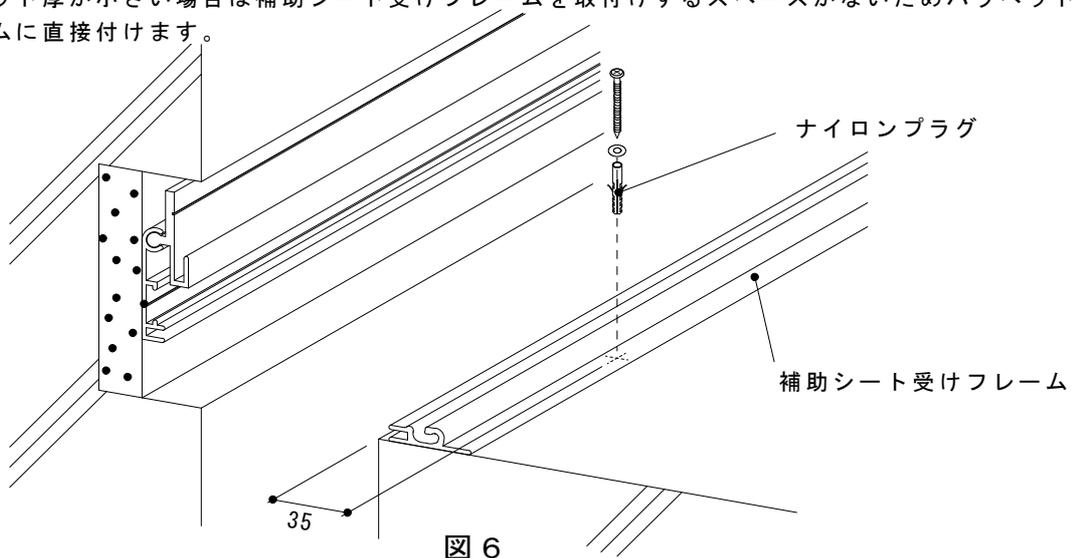


3. 補助シート受けフレームの取付

パラペット、クリアランスによって図6のように内側から35mmの位置に補助シート受けフレームを取付ます。取付に先立ちフレームの穴位置に従って躯体に、φ6、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。

(固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。)

注) 規格品については、パラペット厚が120mmを除く全機種に補助シート受けフレームは取付けます。パラペット厚が小さい場合は補助シート受けフレームを取付けするスペースがないためパラペットフレームに直接付けます。



4. パラペット用フレームの取付

パラペット用フレームの穴位置に従って躯体に、 $\phi 8$ 、深さ60mmの下穴をパラペットの外側から65mmの位置にあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）この時フレームの長手方向の端部はパラペット端部に合わせます。（図7、8）また、補助シートの取付位置については、3で述べた補助シート受けフレームに取付るタイプを図7にその他の直接パラペットフレームに取付るタイプは図8にそれぞれ示します。補助シートの長さについては、22A-7 図16、17に示すように200mm程度垂れ下がるようにして下さい。この部分は、外壁用補助シートと接着することになります。フレームには、止水テープ（ブチルゴム付きアルミテープ）を図のように張りつけて下さい。

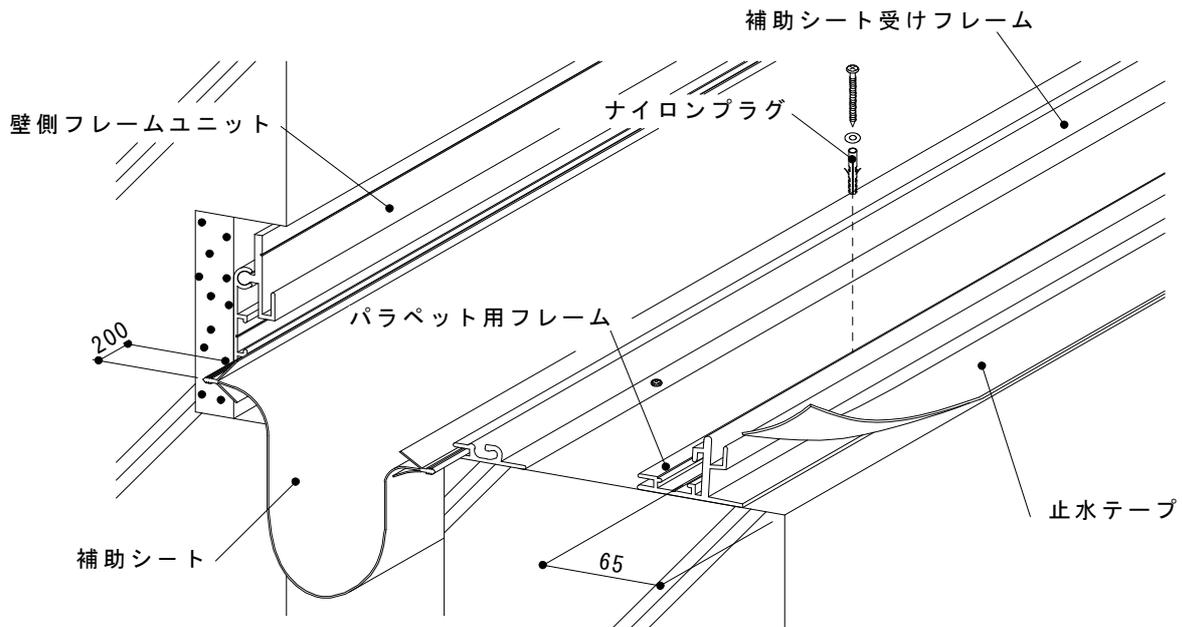


図7

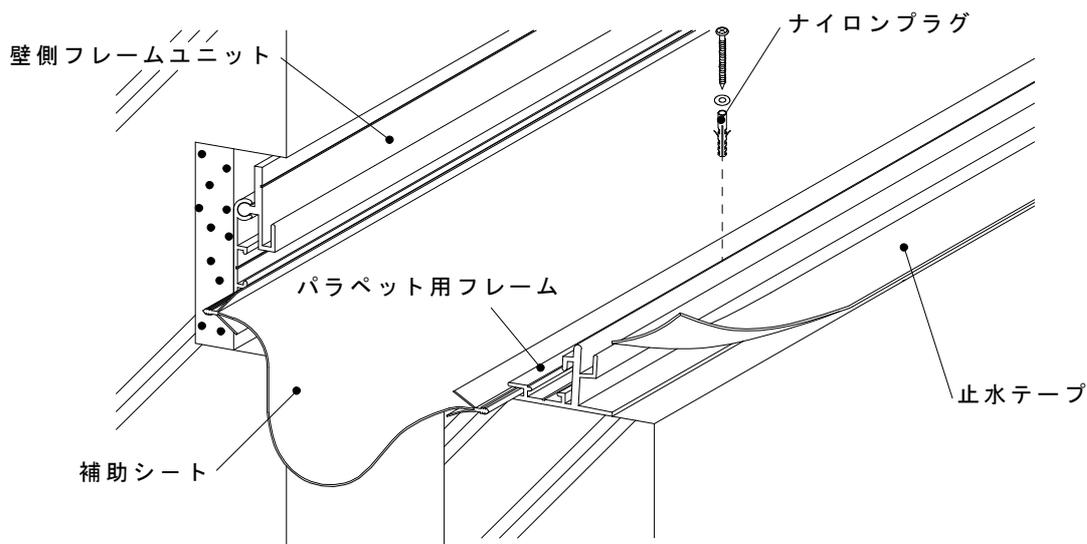


図8

注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース（図4）を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用して下さい。

5. ホルダーユニット及び止水板の取付

パラペット用フレームに対して止水板とホルダーユニットを取付ます。フレームの端部に合わせて止水板を取付、次にホルダーユニットを取付ます。止水板は、ホルダーピッチ決めにもなっているので交互に図9のように取付ていきます。ホルダーの取付方については、図10に示します。ホルダー取付金具を下に押しパラペット用フレームの溝部に引っかかるようにして取付て下さい。

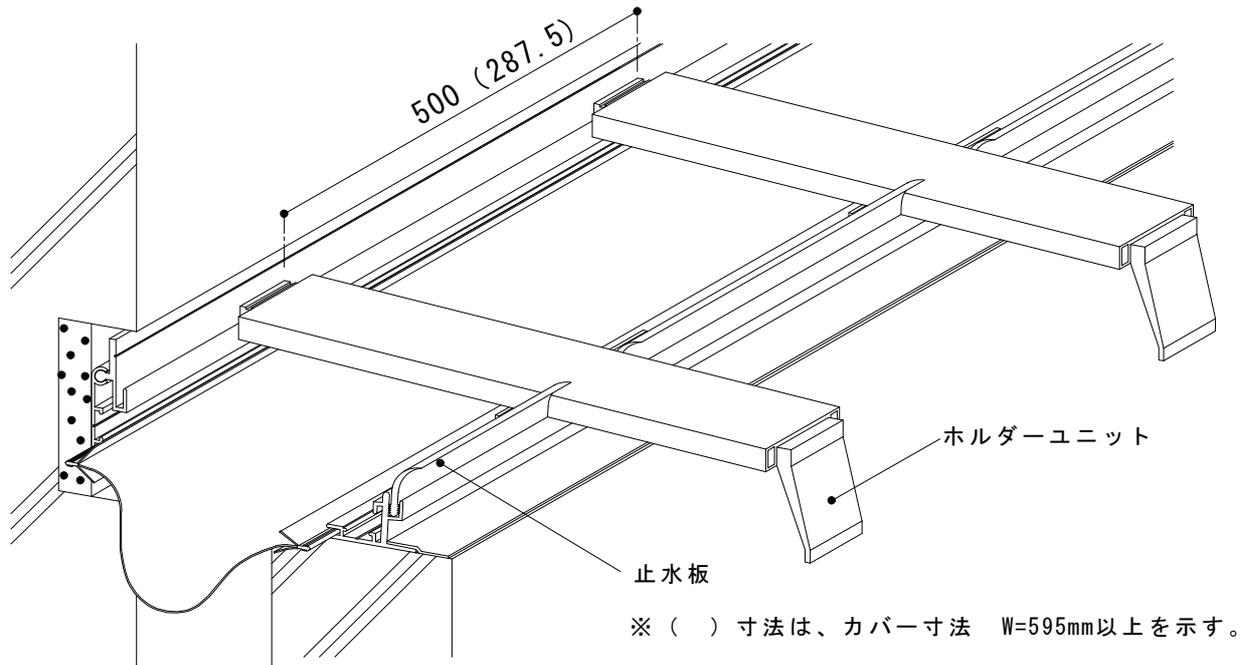


図9

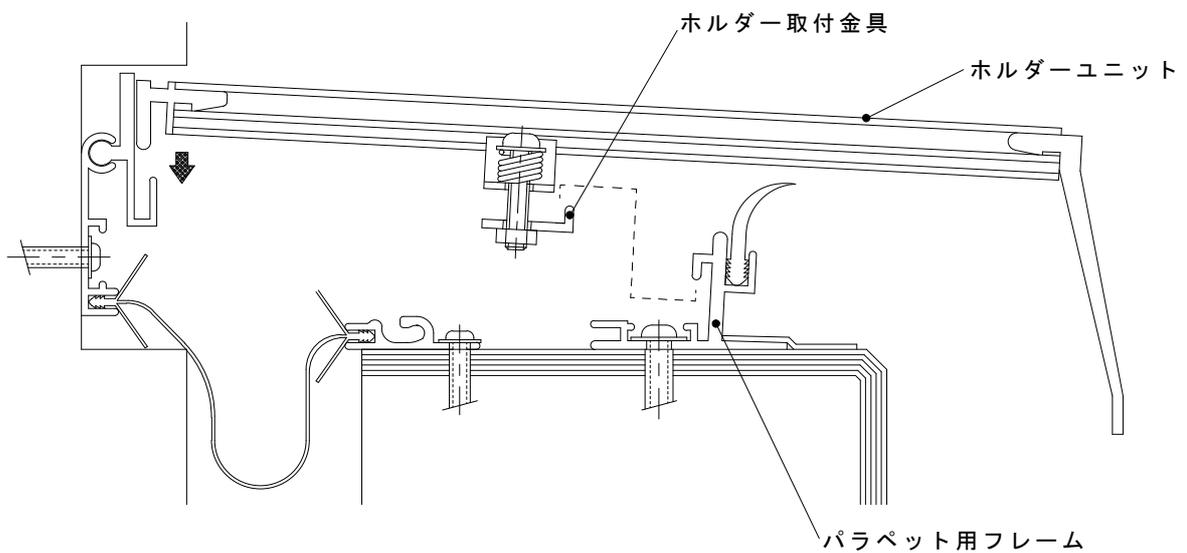


図10

6. カバーの取付

カバーの取付は、図11に示すように先程取付たホルダーと図中Aのように納まるようにして壁側フレームユニットに固定してください。（両端の小口カバーの付いたものから取付て下さい。）

() 寸法はカバーW595mm以上を示します。

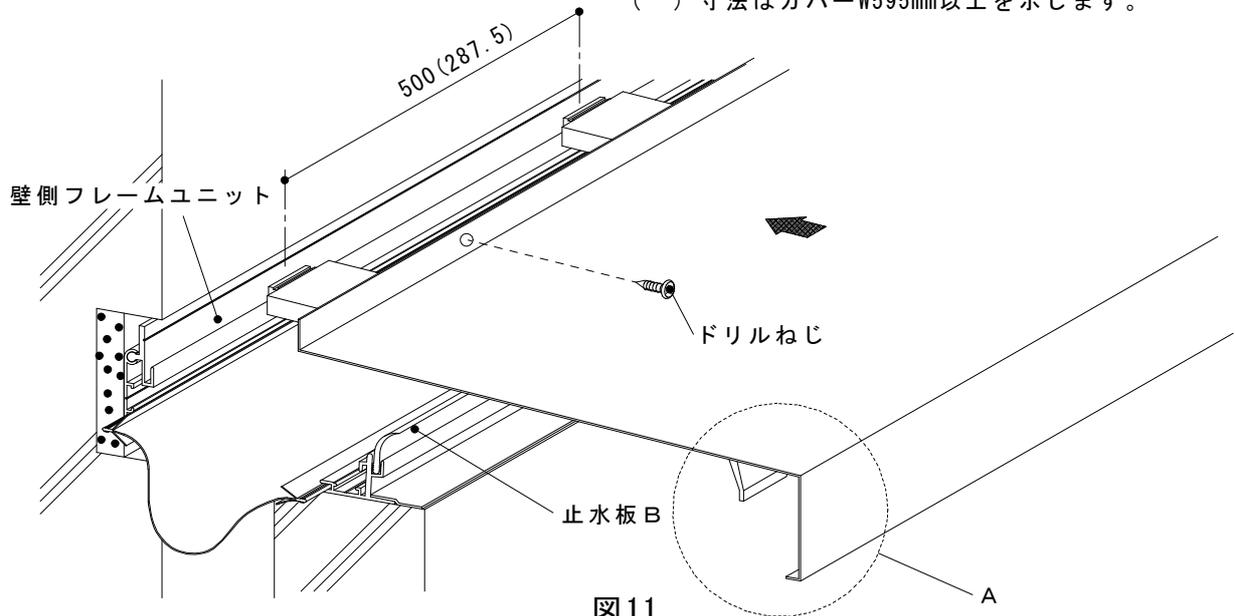
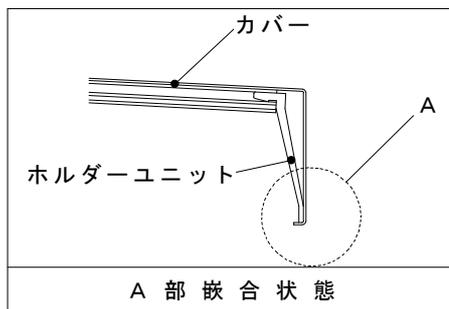


図11



ホルダー上をスライドさせながら壁側フレームユニットに付き当てるようにしてカバーをあて、ドリルねじで固定して下さい。この時、図中A部のホルダーとカバーの嵌合状態を確認して下さい。

7. カバーのねじ止め

カバー寸法W = 595mm以上の場合は 図12のようにカバーとホルダーユニットにφ3.6の下穴をあけ、カバーにドリルねじで固定します。

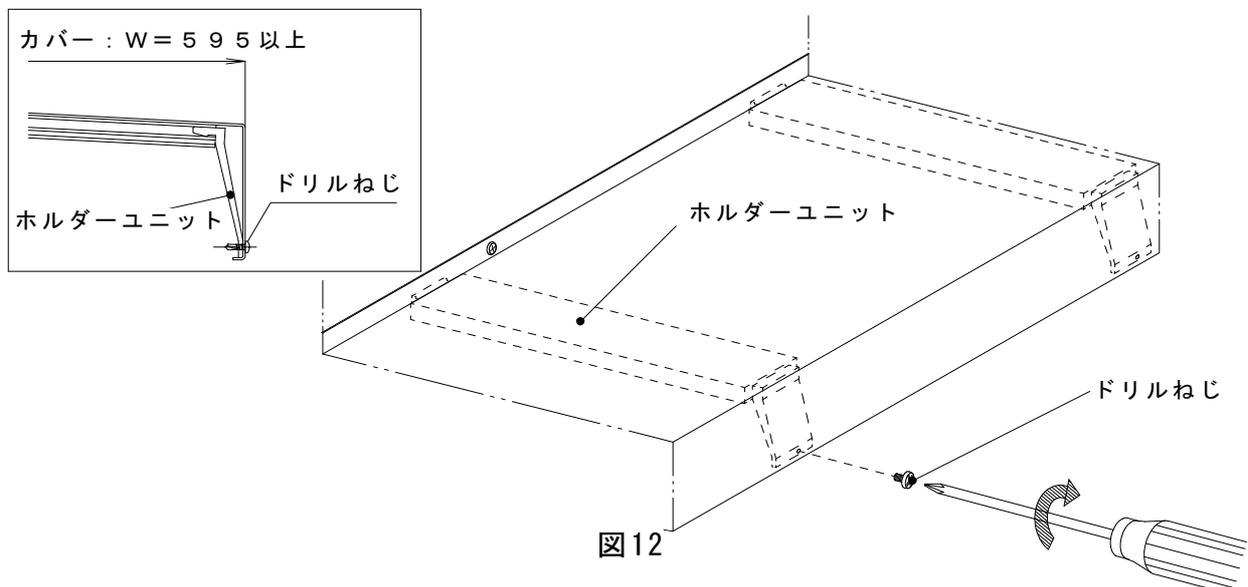


図12

※カバー接続部の取付は、次のように行います。

カバー接続部は、コーキング不要のジョイナーを取付ます。(図13) 取付方については、壁側フレームユニットの嵌込み溝にジョイナーの腕(フラットバー)を引っ掛けるようにし止水板にのせる状態で設置して下さい。ジョイナーのセットを行ってからカバーの固定を行うことに注意して下さい。

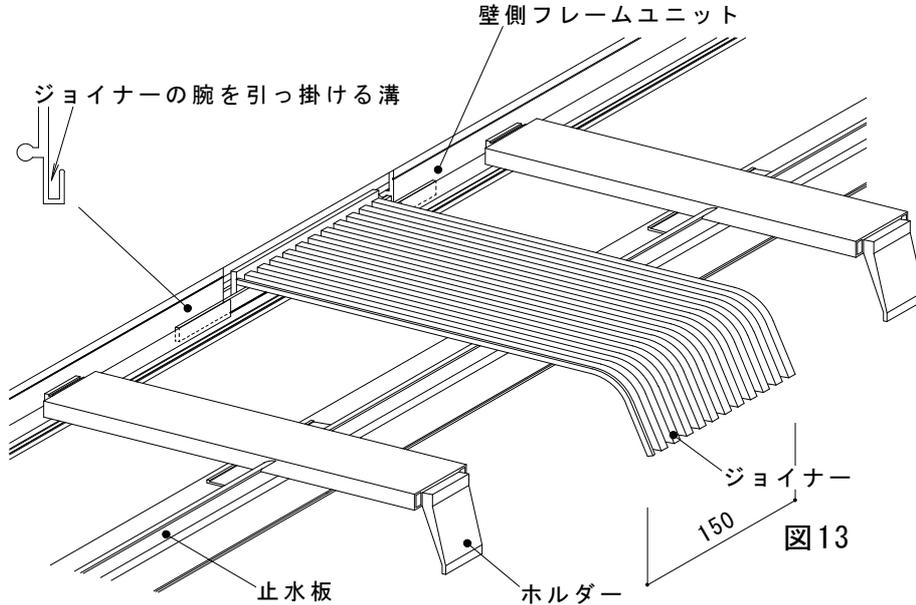


図13

注) 屋根用のカバーの接続部は図14に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は屋根における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

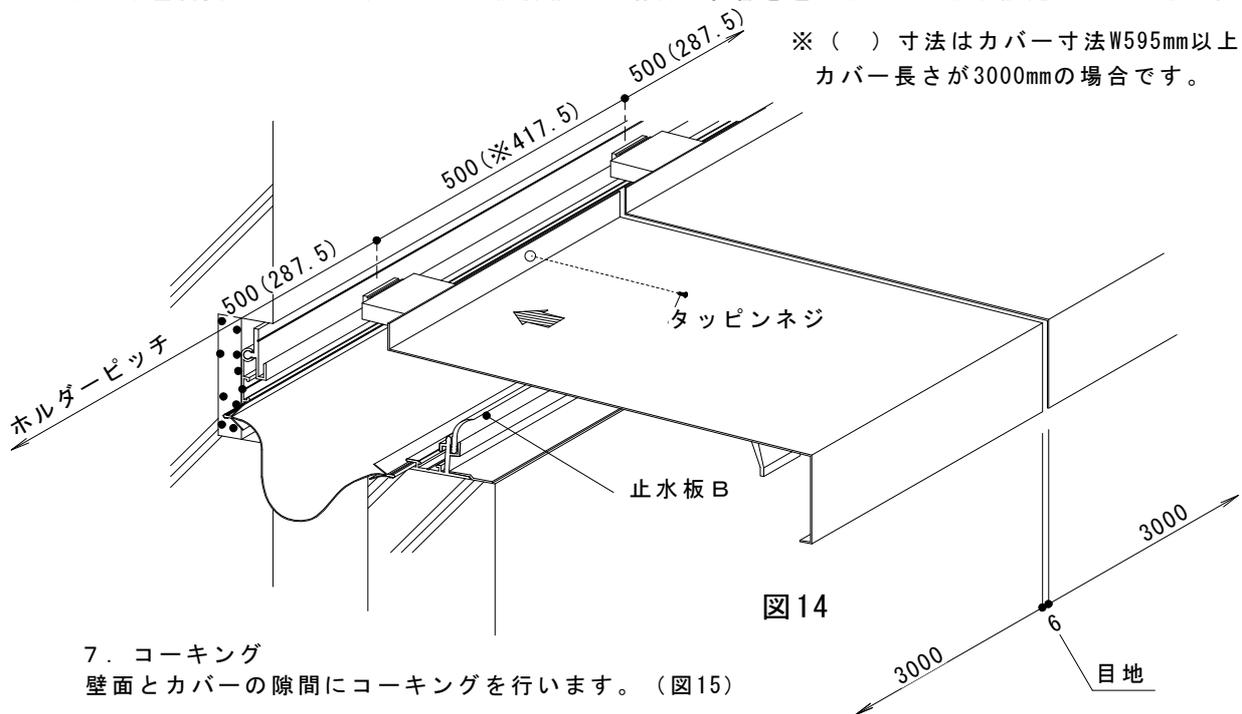


図14

7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。(図15)

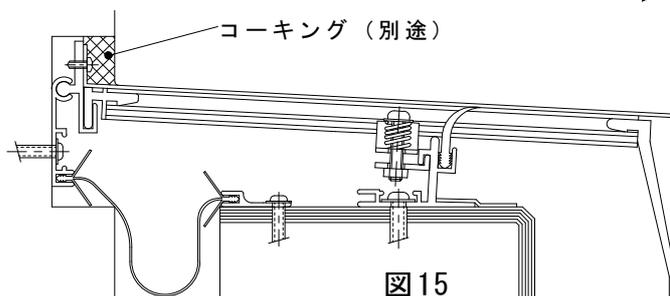


図15

外壁－外壁用SX（AX）22

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

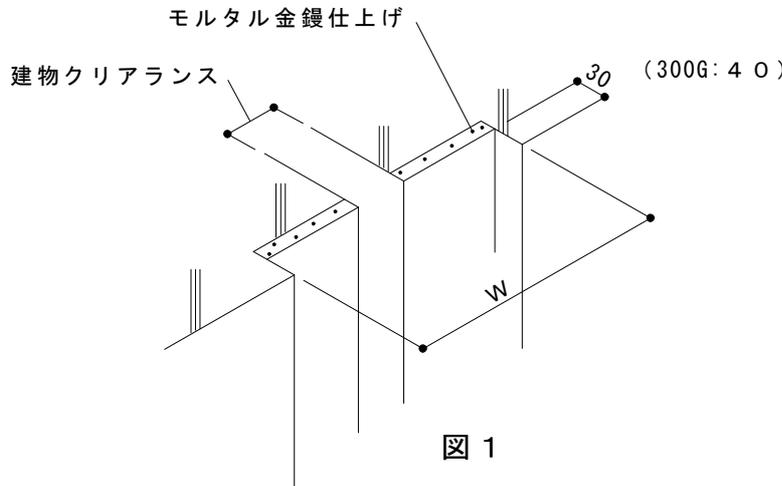


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち
外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2及び表1を参照して下さい。

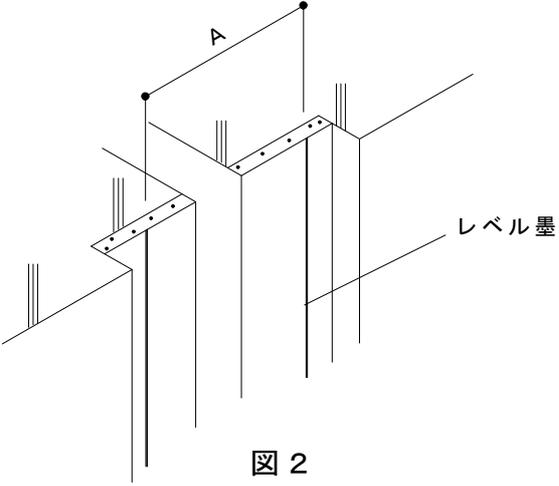


図 2

表 1. A寸法表

呼 称	A 寸法
SX22 - 50F	224
SX22 - 100F	375
SX(AX)22 - 50G	149
- 100G	224
- 150G	300
- 200G	375
- 300G	555

2. 外壁フレームユニットの取付

外壁フレームユニットに従って躯体に、 $\phi 6$ 、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。(図3)

(固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。)

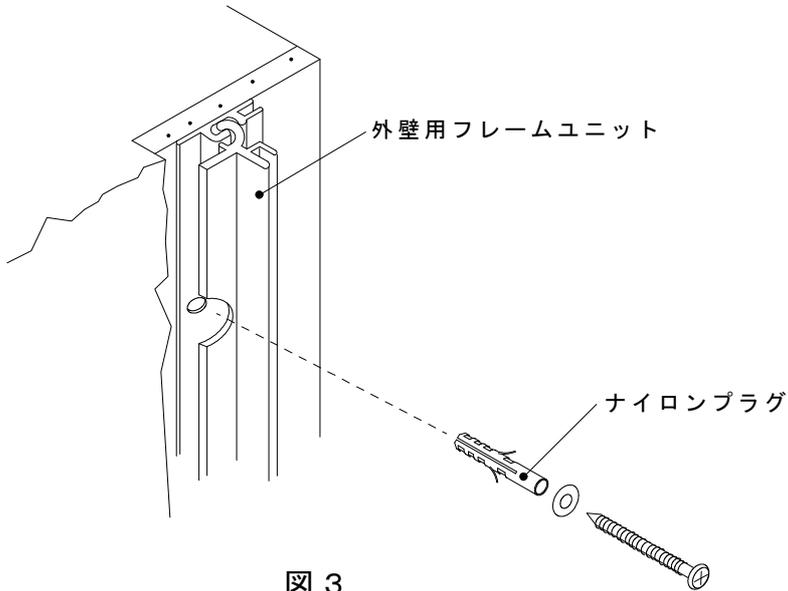


図 3

レベルアジャストピース
平板タイプ

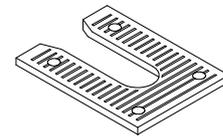


図 4

注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース(図4)を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。(図5)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートは、ロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

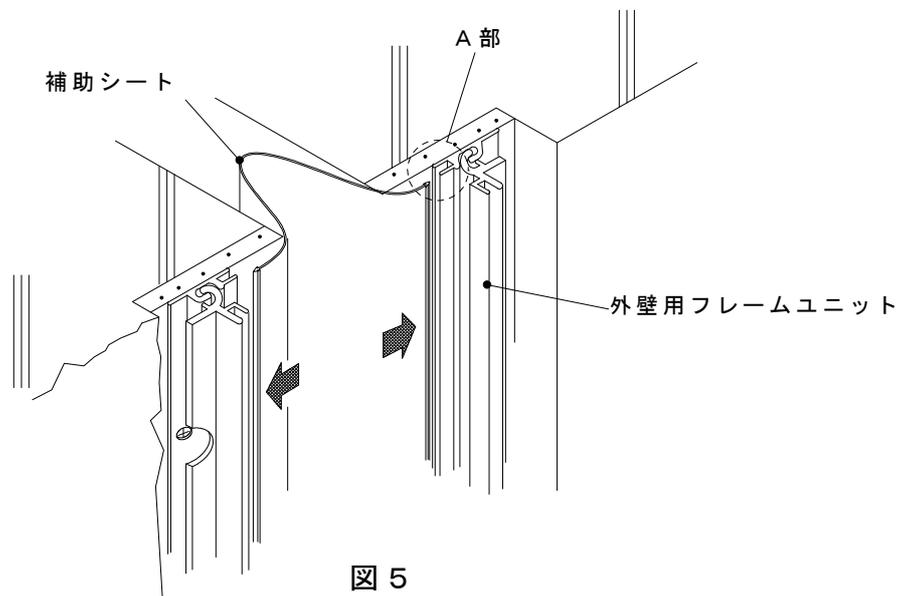


図 5

4-1. ホルダーの取付

ホルダーは左右非対象の部品です。フレームユニットの取付には、図6のA部を完全に打ち込み固定します。このとき、必ずすべてのホルダーのA部が同じ側になるように取付ます。ホルダーの取付ピッチは500mmです。

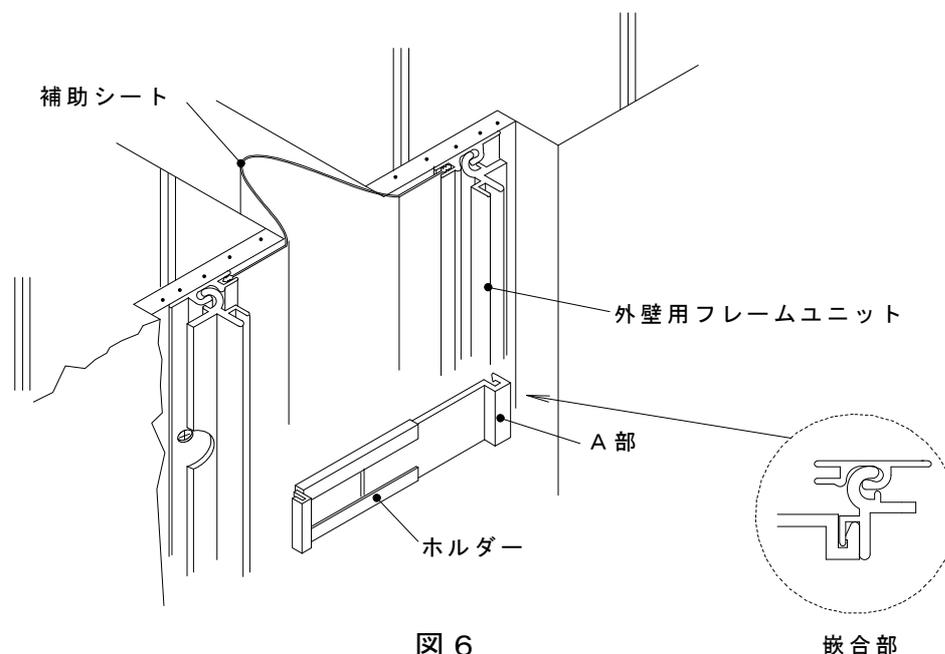


図6

4-2. インカバー、ホルダーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

インカバーと一体になったホルダーユニットのフレームユニットへの取付は、図7のA部（両側）を完全に打ち込みます。必ず両側を打ち込んでください。

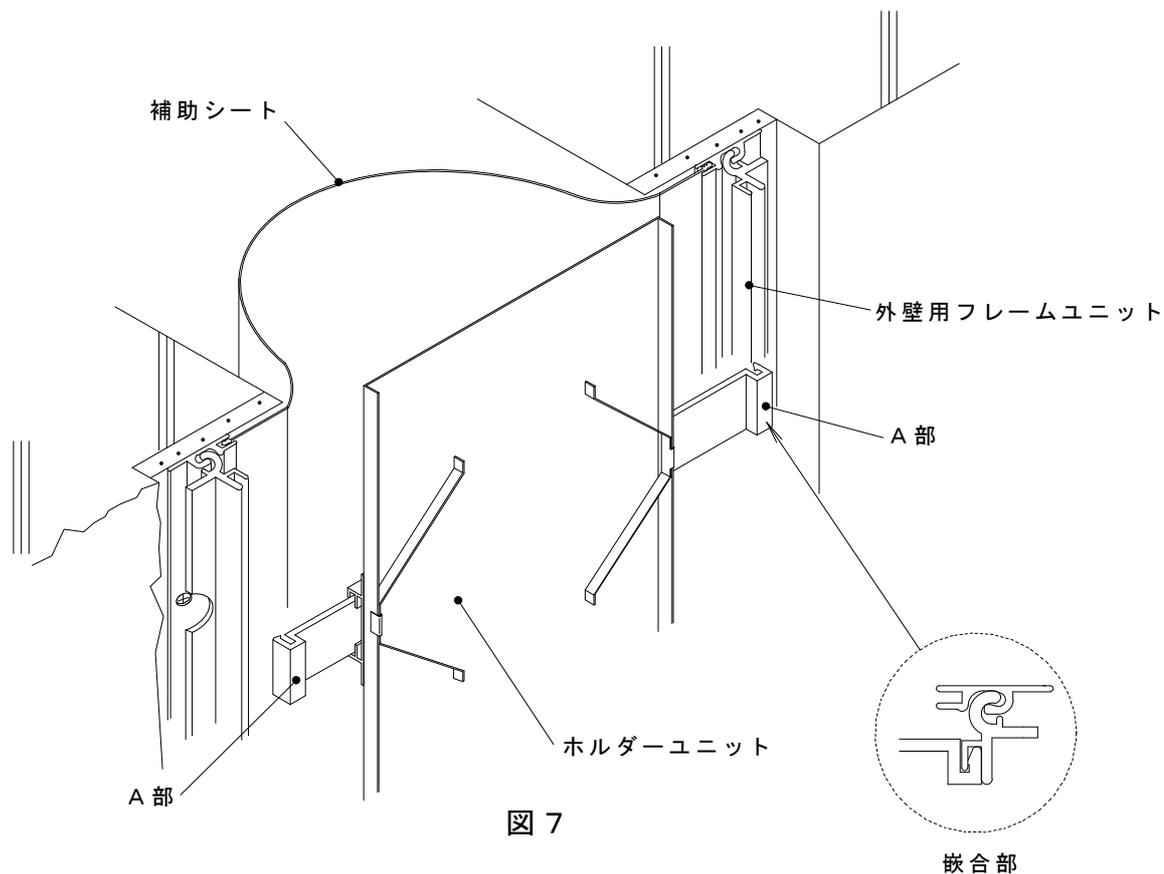


図7

5-1. カバーの取付

カバーは図8のようにインカバーとアウトカバーがあります。まずインカバーをB部に取付ます。

(カバーはジョイントの付いたほうが上です。) SX (ステンレス製) カバーには、取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。AX (アルミ製) カバーは、現場にてカバーをフレームにあてφ3.6下穴加工 (@500mm) を行ってドリルねじで固定します。続いてアウトカバーをインカバーと同じ要領で取付ます。

注) カバーの取付はホルダーのA部をアウトカバー、ホルダーのB部をインカバーとなるように取付て下さい。逆になるとカバーに隙間のできる原因となります。

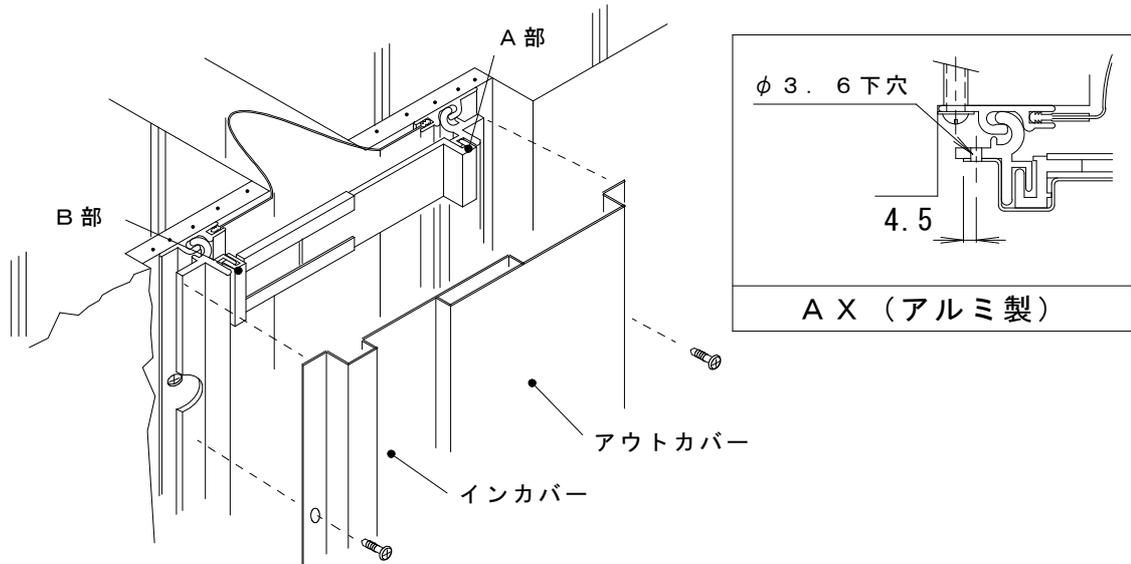


図8

5-2. カバーの取付

※300G (クリアランス300) の場合

アウトカバーを図9に示すように取付ます。カバーには取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。

注) アウトカバーは、図9に示すように①方向からはめ次に②方向へ引っ張るように取付ます。板バネの力によりカバーのズレを防ぎます。

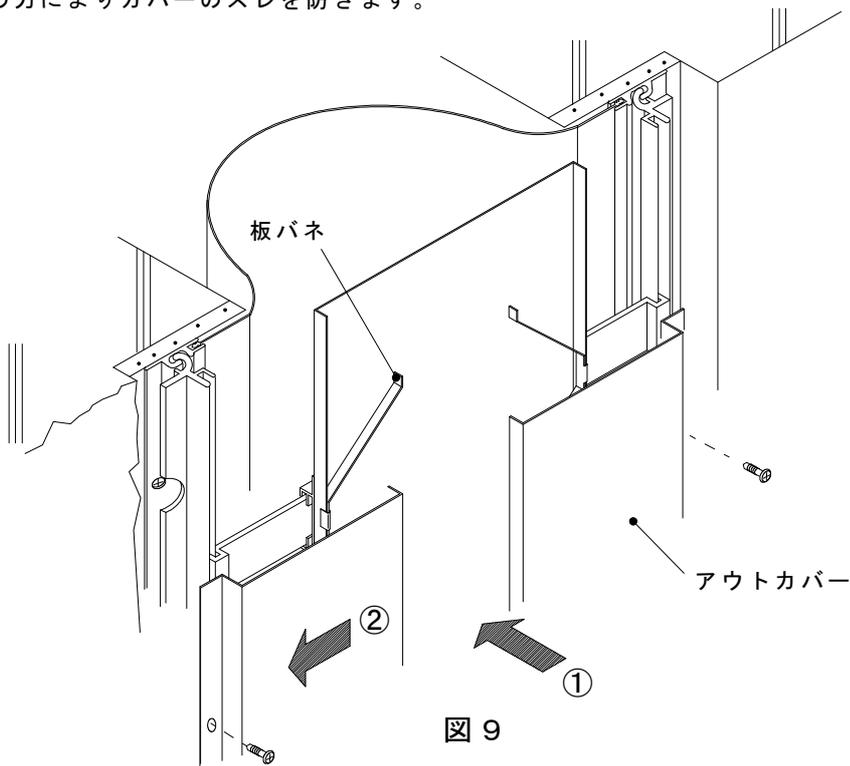
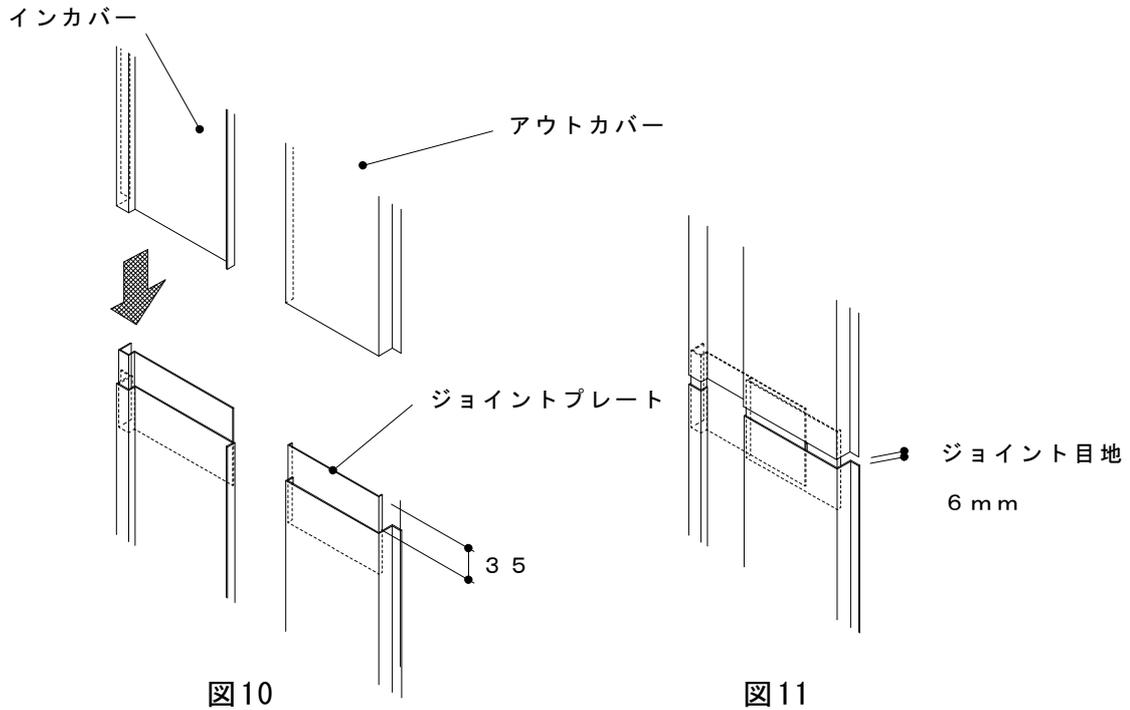


図9

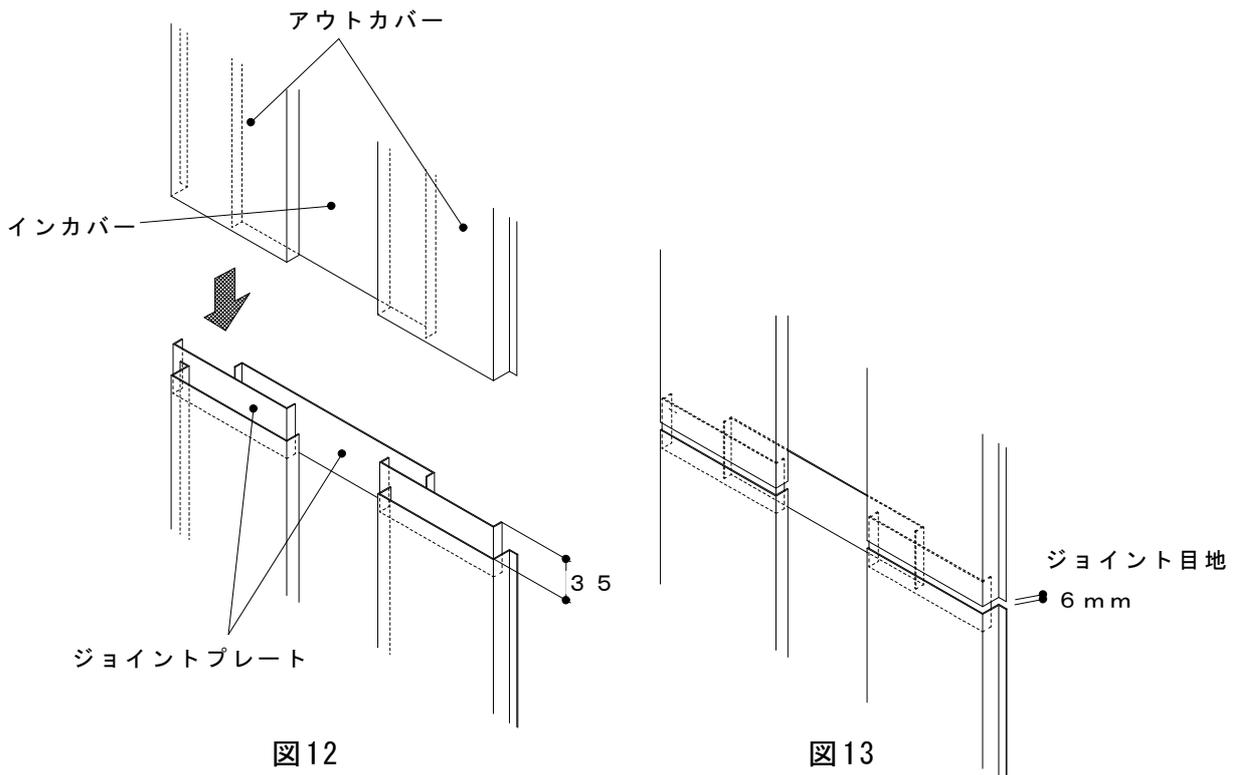
6. カバー接続部の納まり

インカバー、アウトカバーともに接続部には、ジョイントプレートが付いています。(図10, 12) カバー接続部は、ジョイントプレートの上にカバーをかぶせながら取付ていくことにより、通りがでる構造となっています。

注) 外壁用のカバーの接続部は図11, 13に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。



※300G (クリアランス300G) の場合



7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。(図14)

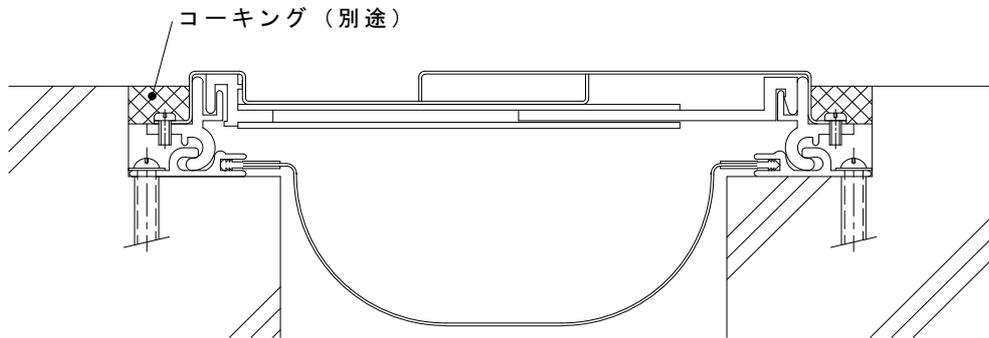


図14

8. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付る前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図15のように折り曲げて22タイプの補助シートと接着します。(接着剤は、別途です。)

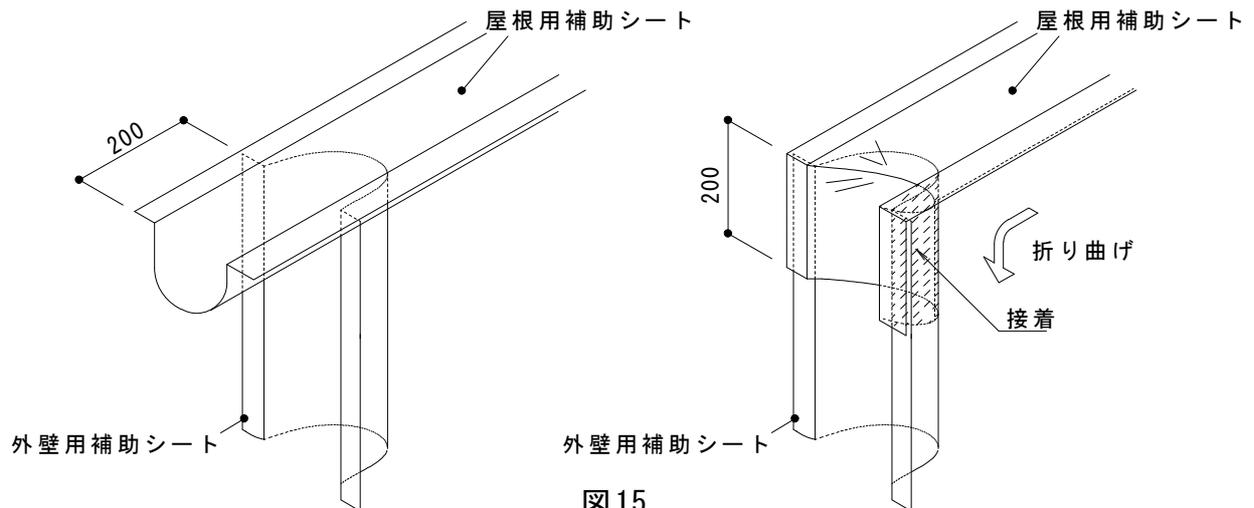


図15

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図16のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

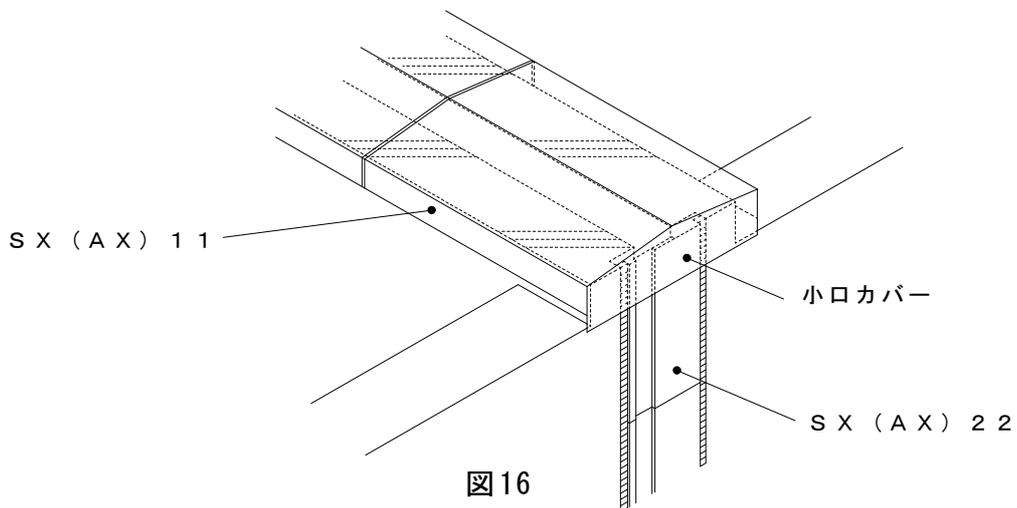


図16

外壁－外壁用SX（AX）22A

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

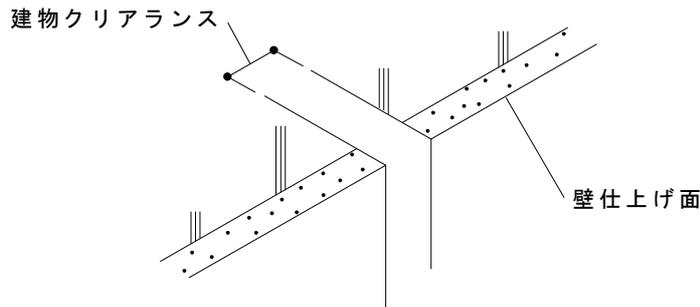


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

外壁フレームユニットを取付けるためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2及び表1を参照して下さい。

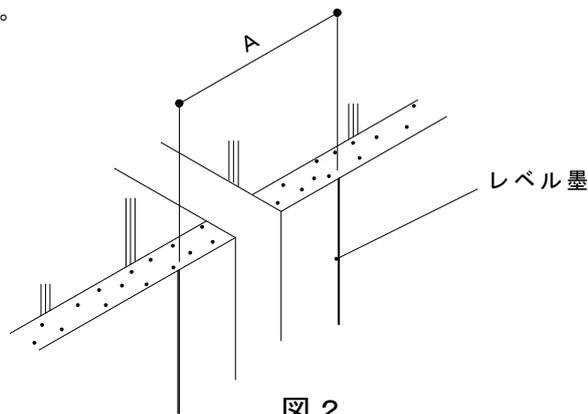


図 2

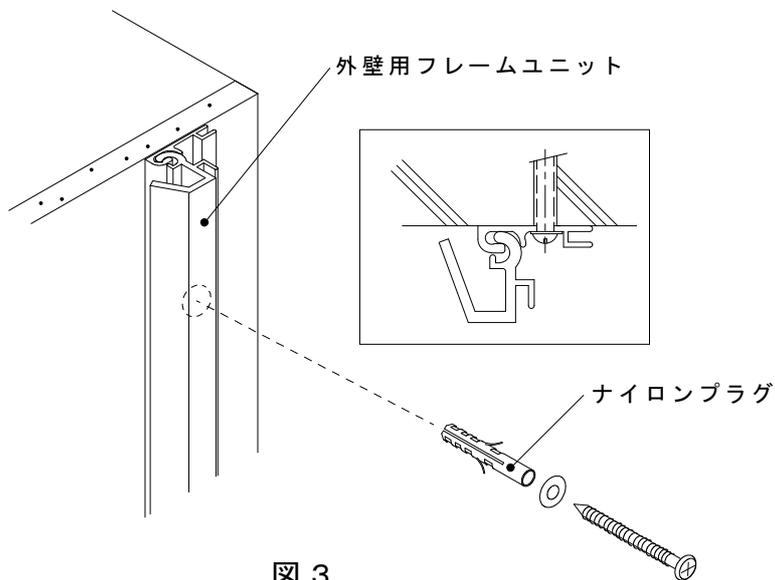
表 1. A寸法表

呼 称	A 寸法
SX22A - 50F	165
SX22A - 100F	316
SX (AX) 22A - 50G	117
- 100G	165
- 150G	241
- 200G	316
- 300G	496

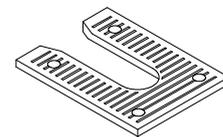
2. 外壁フレームユニットの取付

外壁フレームユニットに従って躯体に、φ6、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。(図3)

(固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。)



レベルアジャストピース
平板タイプ



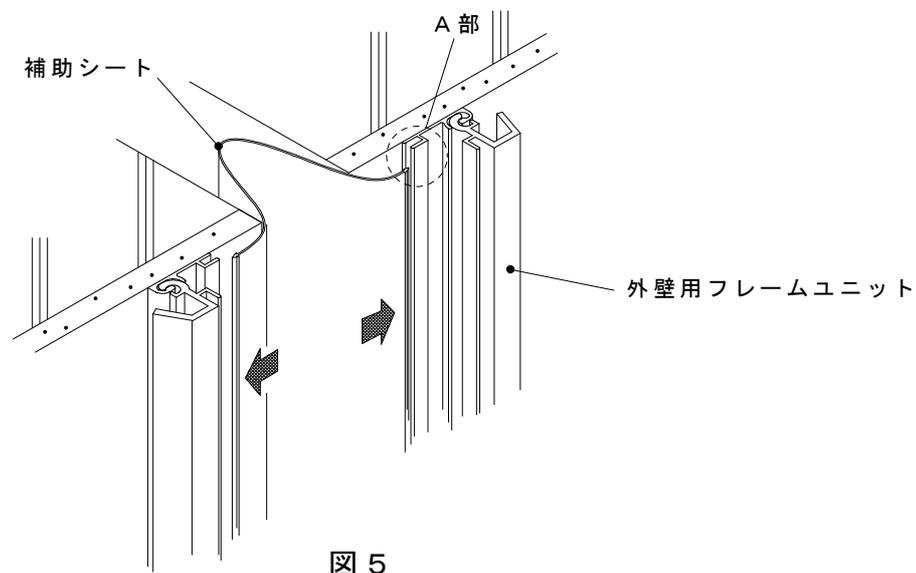
注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース(図4)を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。(図5)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートは、ロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。



4-1. ホルダーの取付

ホルダーは左右非対象の部品です。フレームユニットの取付には、図6のA部を完全に打ち込み固定します。このとき、必ずすべてのホルダーのA部が同じ側になるように取付ます。ホルダーの取付ピッチは500mmです。

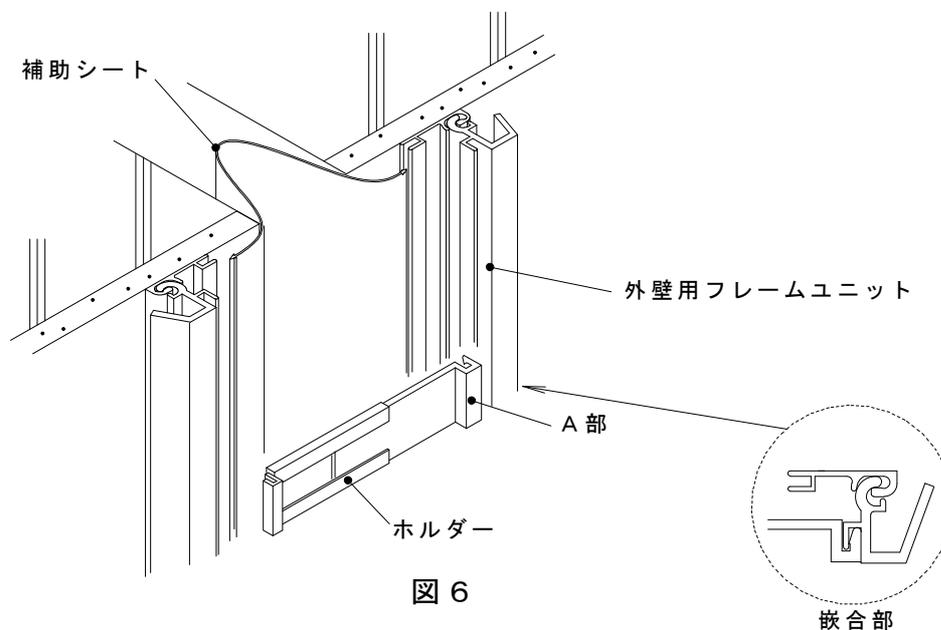


図 6

4-2. インカバー、ホルダーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

インカバーと一体になったホルダーユニットのフレームユニットへの取付は、図7のA部（両側）を完全に打ち込みます。必ず両側を打ち込んでください。

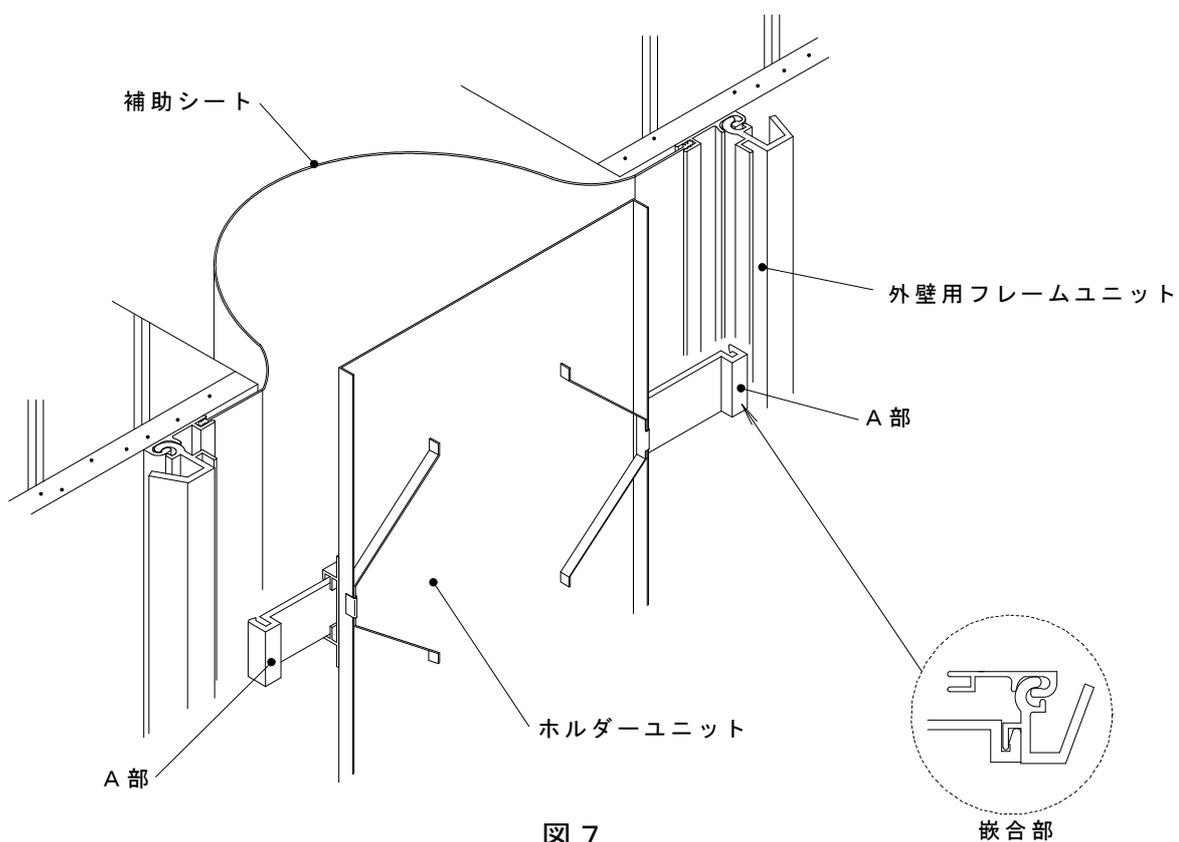


図 7

5-1. カバーの取付

カバーは図8のようにインカバーとアウトカバーがあります。まずインカバーをB部に取付ます。

(カバーはジョイントの付いたほうが上です。) SX (ステンレス製) カバーには、取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。AX (アルミ製) カバーは、現場にてカバーをフレームにあてφ3.6下穴加工 (@500mm) を行ってドリルねじで固定します。続いてアウトカバーをインカバーと同じ要領で取付ます。

注) カバーの取付はホルダーのA部をアウトカバー、ホルダーのB部をインカバーとなるように取付して下さい。逆になるとカバーに隙間のできる原因となります。

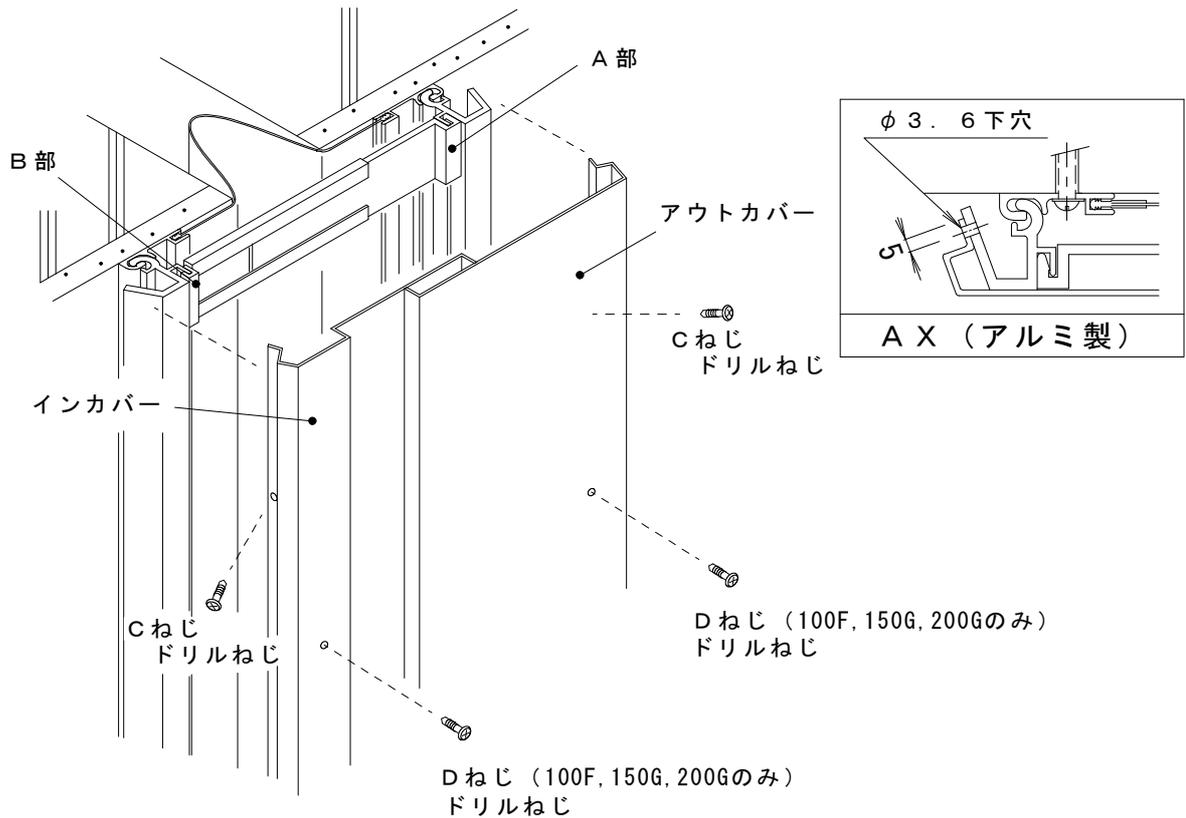


図8

※ねじ止めについて

SX・AX 22A-100F, 150G, 200Gについては、Cねじに加えDねじも固定して下さい。SX (ステンレス製) カバーには、Dねじ取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。AX (アルミ製) カバーは、現場にてφ3.6下穴加工 (4ヶ所/3m) を行いドリルねじで固定して下さい。(図9)

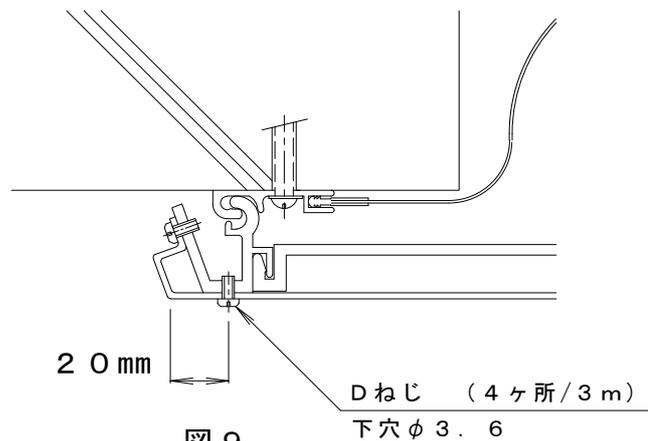


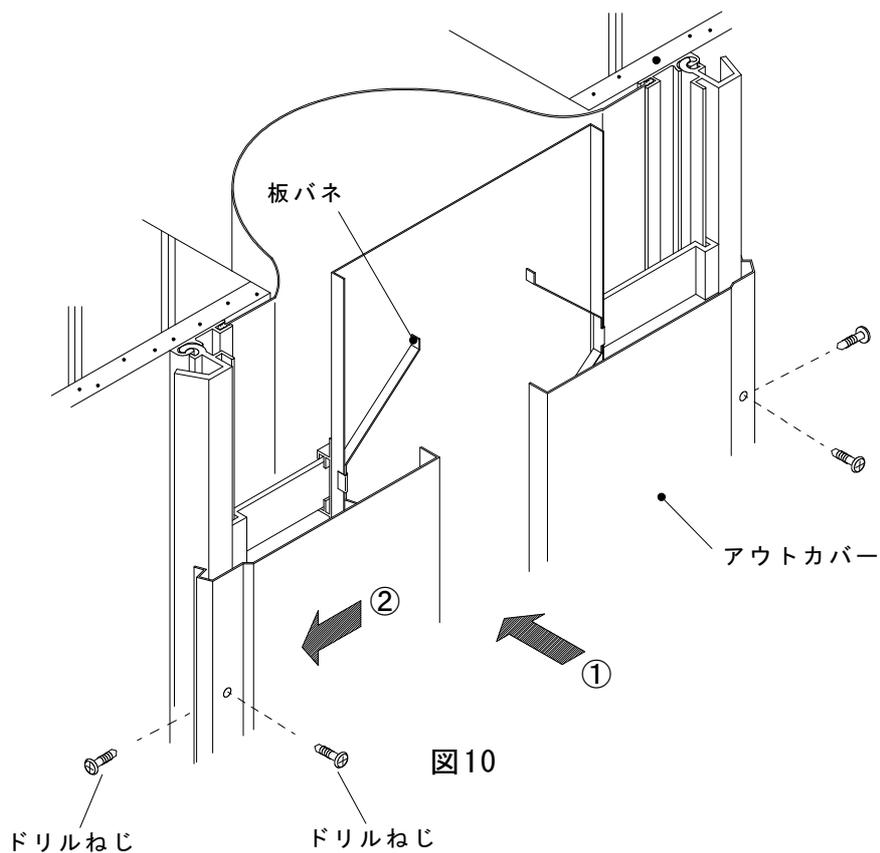
図9

5-2. カバーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

アウトカバーを図10に示すように取付ます。カバーには取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にして各々ねじで固定します（4ヶ所）。

注）アウトカバーは、図10に示すように①方向からはめ次に②方向へ引っ張るように取付ます。板バネの力によりカバーのズレを防ぎます。



6. カバー接続部の納まり

インカバー、アウトカバーともに接続部には、ジョイントプレートが付いています。(図11,13) カバー接続部は、ジョイントプレートの上にカバーをかぶせながら取付ていくことにより、通りがでる構造となっています。

注) 外壁用のカバーの接続部は図12,14に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

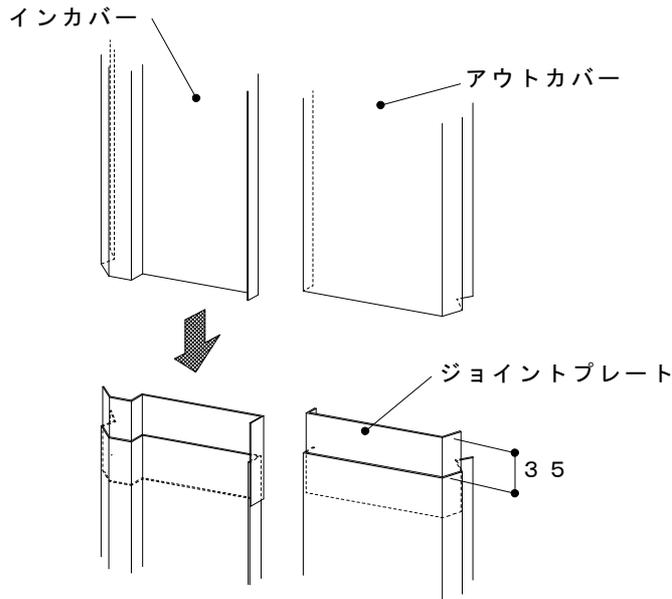


図11

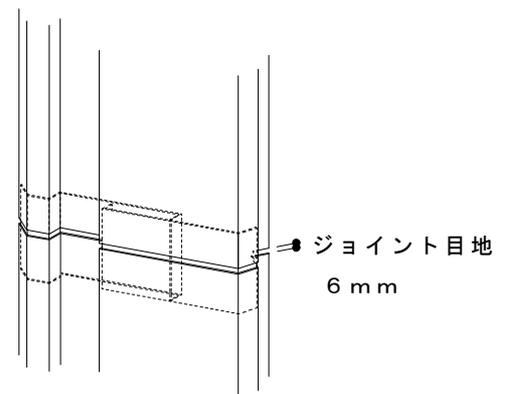


図12

※SX22A-300G (クリアランス300G) の場合

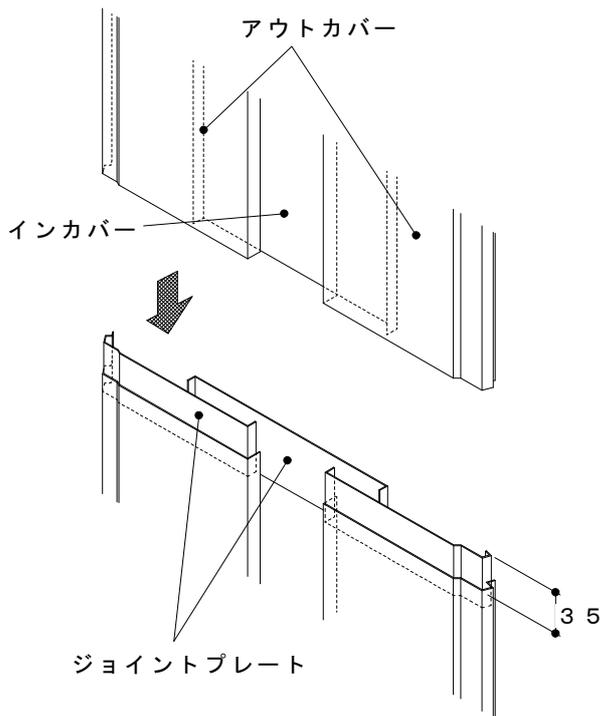


図13

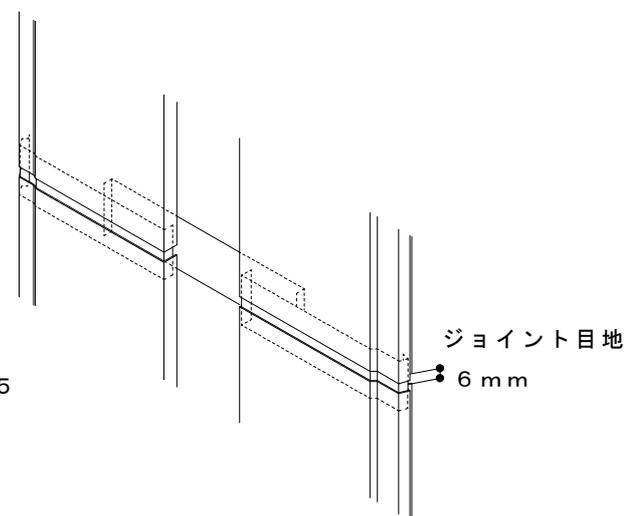


図14

7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。(図15)

コーキング(別途)

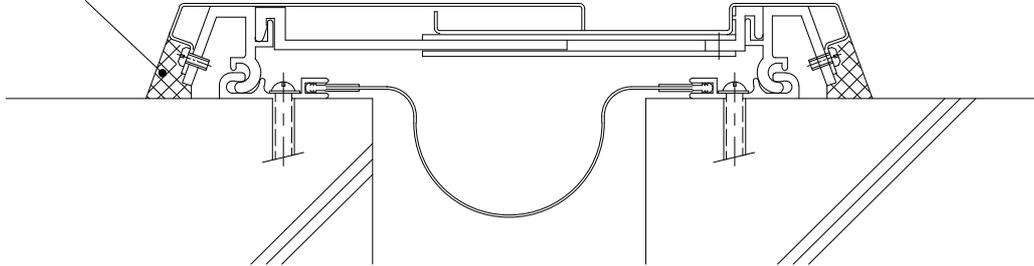


図15

8. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付る前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図16のように折り曲げて22タイプの補助シートと接着します。(接着剤は、別途です。)

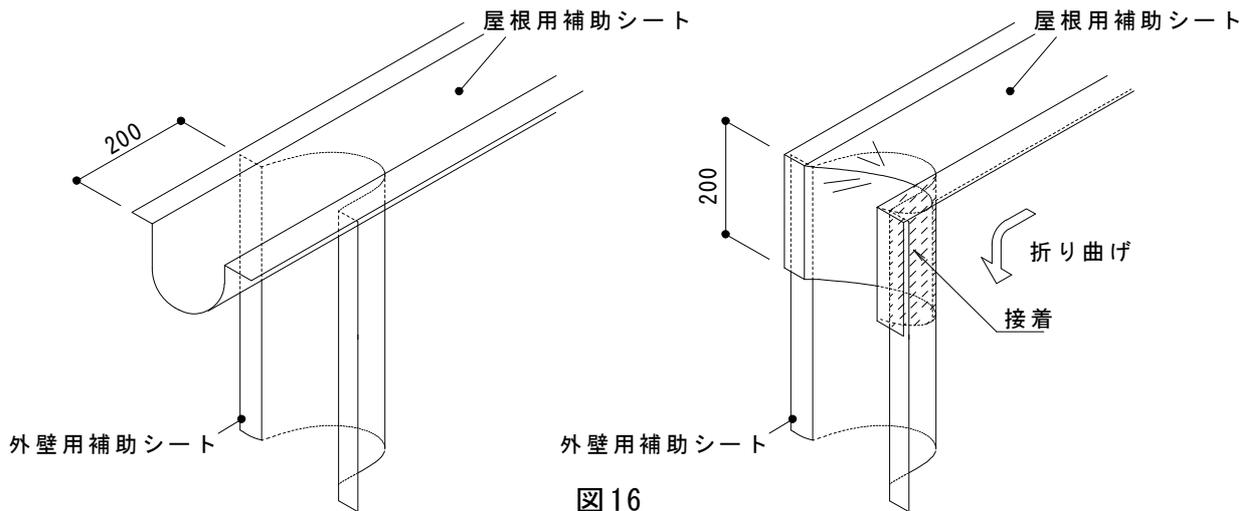


図16

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図17のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

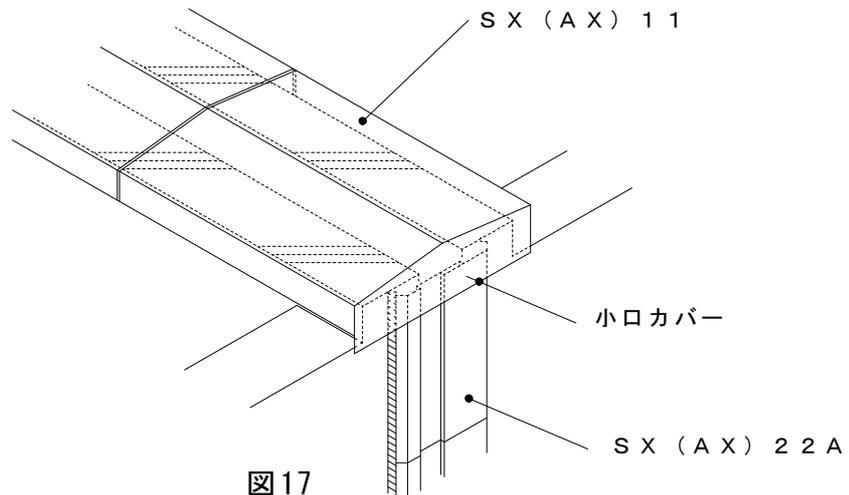


図17

外壁—外壁用SX (AX) 22AE

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

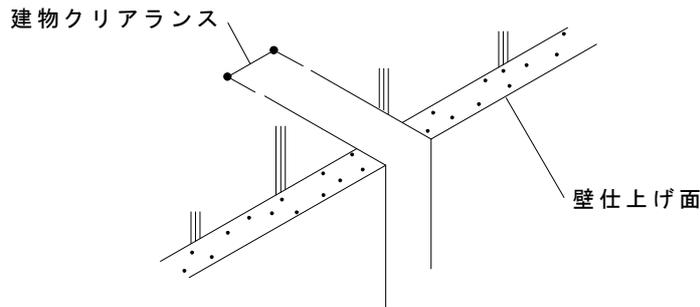


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

外壁フレームを取付するためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2及び表1を参照して下さい。

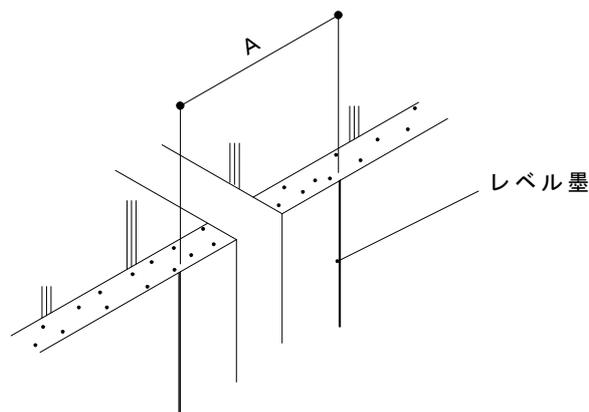


図 2

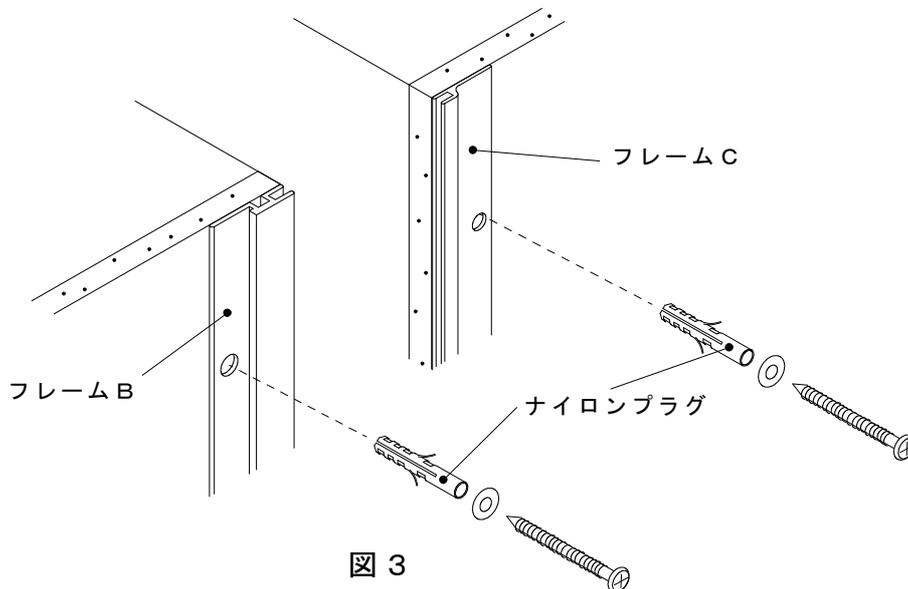
表 1. A寸法表

呼 称	A 寸法
SX (AX) 22AE-50G	110
-100G	160
-150G	210
-200G	260

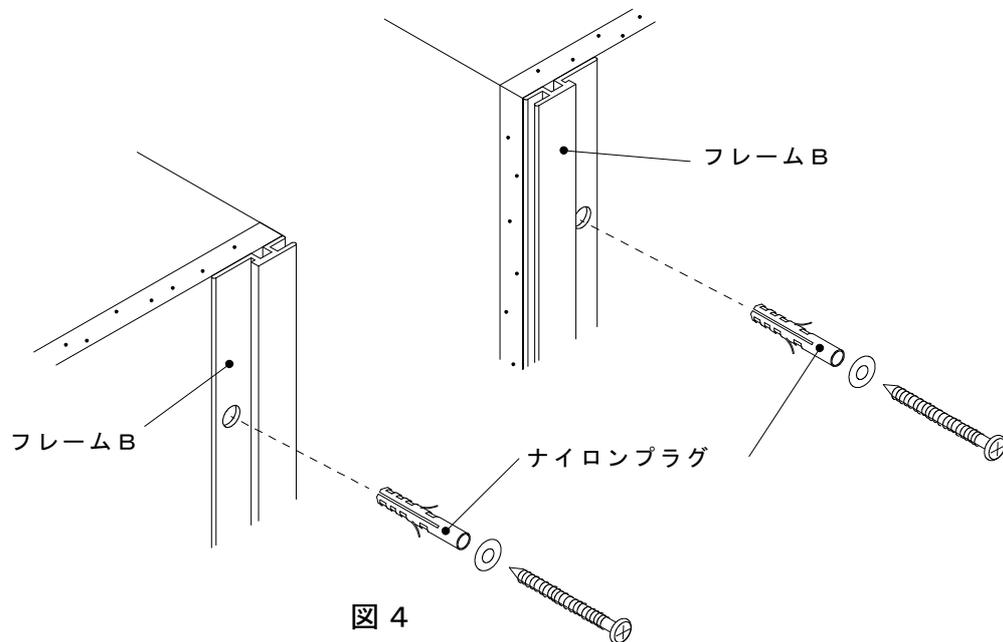
2. フレームの取付

フレームB、Cに従って躯体に、 $\phi 8$ 、深さ60mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。(図3、4)

(固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。)



22AE-50G, 100G



22AE-150G, 200G

注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。(図6)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートは、ロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

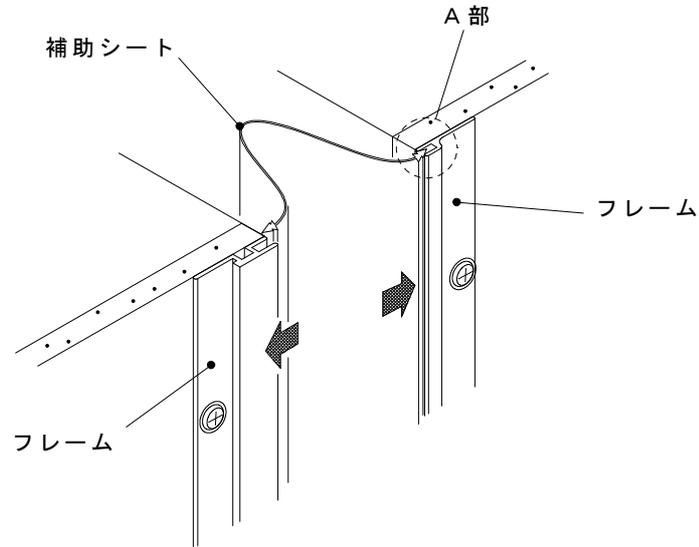


図6

4. ホルダーの取付

ホルダーは、フレームBに端部(A部)をはめ込み、M4×10のドリルねじで50G, 100Gは2ヶ所・150G, 200Gは、4ヶ所固定します。(図7, 8)

ホルダーの取付ピッチは500mmです。

※カバーは、ホルダーにねじ止めして取付けるためホルダー位置が分かるよう躯体にマーキングしておきます。

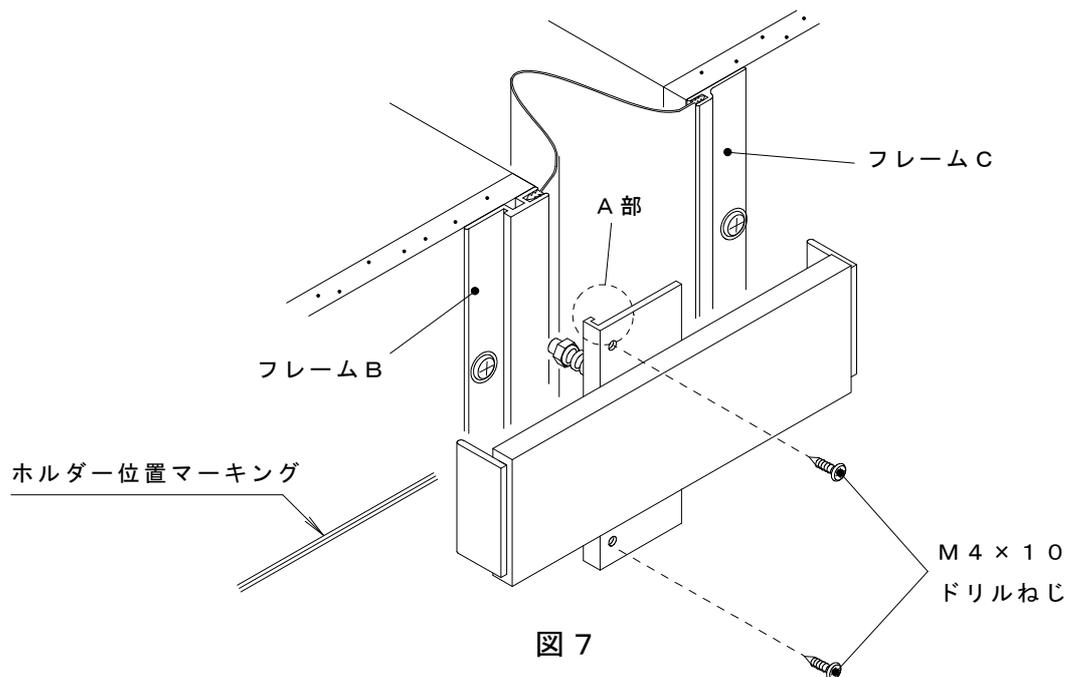


図7

22AE-50G, 100G

22AE-3

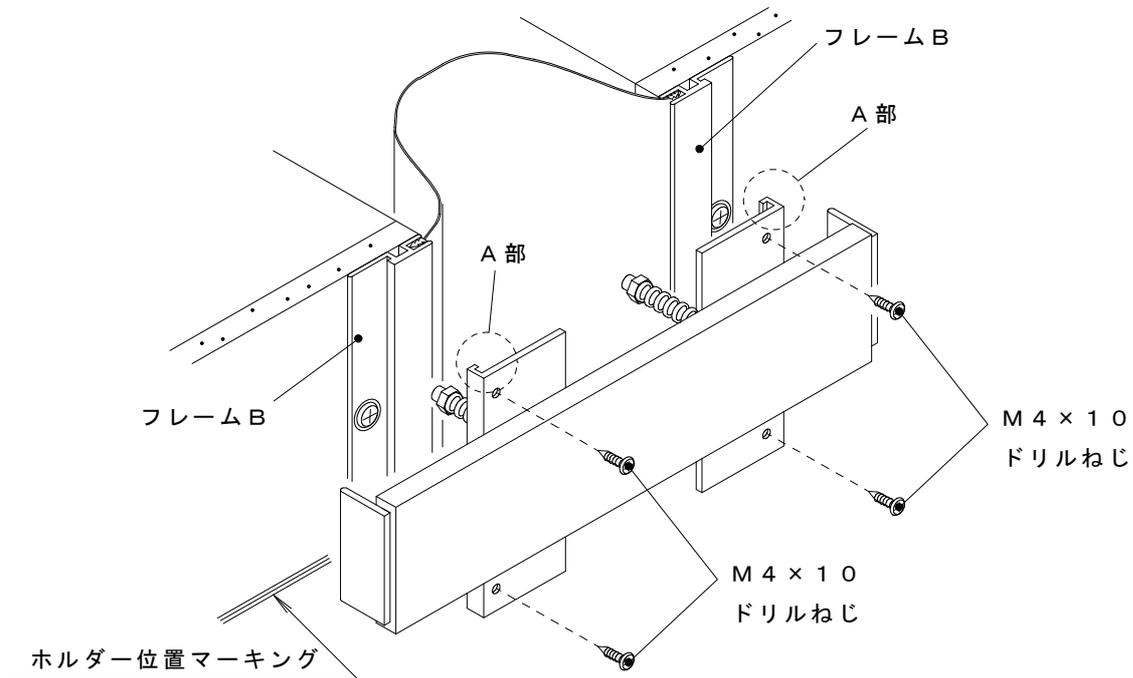
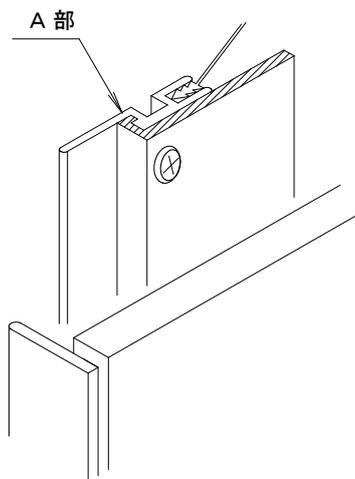


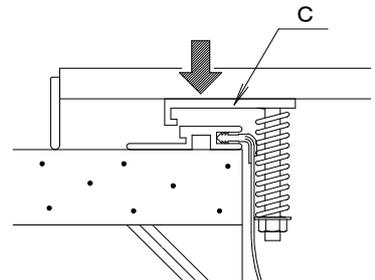
図 8

22AE-150G, 200G

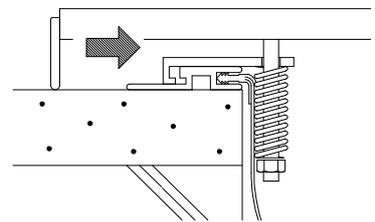
※ホルダーのA部取付詳細について（図9）



- ①ホルダーの足を躯体に当てホルダーC部をフレーム側に押す。



- ②ホルダーC部をフレームの溝側にスライドさせる。



- ③M4 x 10のドリルねじでフレームに固定する。

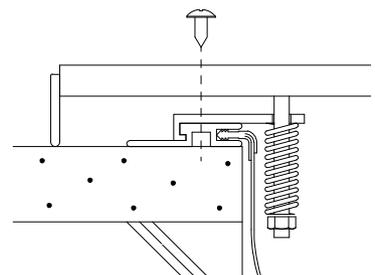


図 9

22AE-4

5. カバー取付

カバーは、図10のようにホルダーにあてφ3.6下穴加工 (@500mm) を行って各々ねじで固定します。(カバーはジョイントが付いたほう上です。)

※カバーを被せた後は、先に躯体に付けたマーキングでホルダー位置を判断します。

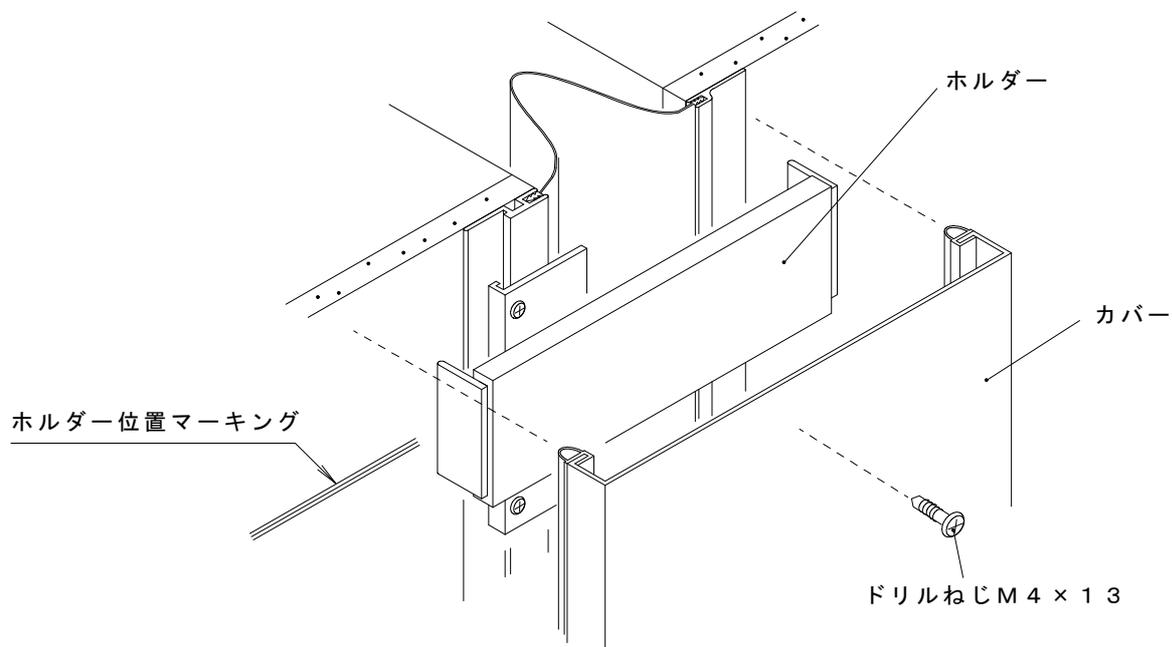


図10

※ねじ止めについて

22AE-50G, 100G

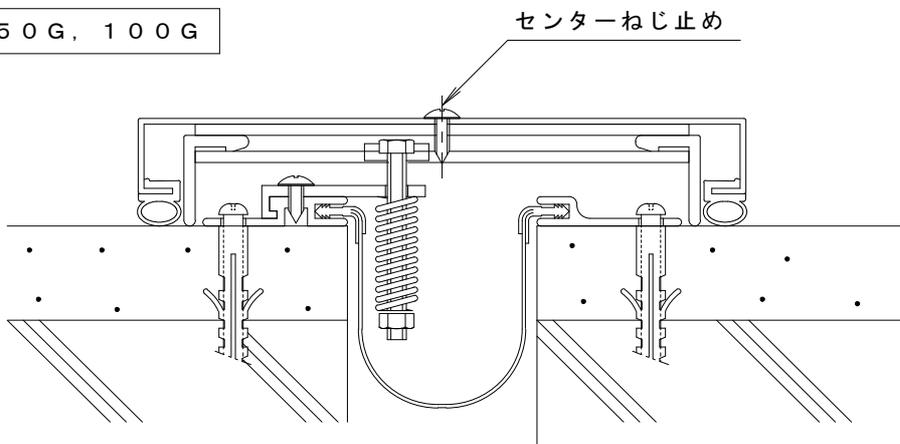


図11

22AE-150G, 200G

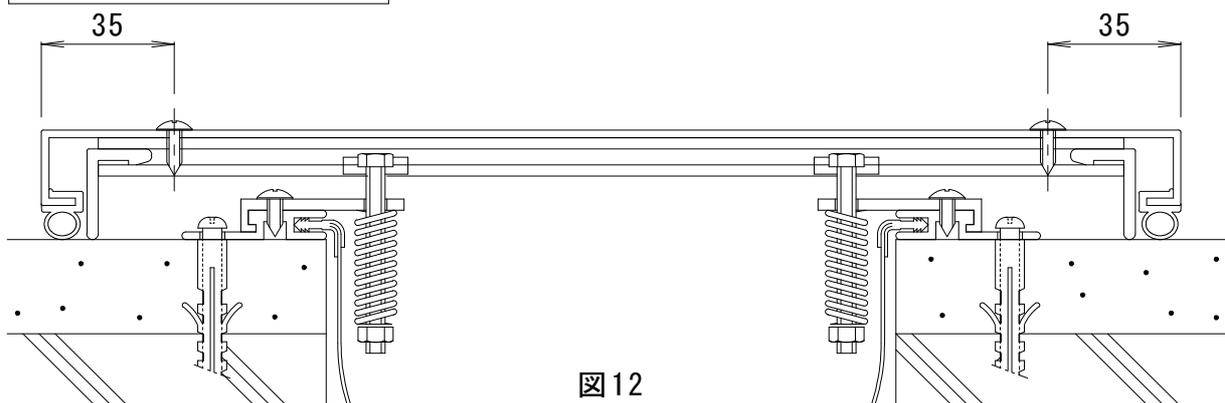


図12

22AE-5

6. カバー接続部の納まり

カバーの接続部には、ジョイントプレートが付いています。(図13) カバーの接続は、ジョイントプレートにカバーをスライドさせ差し込んで取付けていくことにより、通りがでる構造となっています。

注) 外壁用のカバーの接続部は図14に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

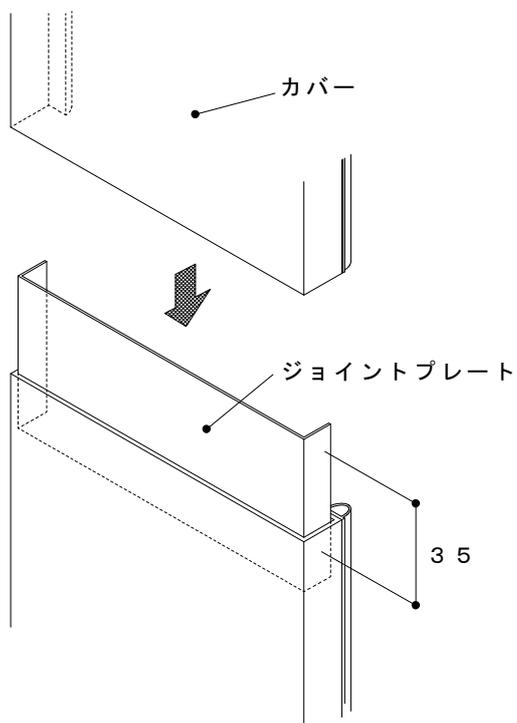


図13

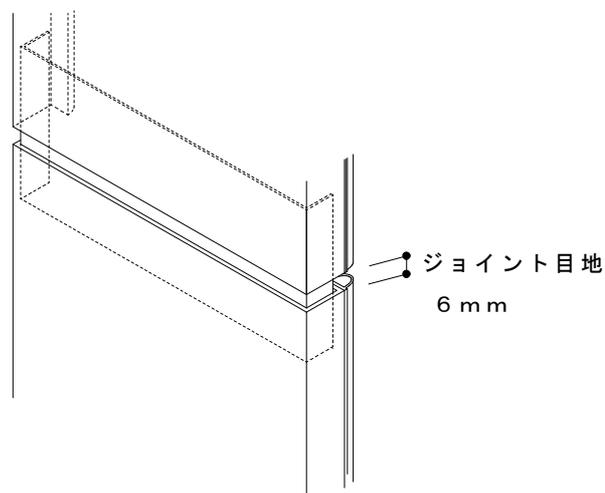


図14

7. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付る前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図15のように折り曲げて22タイプの補助シートと接着します。
(接着剤は、別途です。)

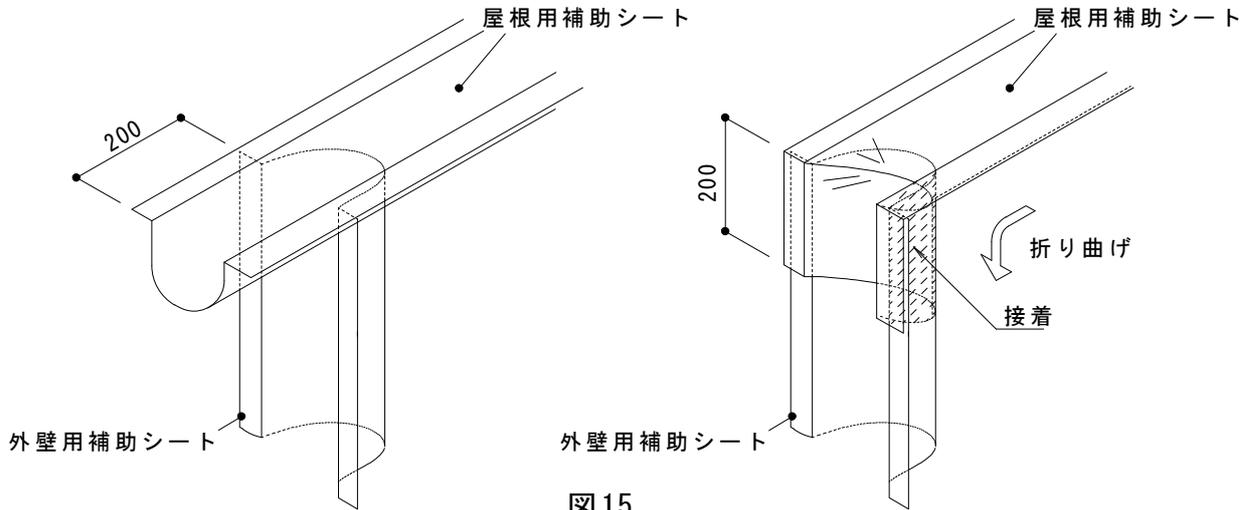


図15

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図16のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

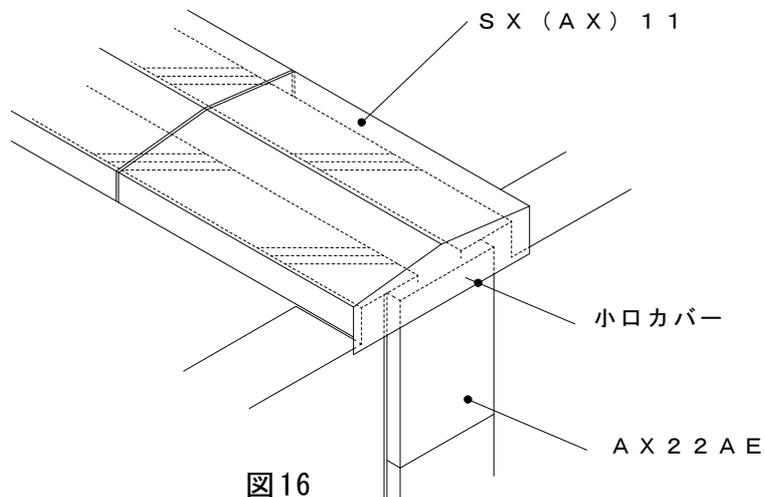


図16

外壁－外壁コーナ-用S X (A X) 2 3

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1,表1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

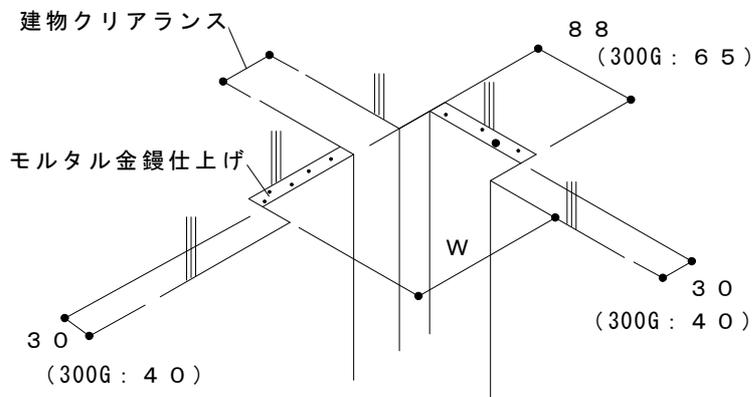


図 1

表 1. W寸法表

呼 称	W寸法
SX23 - 50F	204
SX23 - 100F	354
SX (AX) 23 - 50G	130
- 100G	204
- 150G	279
- 200G	354
- 300G	535

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2及び表2を参照して下さい。

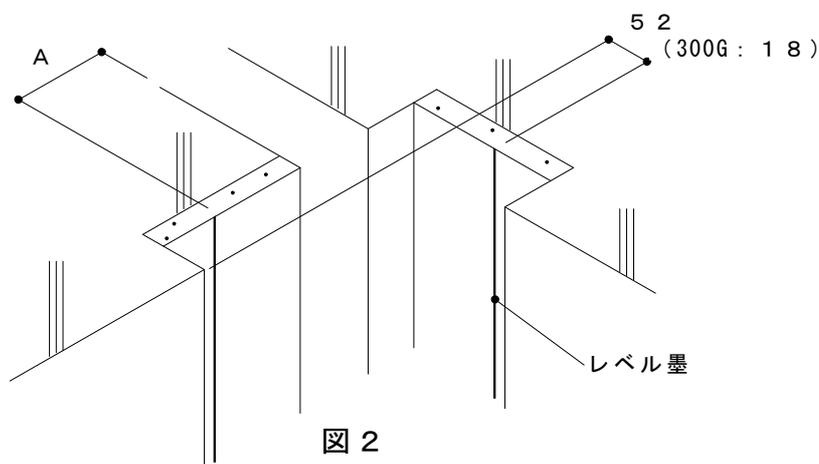


図 2

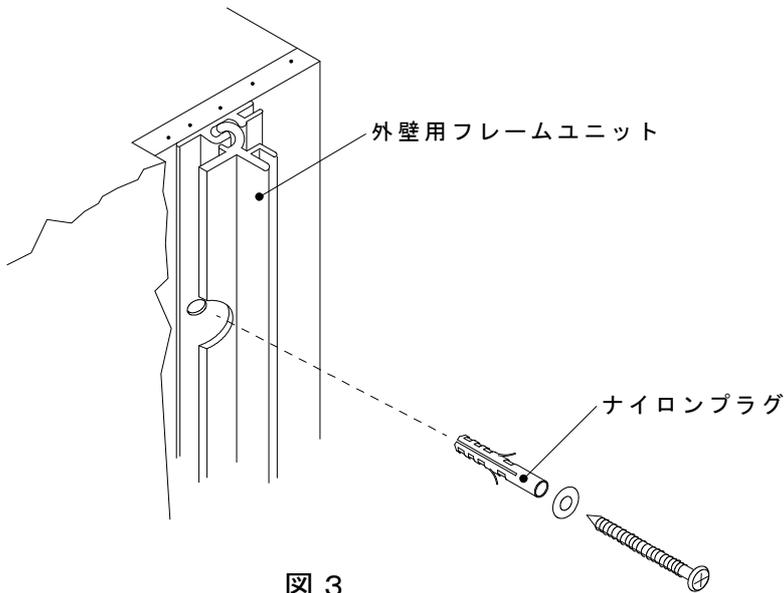
表 2. A寸法表

呼 称	A寸法
SX23 - 50F	148
SX23 - 100F	248
SX (AX) 23 - 50G	74
- 100G	98
- 150G	123
- 200G	148
- 300G	227

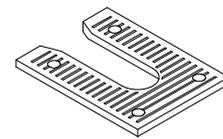
2. 外壁フレームユニットの取付

外壁フレームユニットに従って躯体に、φ6、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。(図3)

(固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。)



レベルアジャストピース
平板タイプ



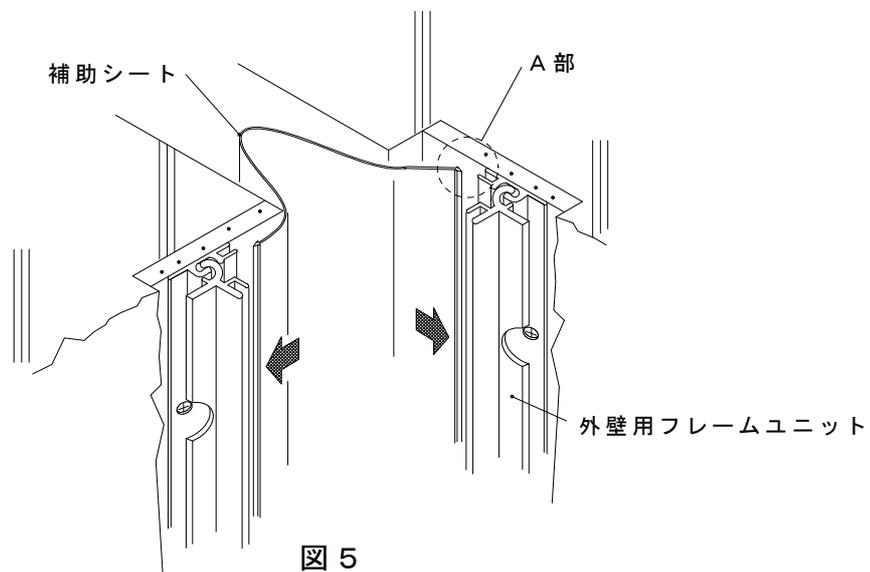
注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース(図4)を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。(図5)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートはロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。



4-1. ホルダーの取付

ホルダーは左右非対象の部品です。フレームユニットの取付には、図6のA部を完全に打ち込み固定します。このとき、必ずすべてのホルダーのA部が同じ側になるように取付ます。ホルダーの取付ピッチは500mmです。

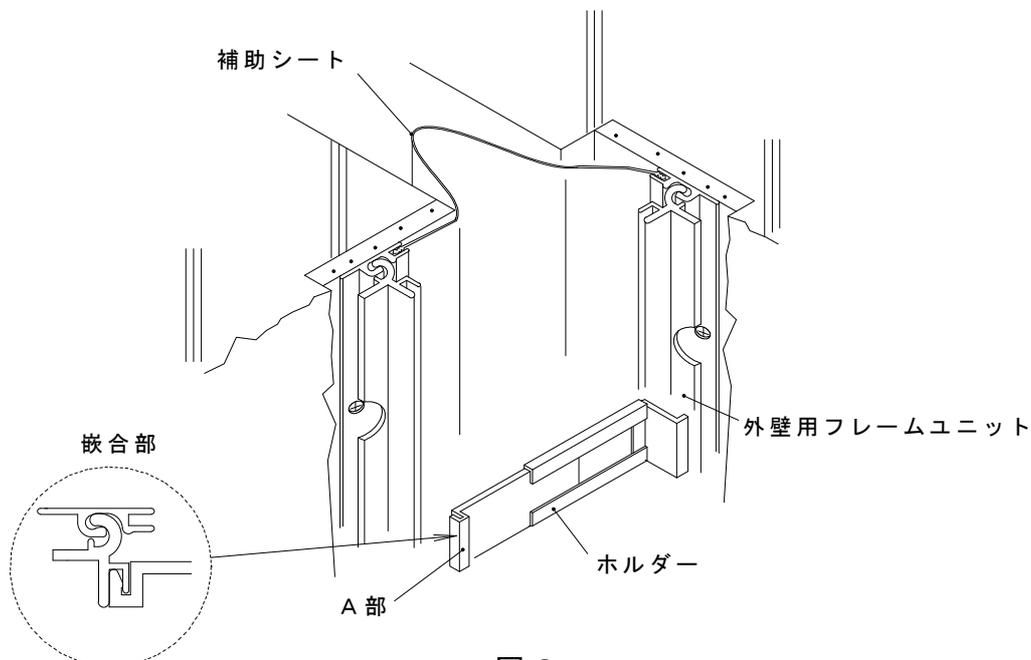


図6

4-2. インカバー、ホルダーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

インカバーと一体になったホルダーユニットのフレームユニットへの取付は、図7のA部（両側）を完全に打ち込みます。必ず両側を打ち込んでください。

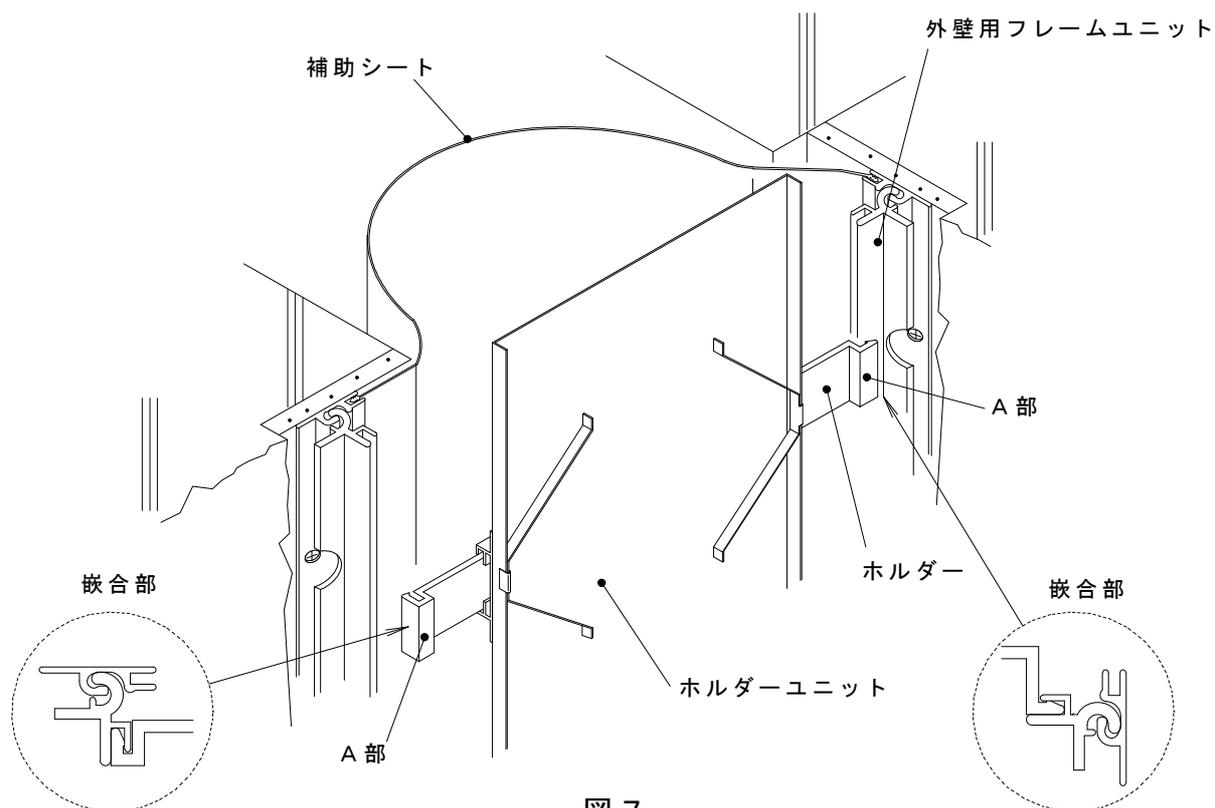
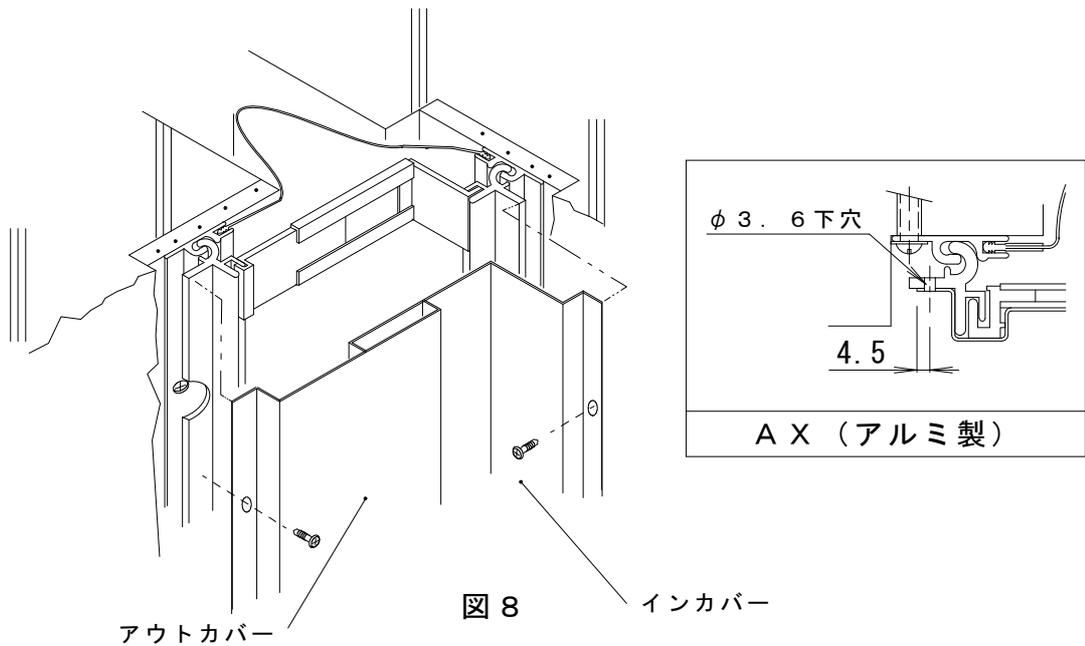


図7

5-1. カバーの取付

カバーは図8のようにインカバーとアウトカバーがあります。まずインカバーを取付ます。

(カバーはジョイントの付いたほうが上です。) SX (ステンレス製) カバーには、取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。AX (アルミ製) カバーは、現場にてカバーをフレームにあてφ3.6下穴加工 (@500mm) を行ってドリルねじで固定します。続いてアウトカバーをインカバーと同じ要領で取付ます。

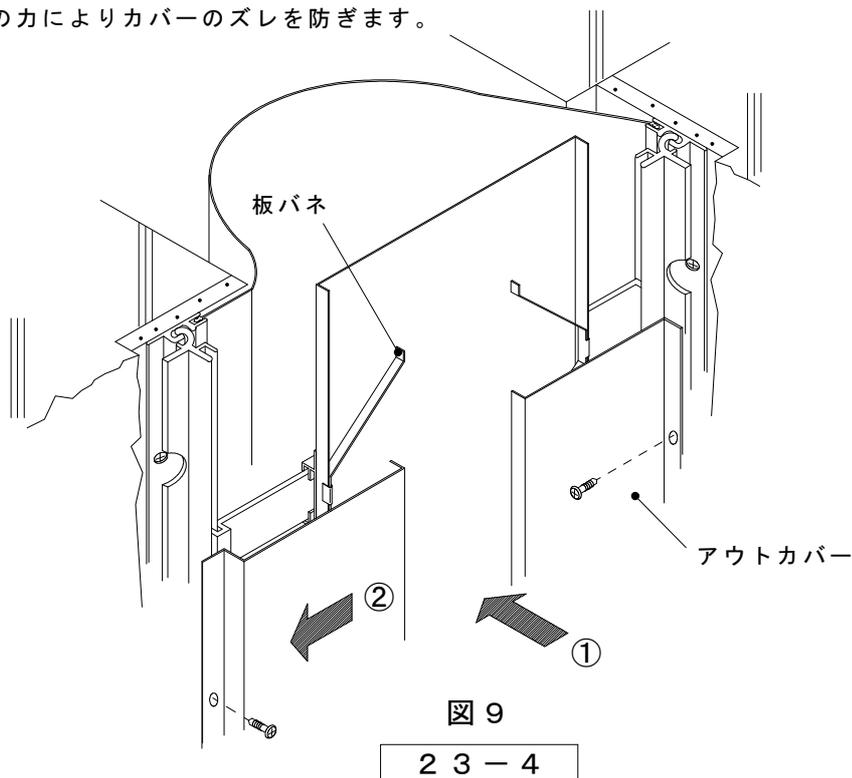


5-2. カバーの取付

※300G (クリアランス300) の場合

アウトカバーを図9に示すように取付ます。カバーには取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。

注) アウトカバーは、図9に示すように①方向からはめ次に②方向へ引っ張るように取付ます。板バネの力によりカバーのズレを防ぎます。



6. カバー接続部の納まり

インカバー、アウトカバーともに接続部には、ジョイントプレートが付いています。(図10, 12) カバー接続部は、ジョイントプレートの上にカバーをかぶせながら取付ていくことにより、通りがでる構造となっています。

注) 外壁用のカバーの接続部は図11, 13に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

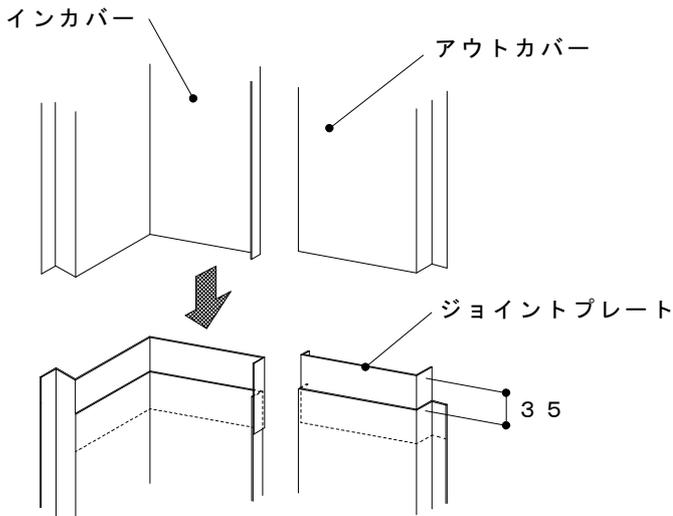


図10

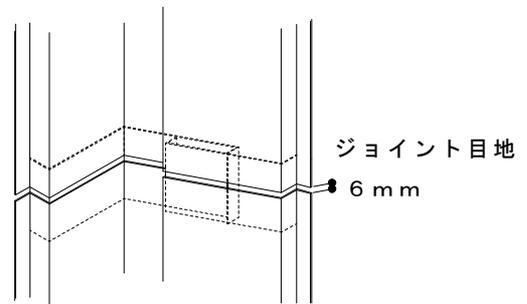


図11

※300G (クリアランス300) の場合

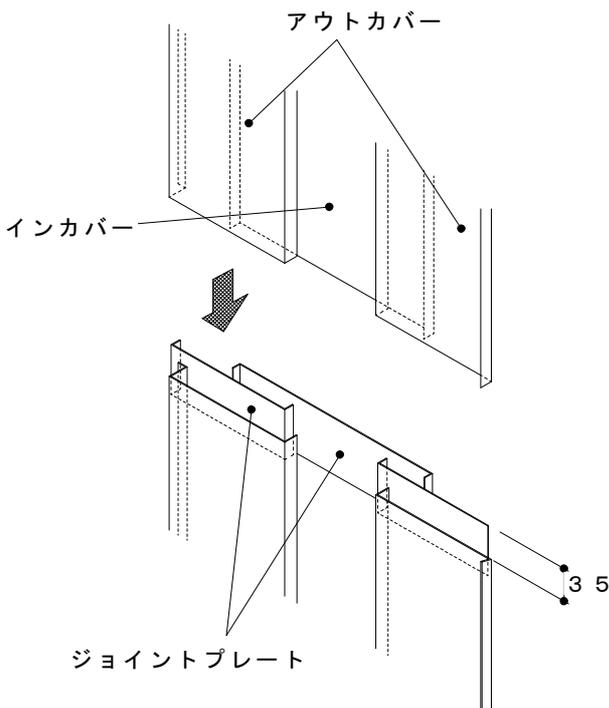


図12

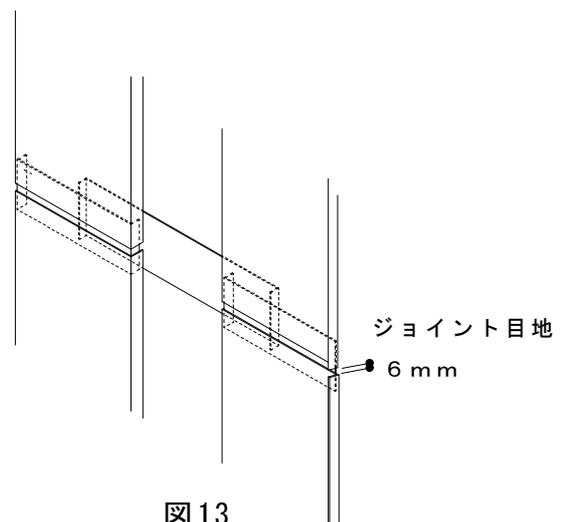


図13

7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。(図14)

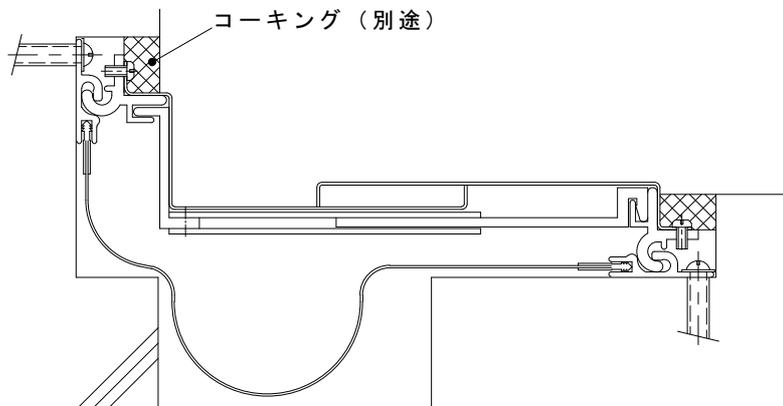


図14

8. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付る前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図15のように折り曲げて23タイプの補助シートと接着します。(接着剤は、別途です。)

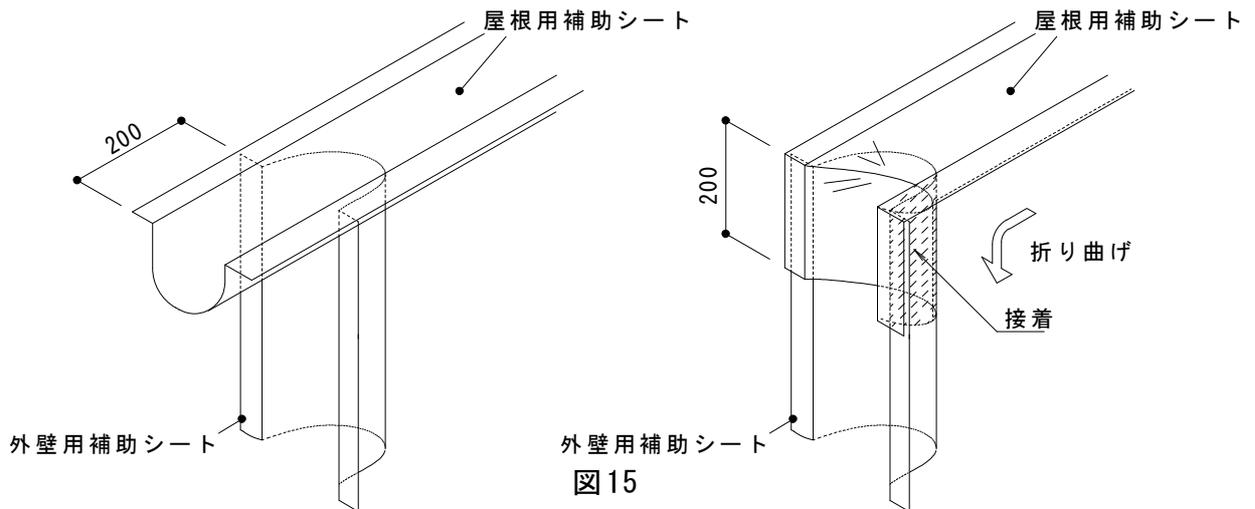


図15

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図16のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

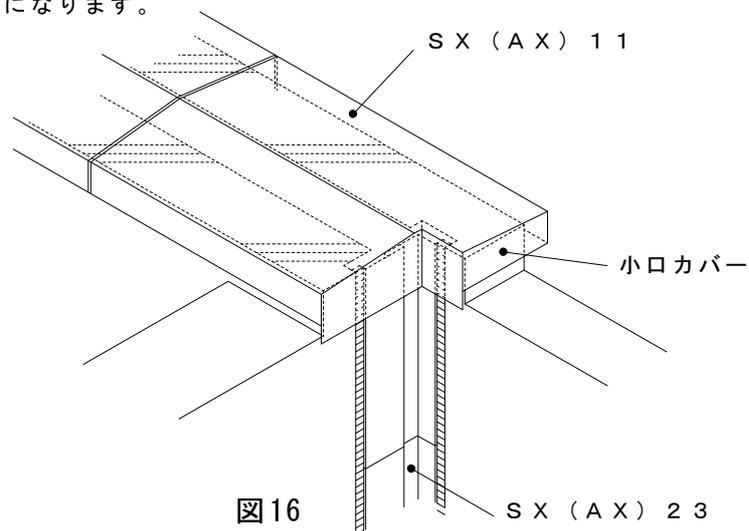


図16

外壁—外壁コーナ-用SX (AX) 23A

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

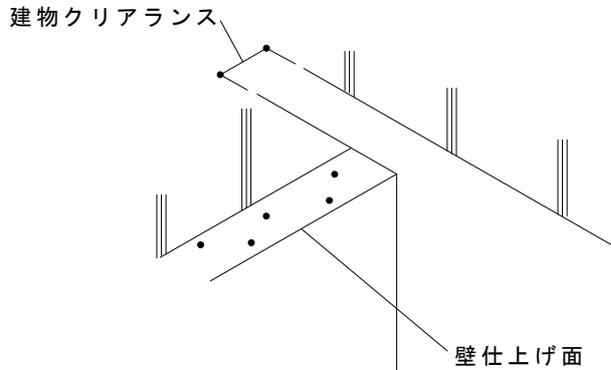


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1-1. レベル墨打ち

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2及び表1を参照して下さい。

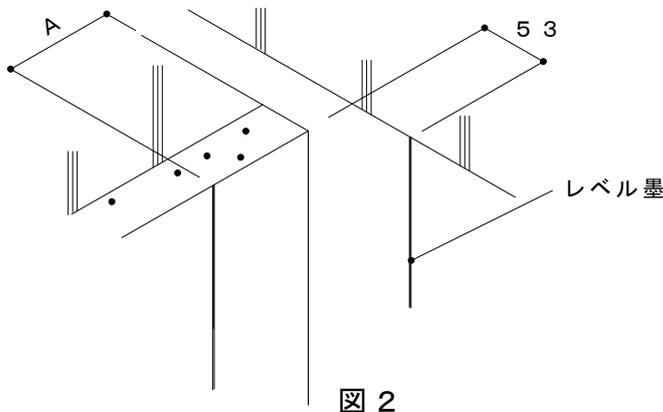


図 2

表 1. A寸法表

呼 称	A 寸法
SX23A — 50F	148
SX23A — 100F	248
SX (AX) 23A — 50G	92
— 100G	98
— 150G	124
— 200G	148

1-2. レベル墨打ち

※300G（クリアランス300）の場合

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。（図3）

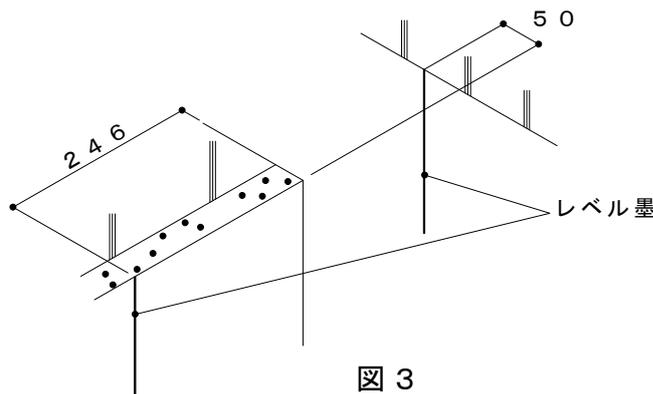


図 3

2-1. 外壁フレームユニットの取付

外壁フレームユニットに従って躯体に、 $\phi 6$ 、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（図4）
（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）

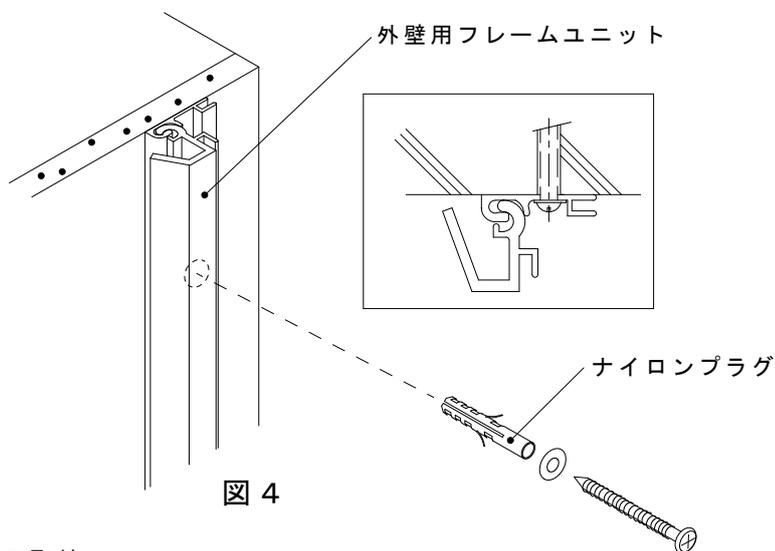


図4

2-2. 外壁フレームユニットの取付

※300G（クリアランス300）の場合

図5に示すように外壁フレームユニット1に従って躯体に、 $\phi 6$ 、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）

外壁フレームユニット2に従って躯体に、 $\phi 8.5$ 、深さ60mmの下穴をあけます。次に付属のオールアンカー（M8×50）で固定します。

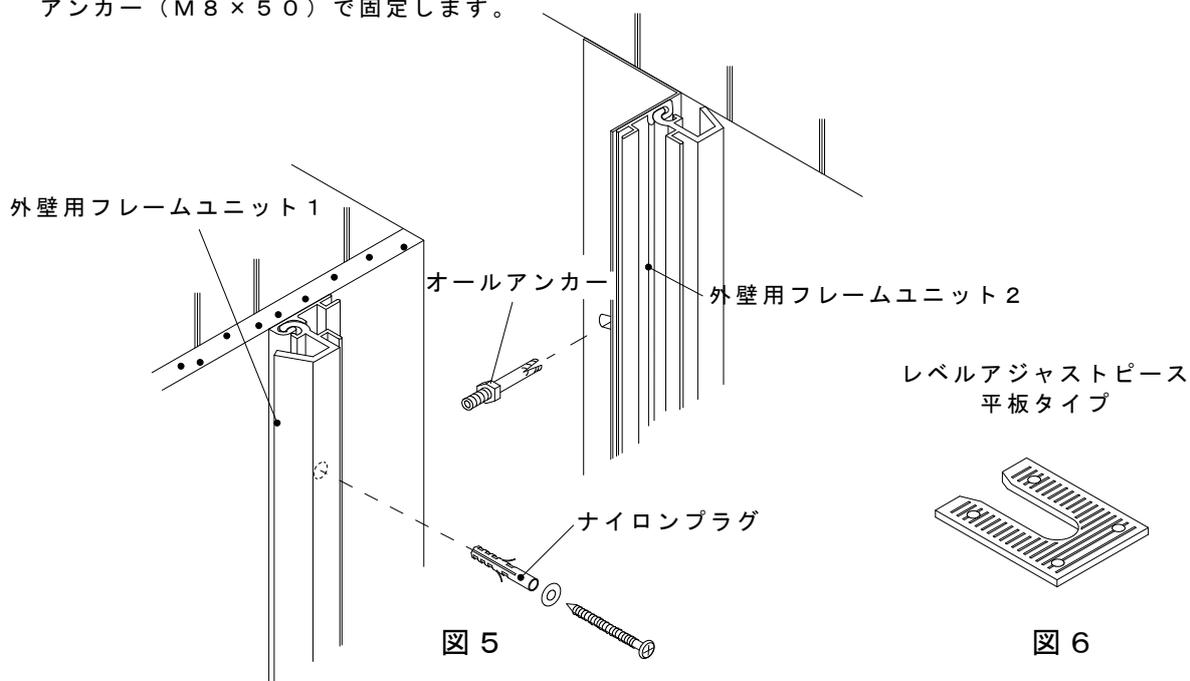


図5

図6

注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース（図6）を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。(図6, 7)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートはロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

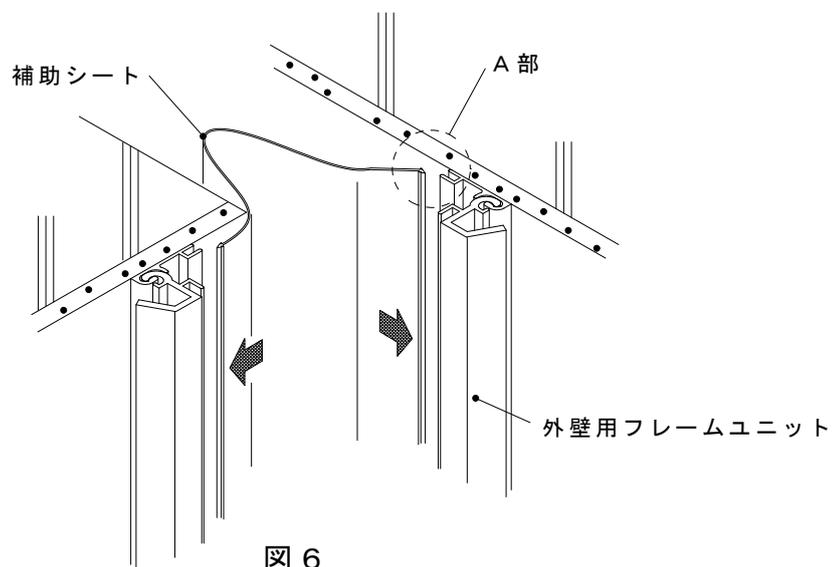


図 6

※300G (クリアランス300) の場合

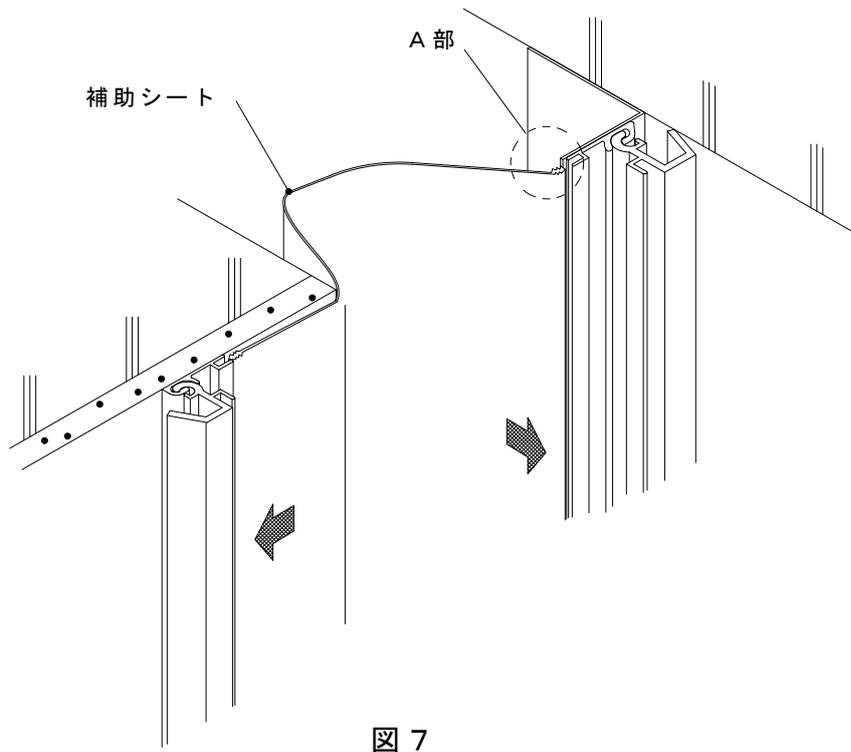
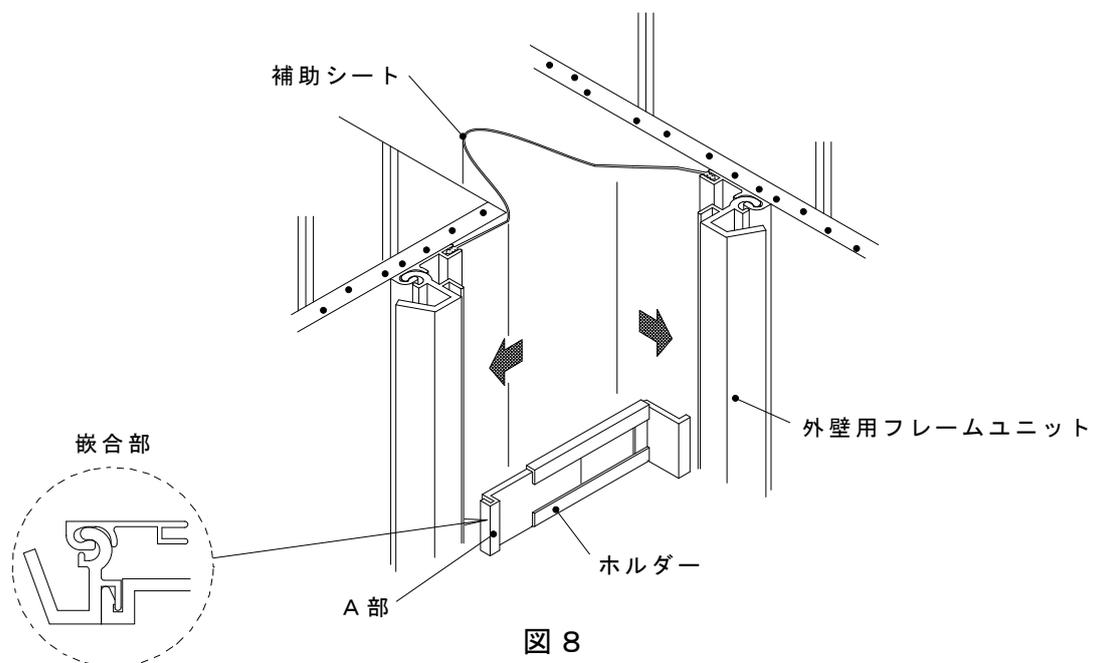


図 7

4-1. ホルダーの取付

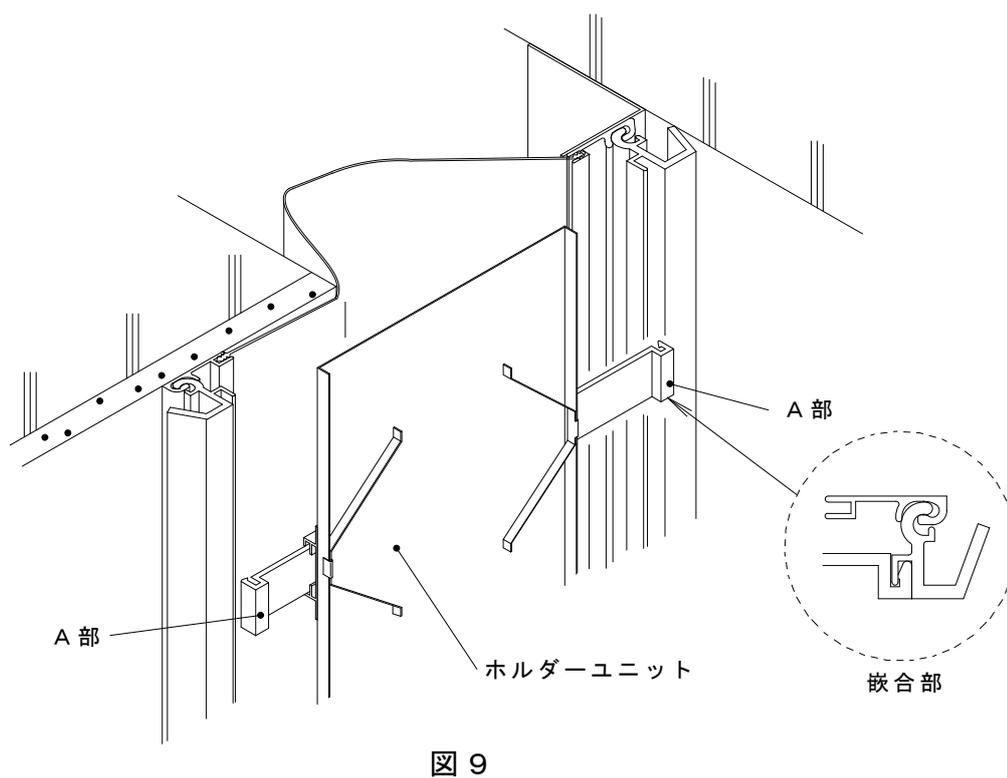
ホルダーは左右非対象の部品です。フレームユニットの取付には、図8のA部を完全に打ち込み固定します。このとき、必ずすべてのホルダーのA部が同じ側になるように取付ます。ホルダーの取付ピッチは500mmです。



4-2. インカバー、ホルダーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

インカバーと一体になったホルダーユニットのフレームユニットへの取付は、図9のA部（両側）を完全に打ち込みます。必ず両側を打ち込んでください。



5-1. カバーの取付

カバーは図10のようにインカバーとアウトカバーがあります。まずインカバーを取付ます。

(カバーはジョイントの付いたほうが上です。) SX (ステンレス製) カバーには、取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にして各々ねじで固定します。AX (アルミ製) カバーは、現場にてカバーをフレームにあてφ3.6下穴加工 (@500mm) を行ってドリルねじで固定します。続いてアウトカバーをインカバーと同じ要領で取付ます。

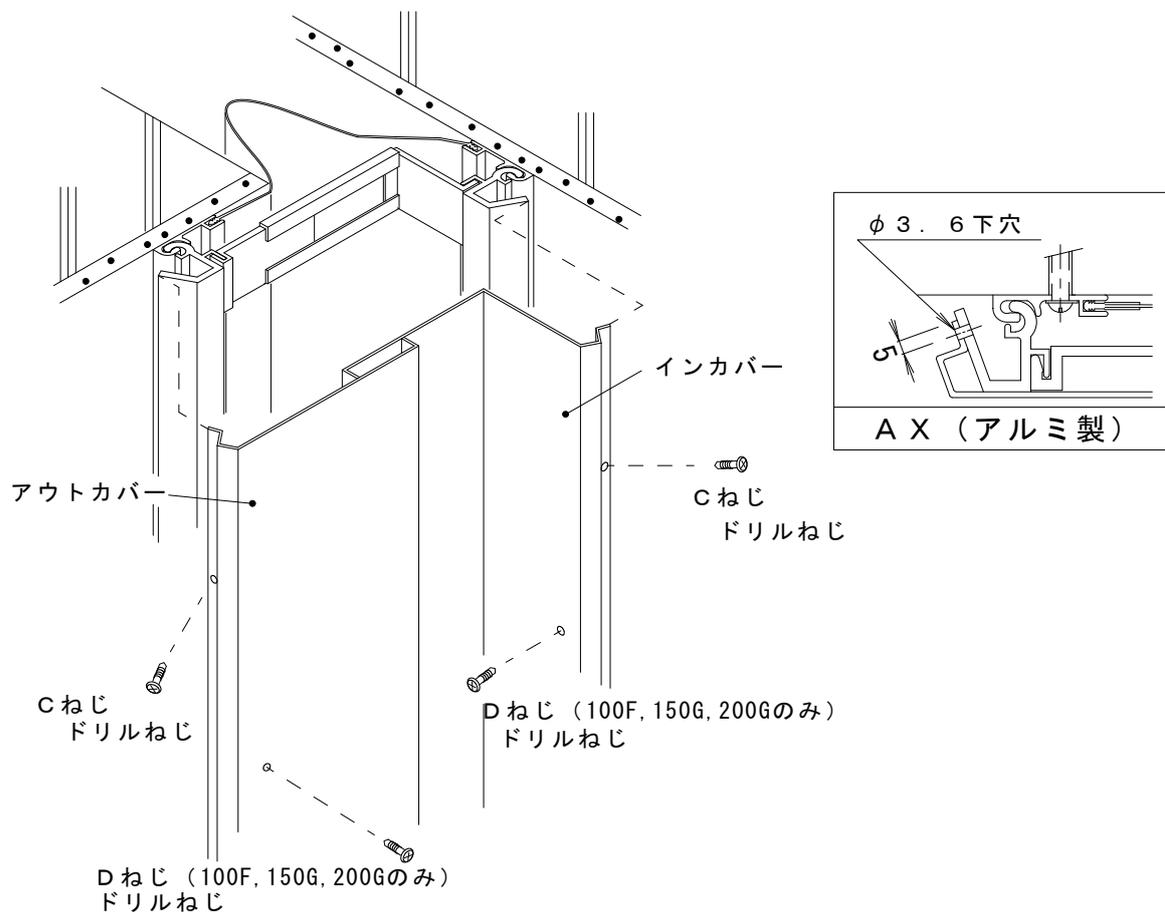


図10

※ねじ止めについて

SX・AX 23A-100F, 150G, 200Gについては、Cねじに加えDねじも固定して下さい。SX (ステンレス製) カバーには、Dねじ取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。AX (アルミ製) カバーは、現場にてφ3.6下穴加工 (4ヶ所/3m) を行いドリルねじで固定して下さい。(図11)

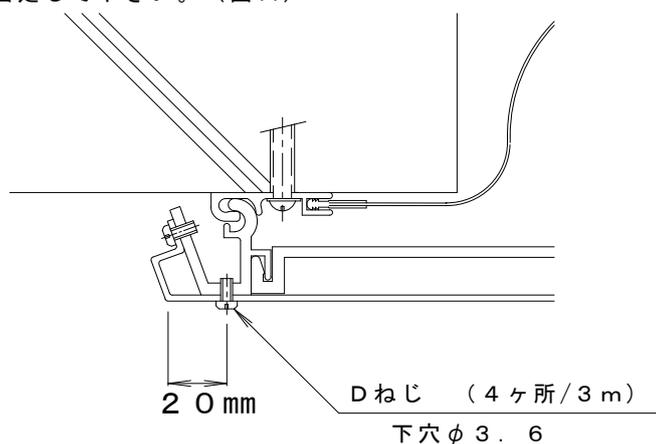


図11

5-2. カバーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

アウトカバーを図12に示すように取付ます。カバーには取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にして各々ねじで固定します。

注) アウトカバーは、図12に示すように①方向からはめ次に②方向へ引っ張るように取付ます。板バネの力によりカバーのズレを防ぎます。

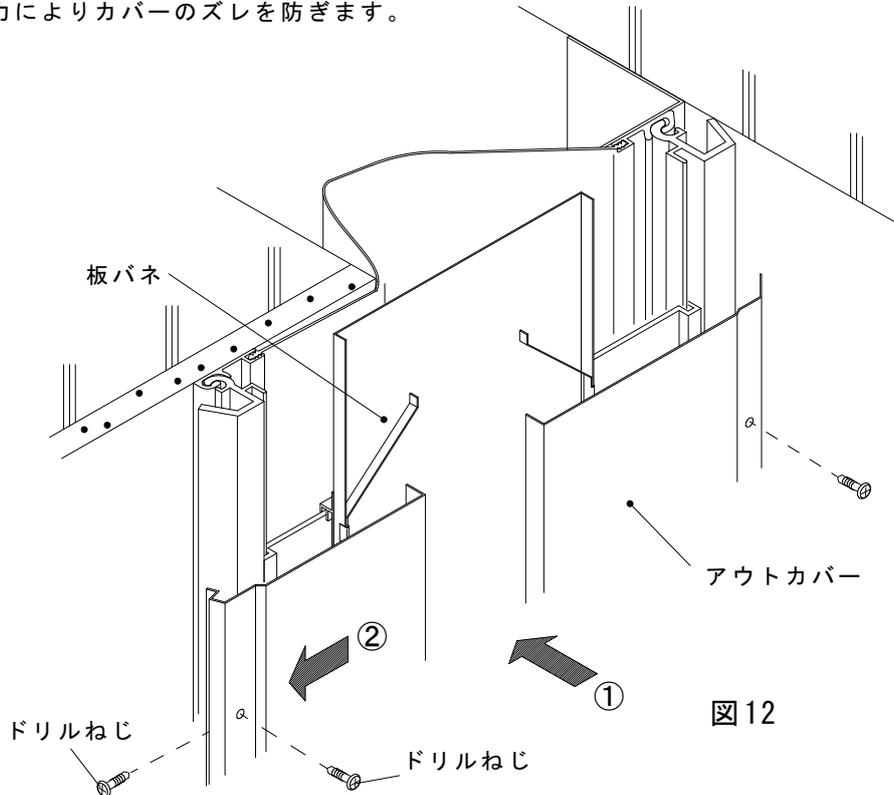


図12

6. カバー接続部の納まり

インカバー、アウトカバーともに接続部には、ジョイントプレートが付いています。（図13,15）カバー接続部は、ジョイントプレートの上にカバーをかぶせながら取付けていくことにより、通りがでる構造となっています。

注) 外壁用のカバーの接続部は図14,16に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

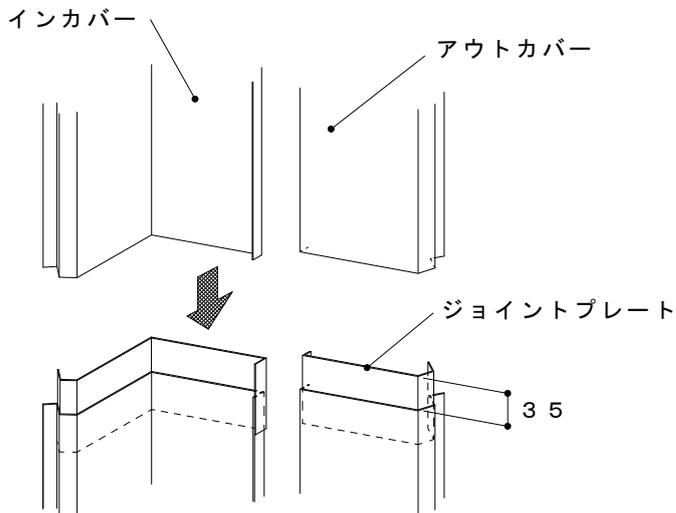


図13

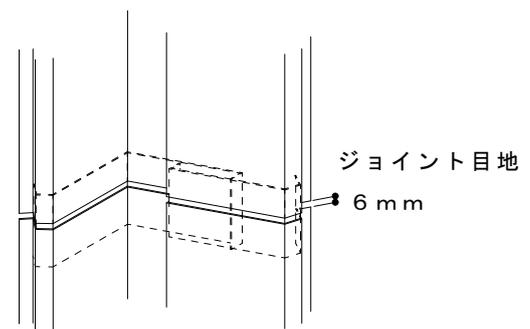


図14

※300G（クリアランス300）の場合

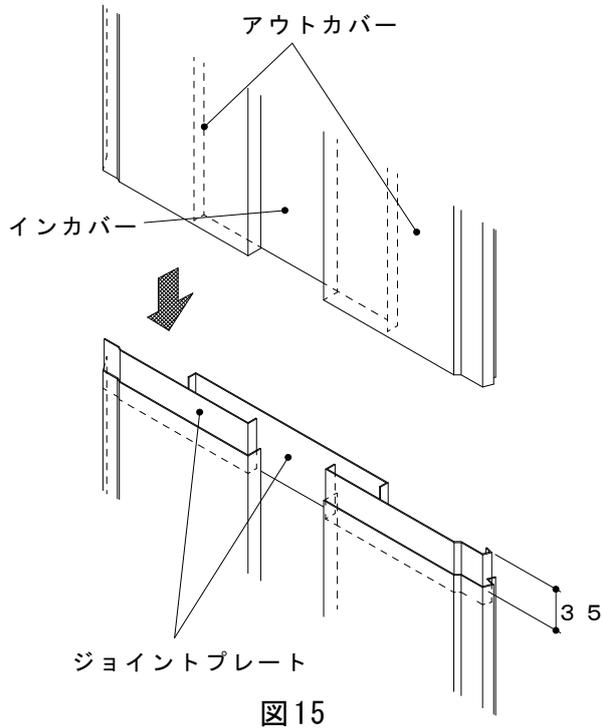


図15

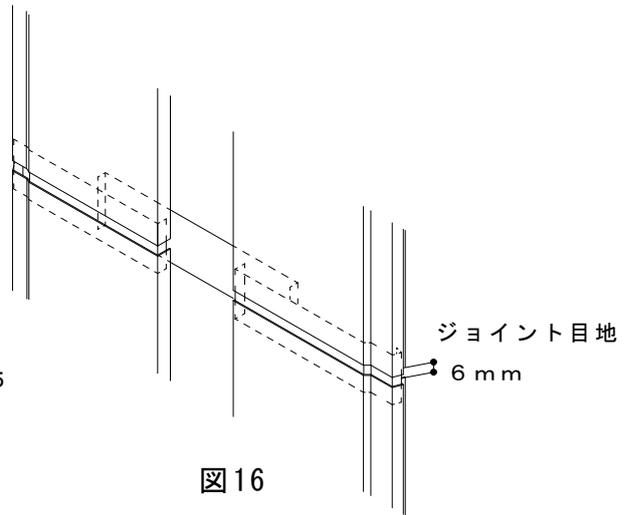


図16

7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。（図17, 18）

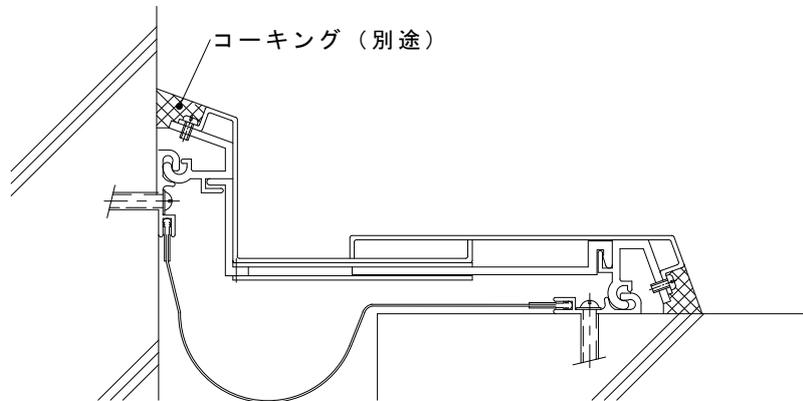


図17

※300G（クリアランス300）の場合

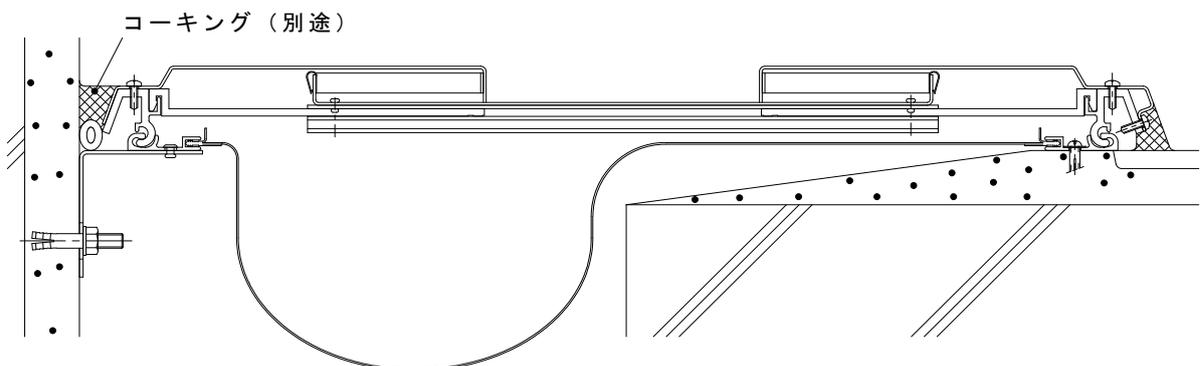


図18

8. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付る前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるよう

9 に延長しました。この延長部分を図19のように折り曲げて22タイプの補助シートと接着します。(接着剤は、別途です。)

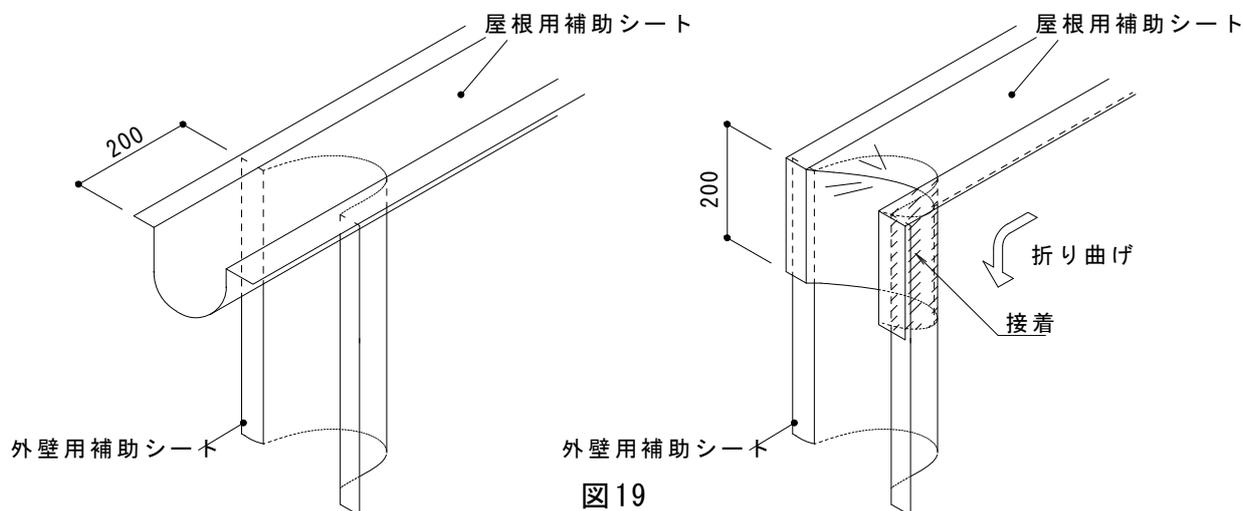


図19

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図20のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

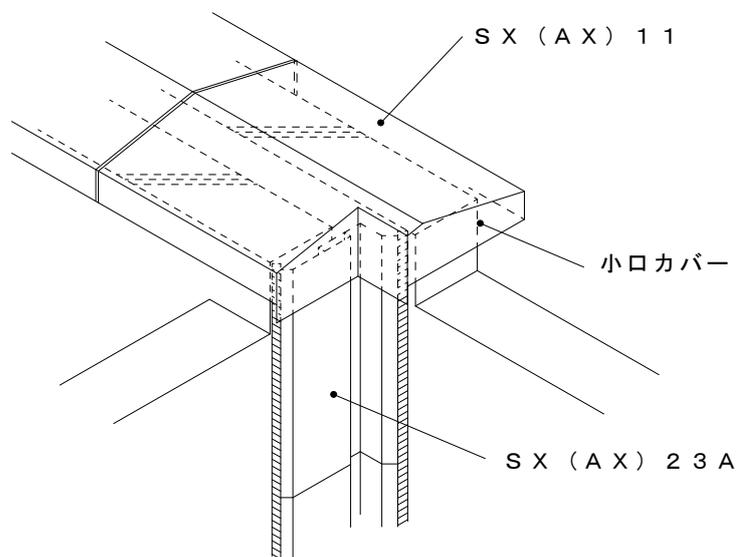


図20

外壁－外壁コーナ-用S X (A X) 2 3 A E

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

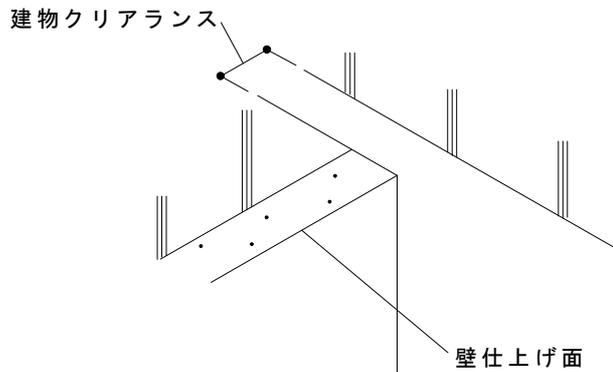


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1-1. レベル墨打ち

外壁ユニットを取付するためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2を参照してください。

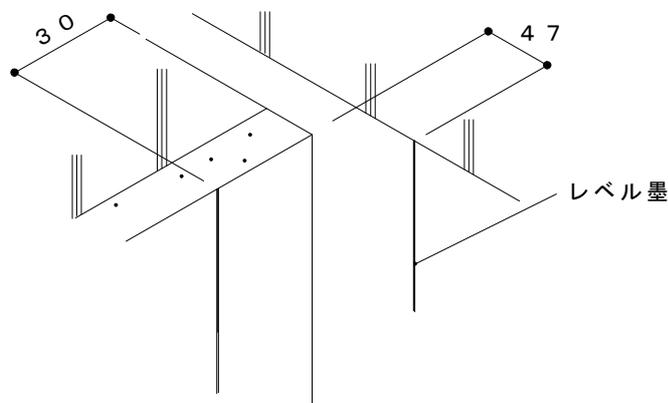


図 2

2. フレームの取付

フレームB, Cに従って躯体に、 $\phi 8$ 、深さ60mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。(図3, 4)

(固定ねじ、事前に平ワッシャをセットしておきます。)

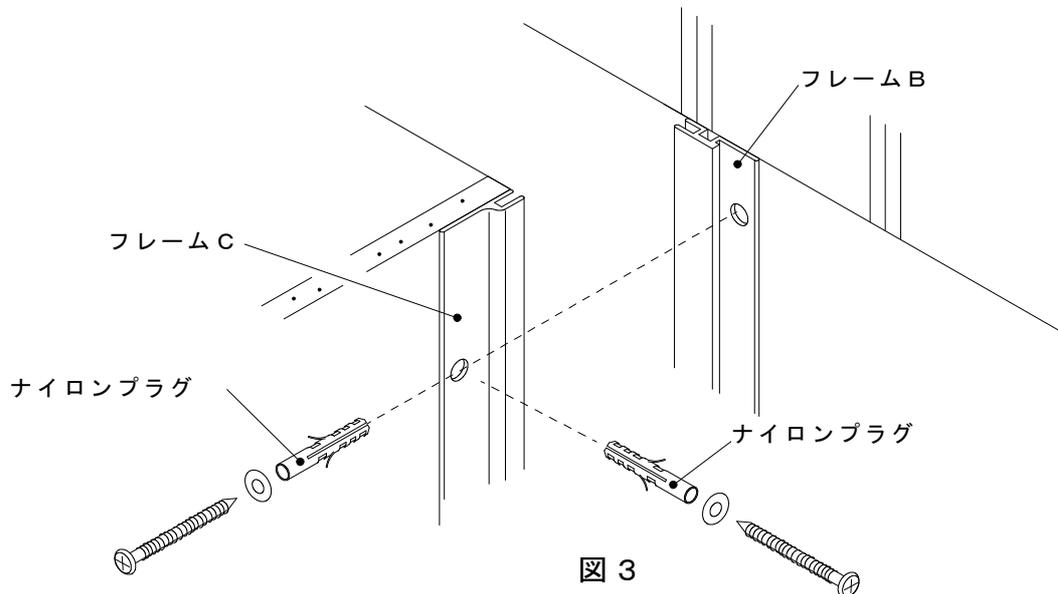


図 3

23AE-50G, 100G

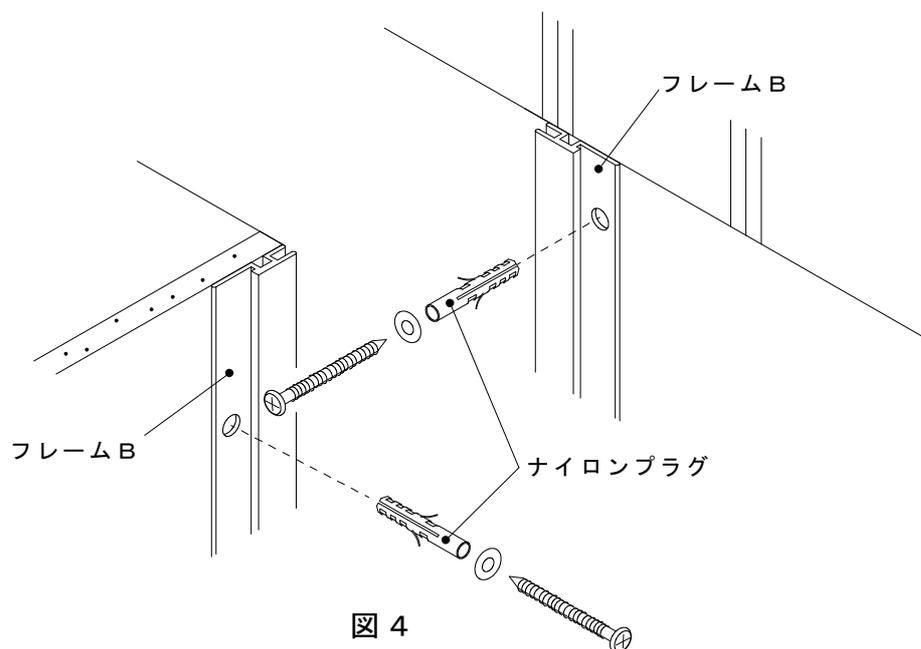


図 4

23AE-150G, 200G

注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームのA部に補助シートを差し込みます。(図6)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートは、ロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

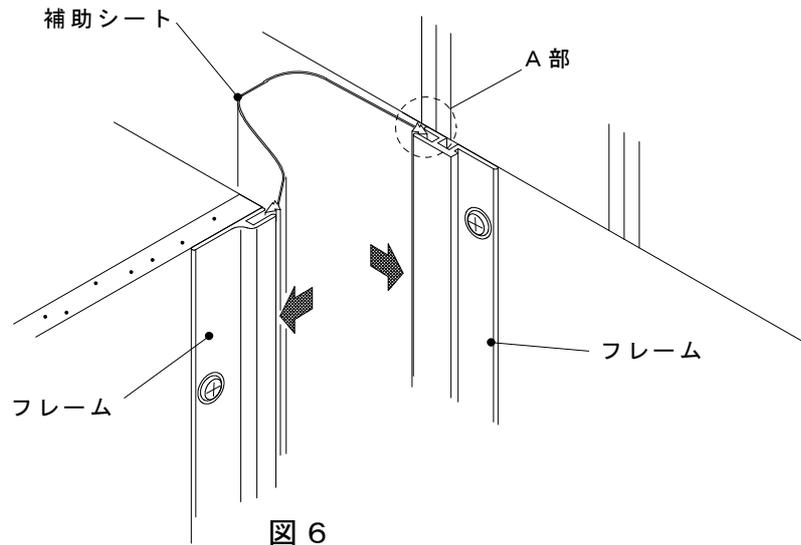


図6

4. ホルダーの取付

ホルダーは、フレームBに端部(A, B部)をはめ込み、M4×10のドリルねじで50G, 100Gは、2ヶ所・150G, 200Gは、4ヶ所固定します。(図7, 図8)

ホルダーの取付ピッチは500mmです。

※カバーは、ホルダーにねじ止めして取付けるためホルダー位置が分かるよう躯体にマーキングしておきます。

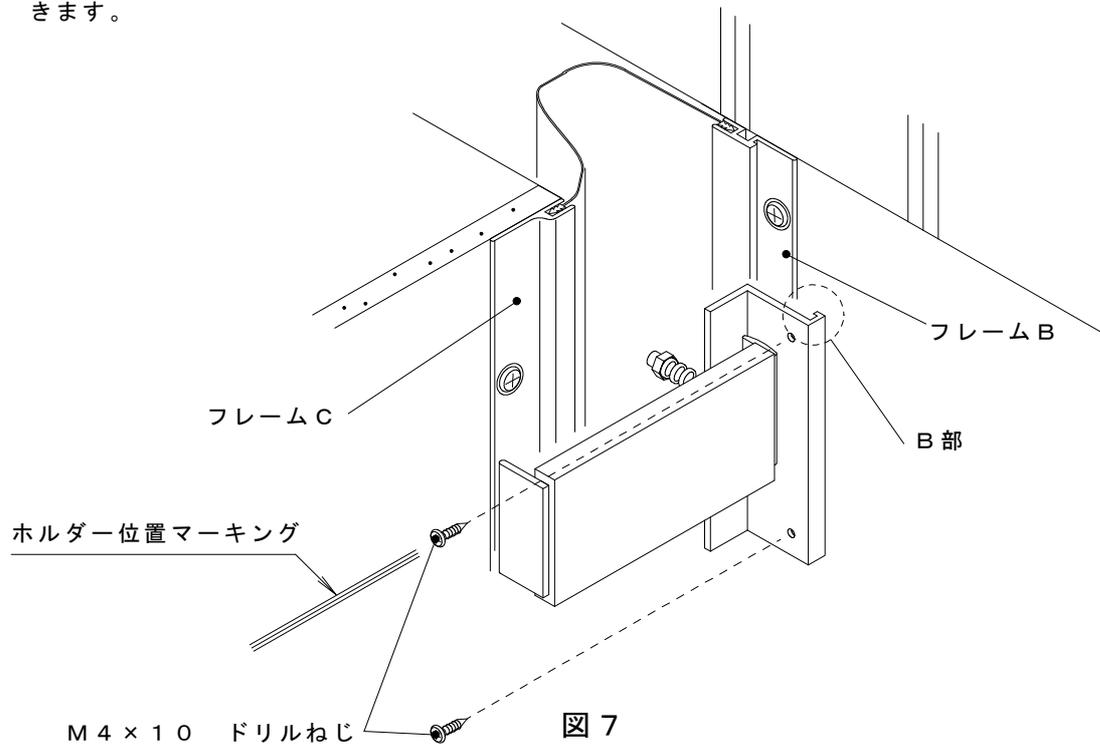


図7

23AE-50G, 100G

23AE-3

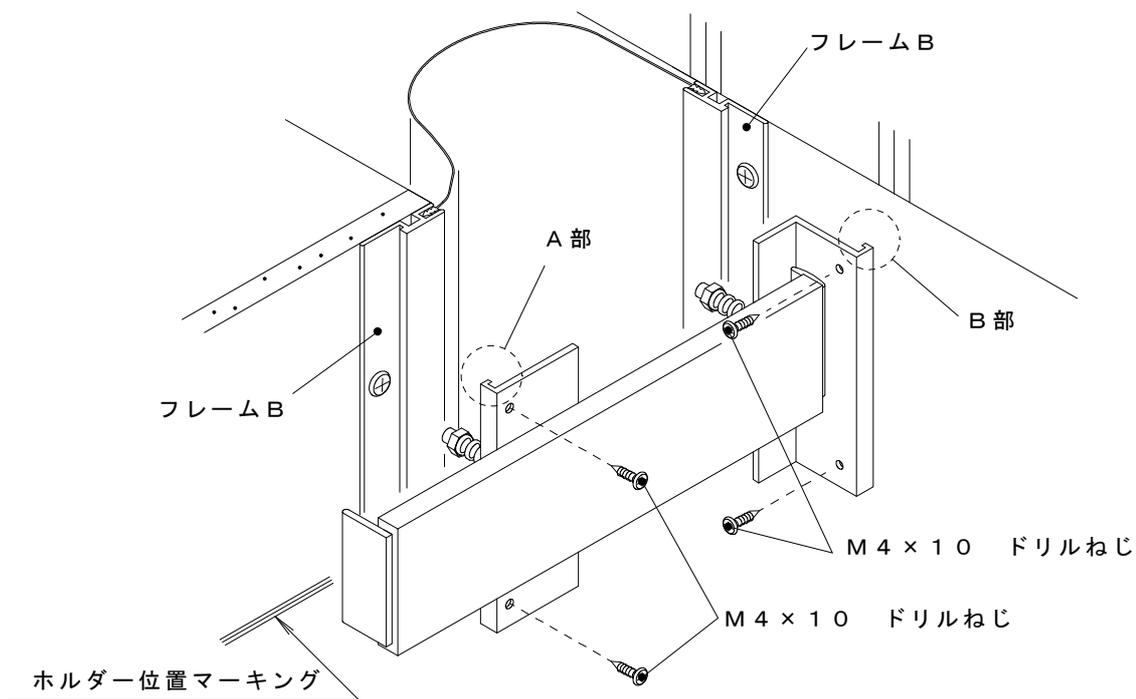
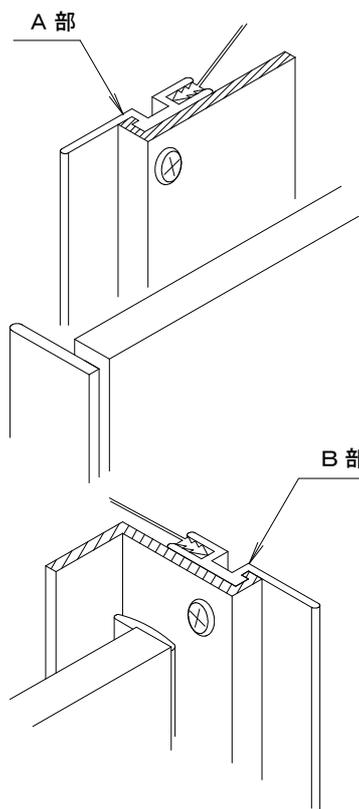


図 8

※B部から先にはめ、次にA部を図9の要領ではめます。

23AE-150G, 200G

※ホルダーのA部取付詳細について (図9)



①ホルダーの足を躯体に当てホルダーC部をフレーム側に押す。

②ホルダーC部をフレームの溝側にスライドさせる。

③M4 x 10のドリルねじでフレームに固定する。

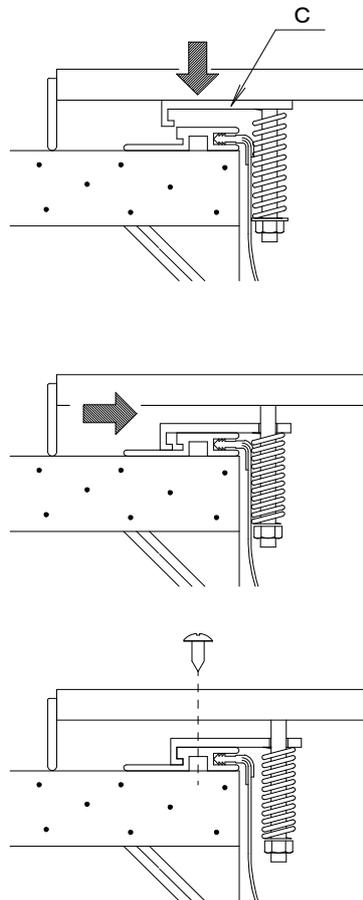


図 9

23AE-4

5. カバー取付

カバーは、図10のようにホルダーにあて $\phi 3.6$ 下穴加工 (@500mm) を行って各々ねじで固定します。(カバーはジョイントが付いたほう上です。)

※カバーを被せた後は、先に躯体に付けたマーキングでホルダー位置を判断します。

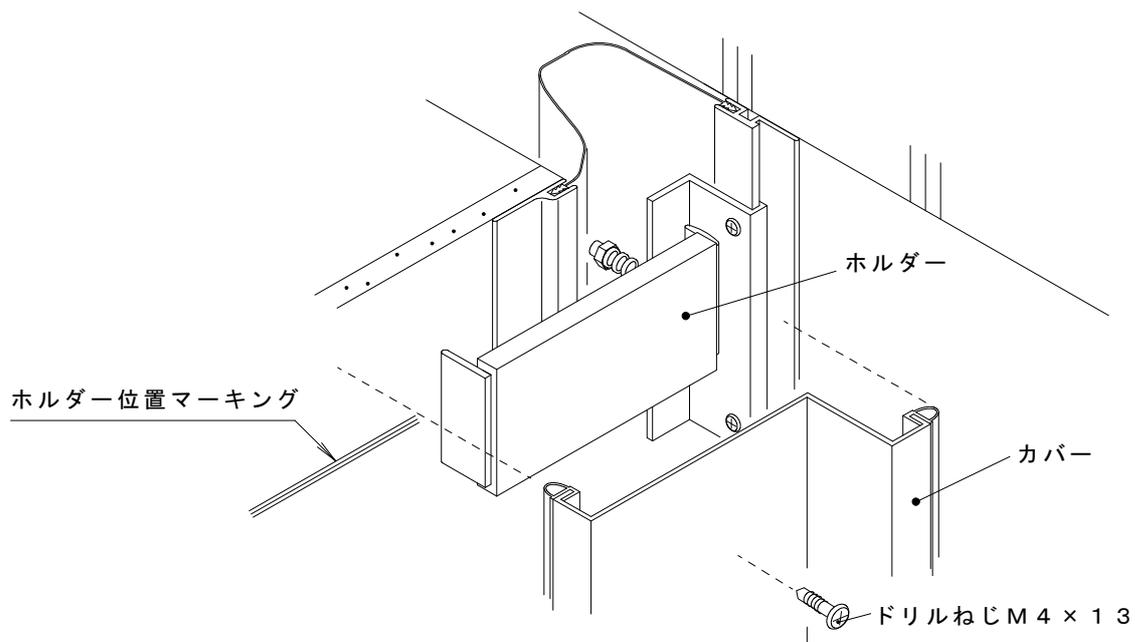


図10

注) ねじ止めする際には、カバーを壁側に押し付けパッキンを圧接して止めて下さい。(図11)

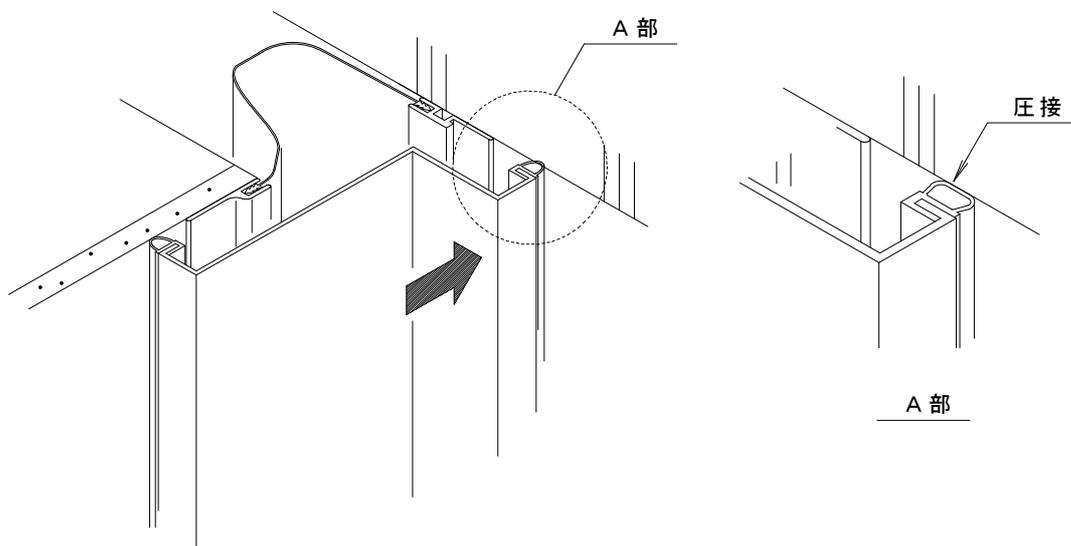


図11

※ねじ止めについて

23AE-50G, 100G

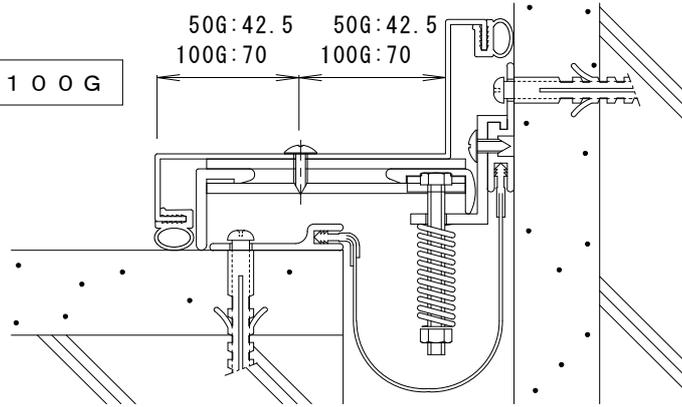


図12

23AE-150G, 200G

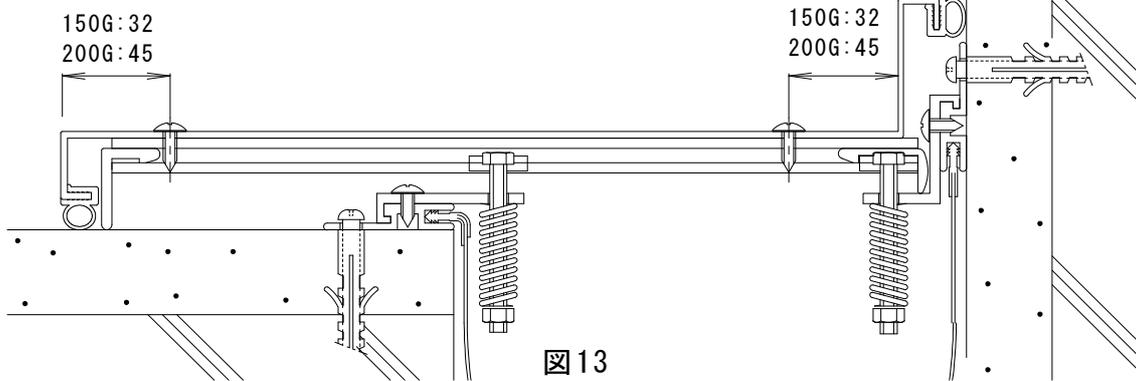


図13

6. カバー接続部の納まり

カバーの接続部には、ジョイントプレートが付いています。(図14) カバーの接続は、ジョイントプレートにカバーをスライドさせ差し込んで取付けていくことにより、通りがでる構造となっています。

注) 外壁用のカバーの接続部は図15に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

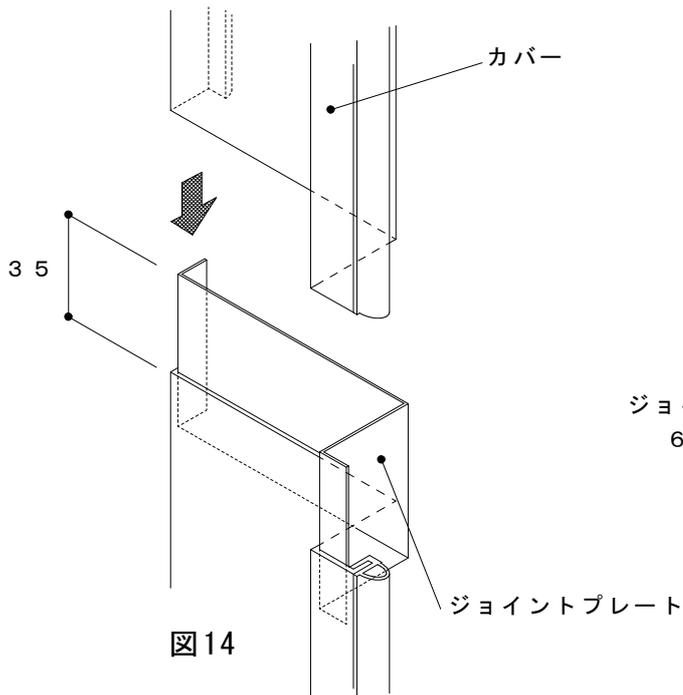


図14

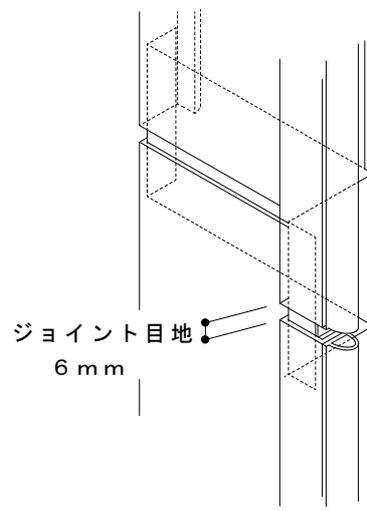


図15

7. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付る前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図16のように折り曲げて23タイプの補助シートと接着します。
(接着剤は、別途です。)

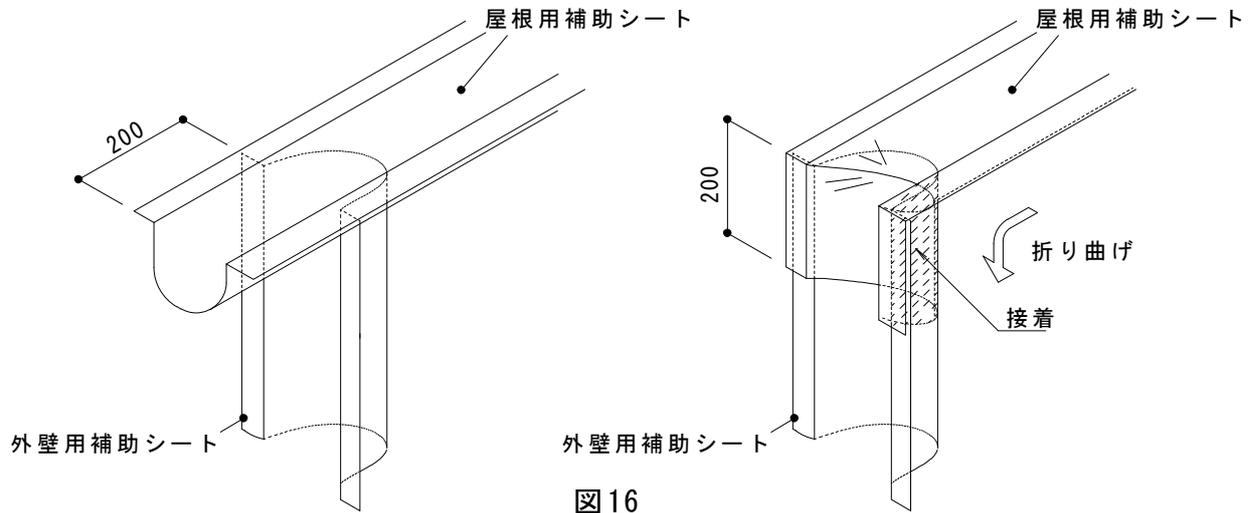


図16

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図17のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

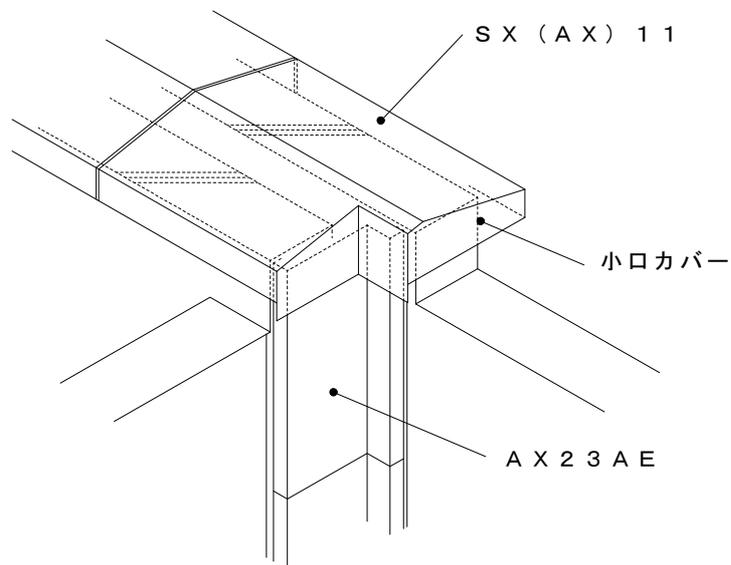


図17

天井一天井用 S X (A X) 4 4

下地仕上げ

1. 内壁のクリアランスと天井のクリアランスおよび床のクリアランスの中心線は、必ず合わせて下さい。
2. 天井材のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げて下さい。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。(表 1, 図 1, 図 2)
3. 野縁は必ず天井材開口部の両端に設けて下さい。

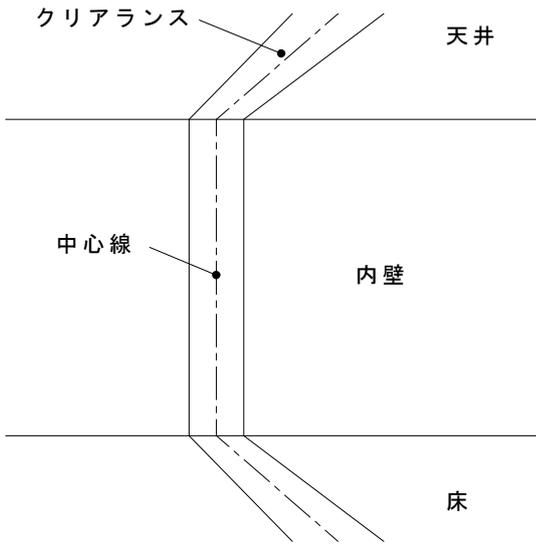


図 1

表 1 . W 寸法表

呼 称	W 寸法
SX44 - 50F	65
SX44 - 100F	115
SX (AX) 44 - 50G	65
- 100G	100
- 150G	150
- 200G	200
- 300G	300

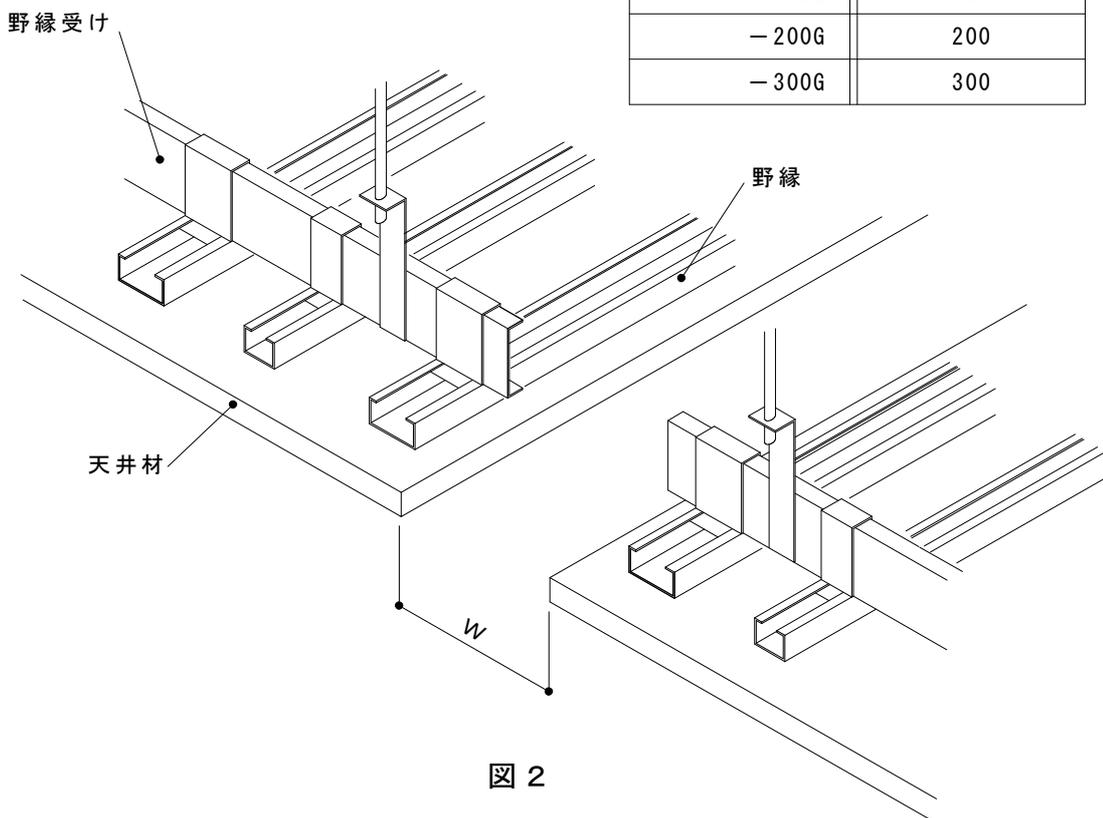


図 2

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

床、内壁、天井のクリアランスをチェックして中心位置を求め、ホルダーユニットの位置にレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（C寸法）は、図3及び表2を参照して下さい。

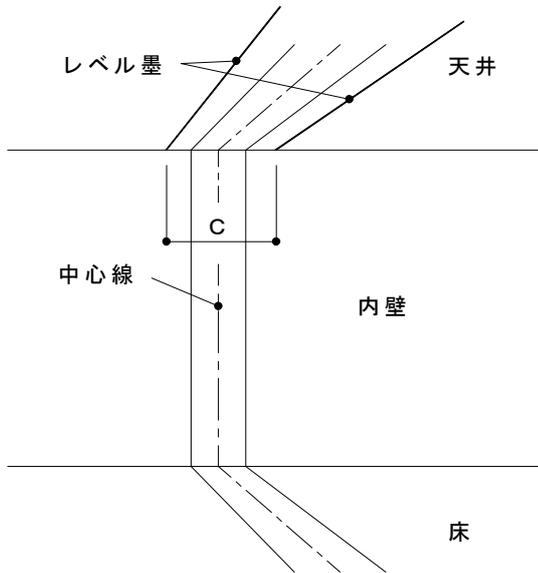
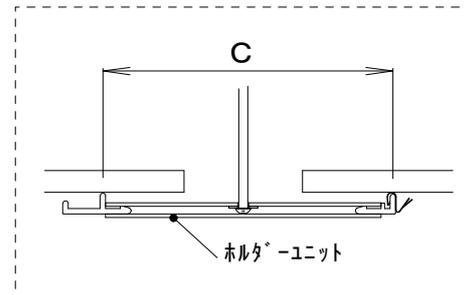


図 3

表 2. C寸法表

呼 称	W寸法
SX44 - 50F	159
SX44 - 100F	310
SX (AX) 44 - 50G	110
- 100G	210
- 150G	310
- 200G	413
- 300G	513



2. ホルダー取付位置のマーキング

ホルダー取付位置をマーキングしてください。（図4）取付ピッチは500mmです。

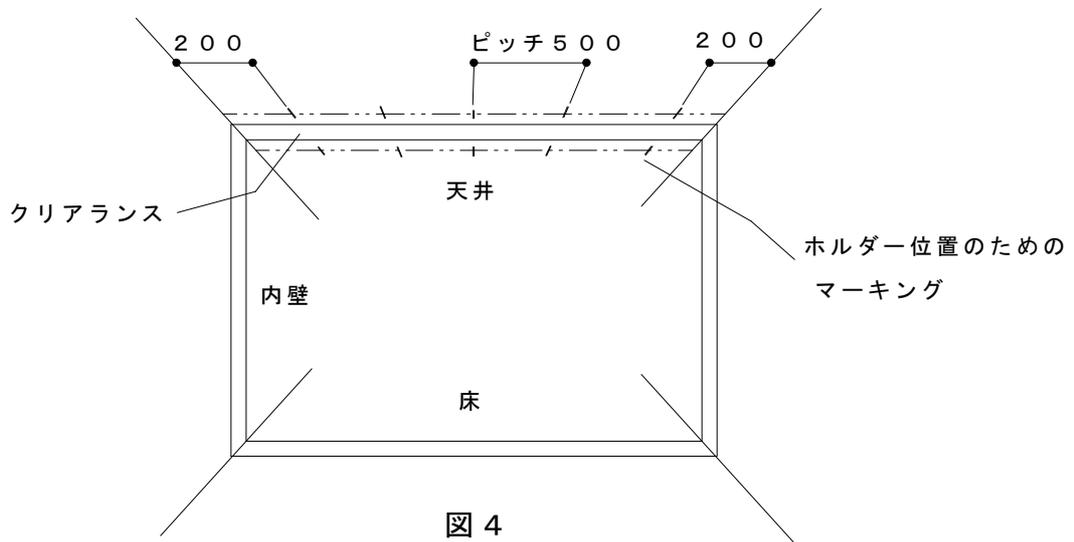


図 4

3. ホルダーユニットの天井面への取付

天井面のホルダー位置のマーキングにしたがって図5, 6のように補助バーを野縁に載せ500ピッチでホルダーユニットを固定します。このとき六角ナットでスプリングの強さを調節して下さい。

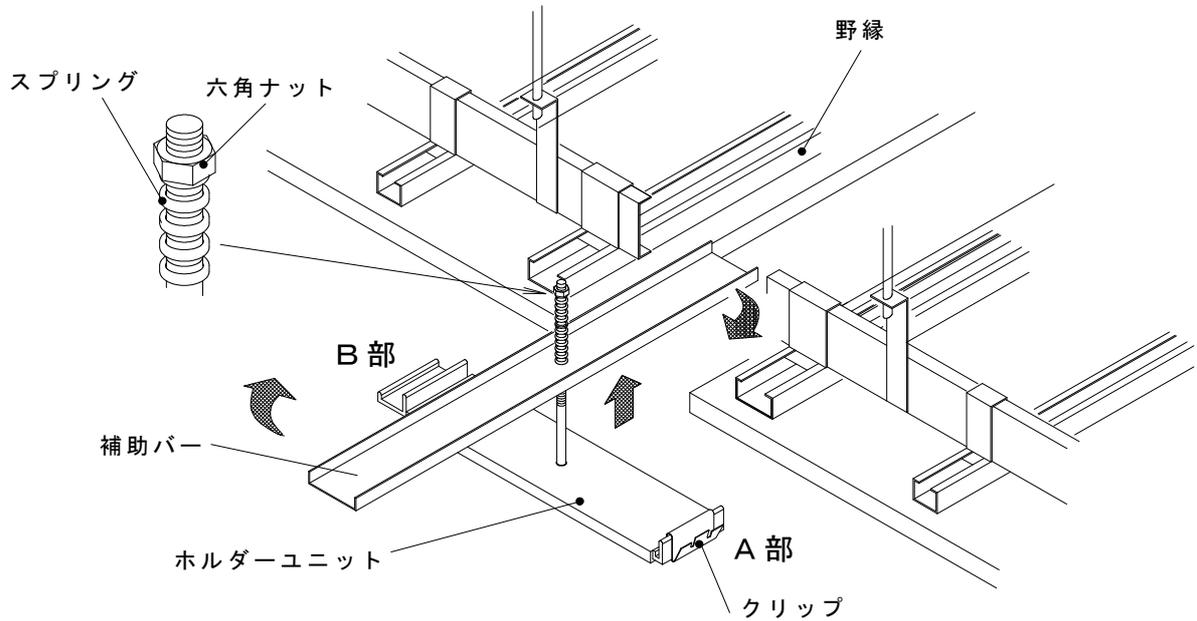


図5

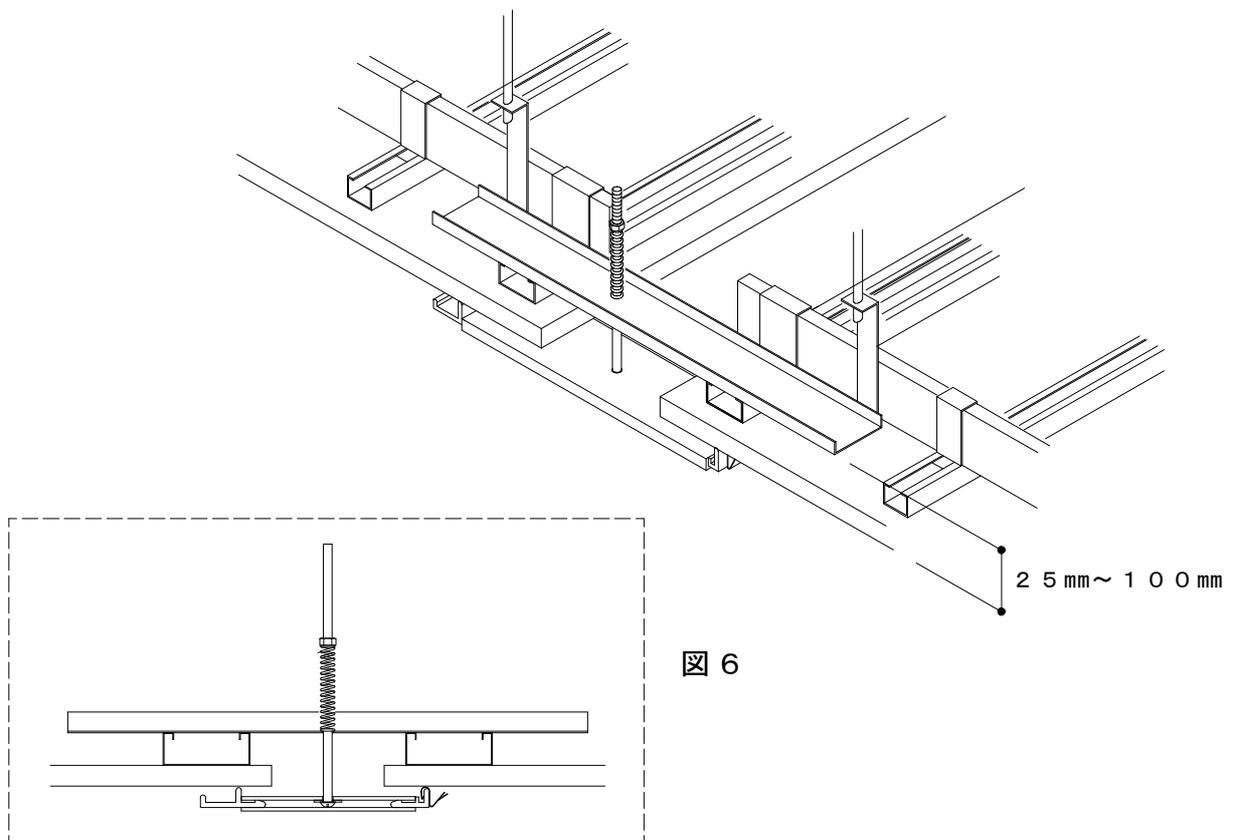


図6

注1) ホルダーユニットのA部（クリップ側）がすべて同じ方向に向くように取付けて下さい。

注2) ホルダーの取付可能寸法は25mm～100mmに設計されていますので寸法に応じて必ず六角ナットでスプリングの強さを調節して下さい。

4. カバーの取付

ホルダーユニットにカバーをかぶせ、図5のB部にカバーの片側を掛けます。次にホルダーユニットのA部(図5)のクリップに押え付けるようにしてカバーをはめ合います。(図7)

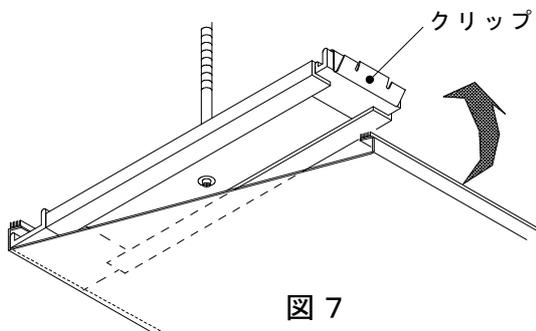


図7

※カバーとホルダーユニットのクリップがかみあいにくい場合は、ホルダーと一緒に梱包されたカバー取付工具を使用します。

まず、図8、9のように取付工具をクリップの部分にかけカバーを矢印の方向に押え付けます。カバーとクリップがかみあうときにカチッという音がしますので確認してください。

次に取付工具を横にずらし、回転させるようにして外します。

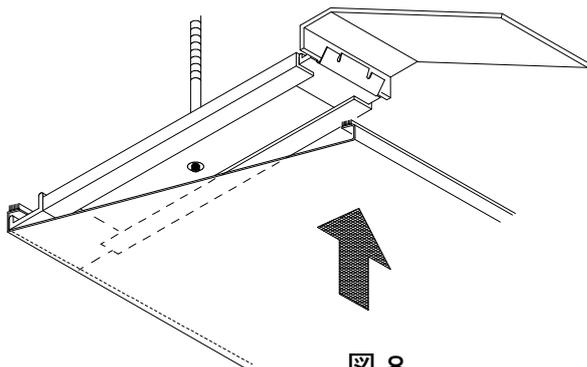


図8

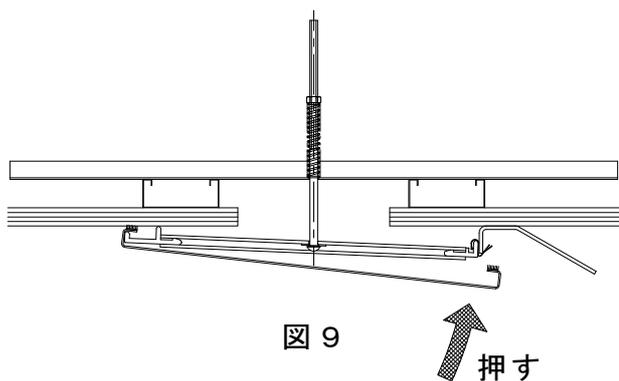


図9

注) カバーのジョイント部は、図10のようにホルダーに半分づつカバーが掛かるようにして下さい。

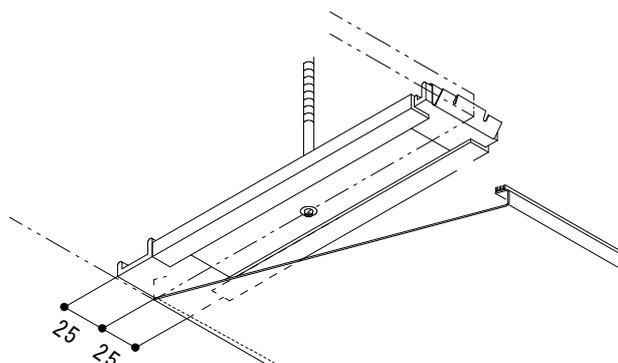


図10

5. カバーのねじ止め

※S X 4 4 - 2 0 0 G、及びS X (A X) 4 4 - 3 0 0 G (クリアランス 2 0 0 , 3 0 0) の場合
図12のようにカバーの取付穴位置に合わせてホルダーユニットにφ3. 6の下穴をあけ、カバーに
各々ねじで固定します。

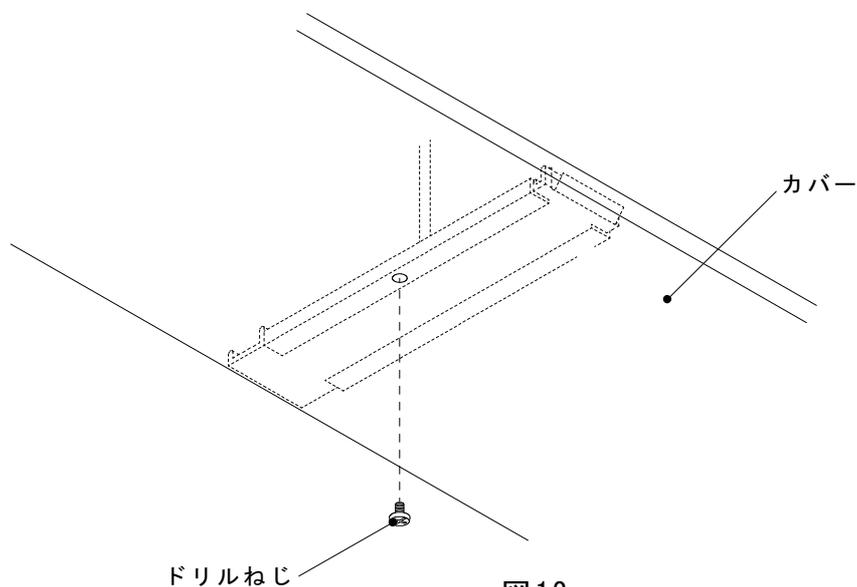


図12

6. エンドカバーの取り付け

天井用EXP. Jの端部（内壁用との取り合い）にはエンドカバーを取付ます。まずエンドカバーの
取付るために、カバーの全長（L）を天井取付箇所長さ（W）から両端35（40；200G, 3
00G）mmづつ短くした寸法に切断します。（図13）

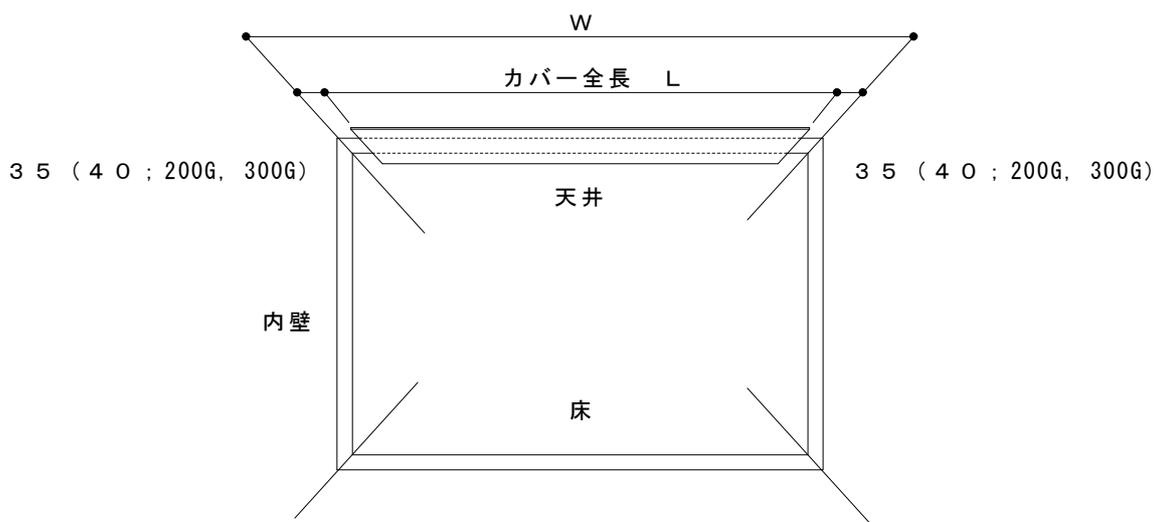


図13

次に、天井用カバーの端部にエンドカバーを差し込みます。このときエンドカバーには天井側、内壁
側の違いがありますので注意して下さい。（次頁：図14）

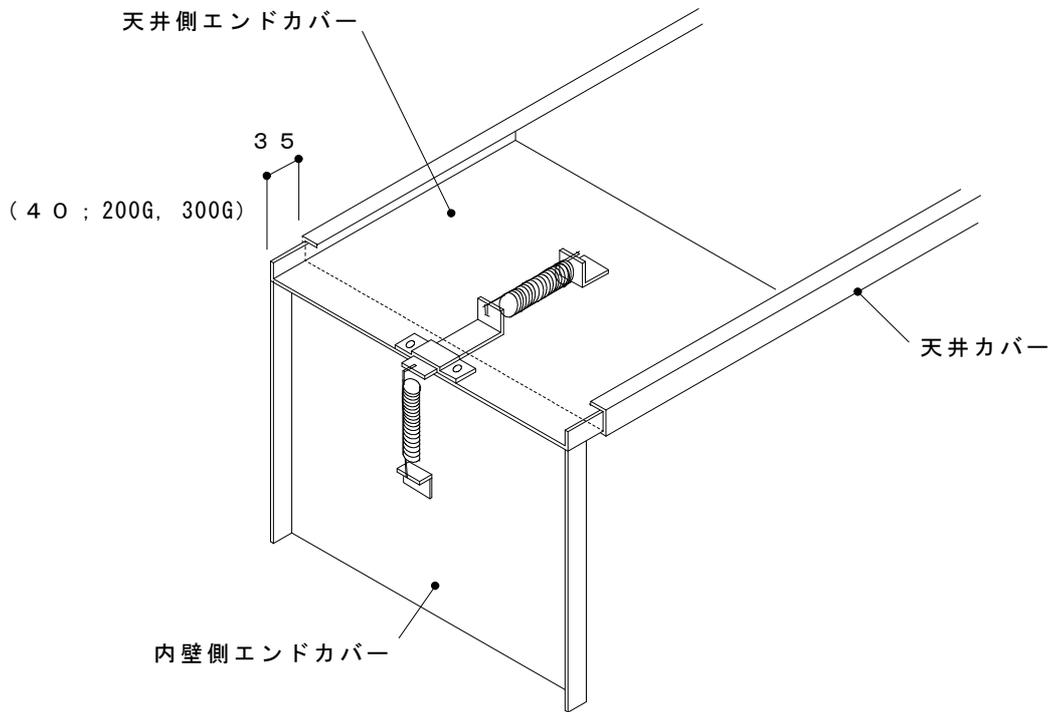


図14

エンドカバーを差し込んだままの状態、天井用カバーをホルダーにかみあわせませす。
 内壁用エンドカバーは垂らしたままにしてください。内壁用カバーを矢印のように差し込み、天井同
 様ホルダーにかみあわせませす。(図15)

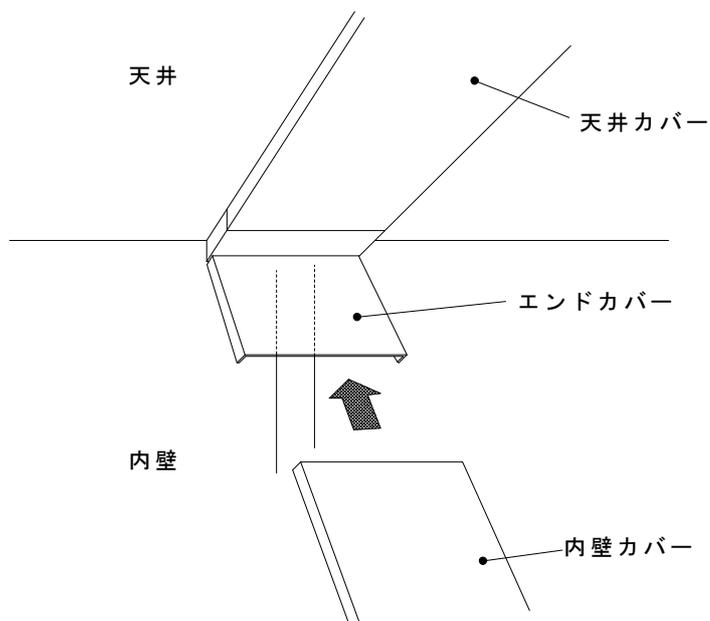


図15

天井－内壁用 S X (A X) 4 5

下地仕上げ

1. 壁面と天井面のクリアランスは、図 1、表 1 のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
2. 壁面の凹凸は極力避けて下さい。

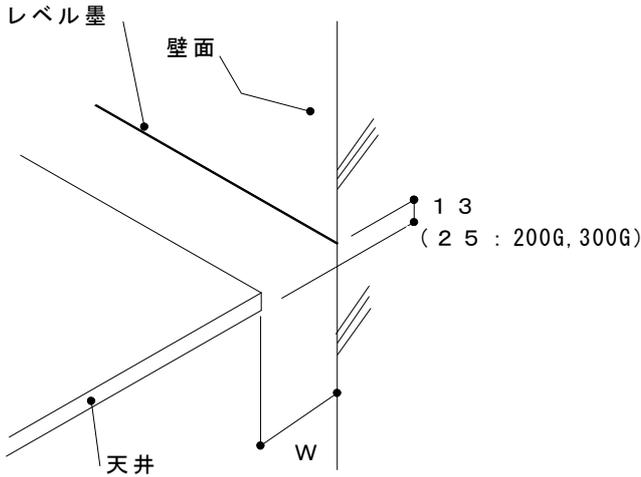


表 1. W寸法表

呼 称	W寸法
SX45 - 50F	65
SX45 - 100F	115
SX (AX) 45 - 50G	50
- 100G	100
- 150G	150
- 200G	200
- 300G	300

図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち
天井面を基準に 13 mm (25 mm : 200G, 300G) の位置にレベル墨を打ちます。(図 1)
2. ホルダー取付位置のマーキング
ホルダー取付位置をマーキングしてください。(図 2) 取付ピッチは 500 mm です。

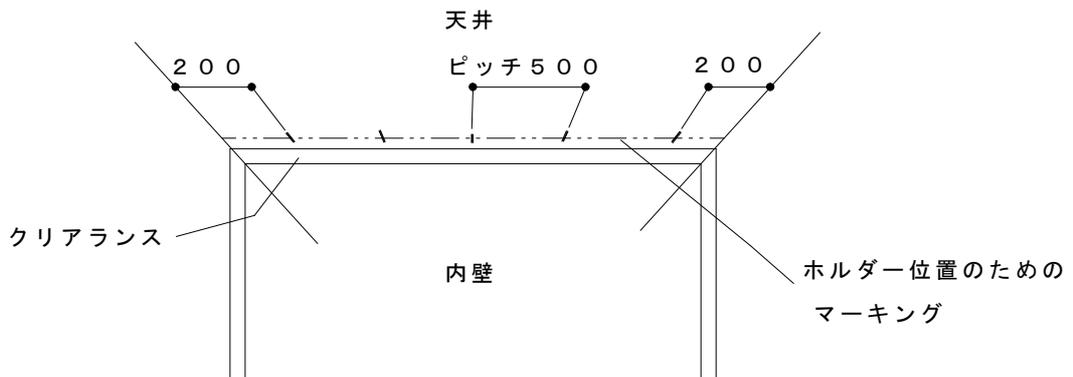


図 2

3-1. ホルダーユニットの取付

ホルダーユニットにあけられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ネジでホルダーユニットを固定します。(図3)

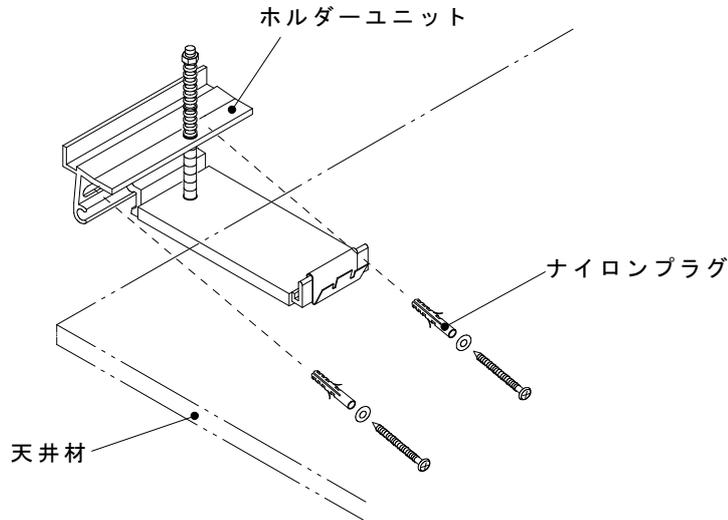


図3

※SX(A X)45-150Gホルダー取付について

ホルダーには、躯体への取付を容易に出来るようにレベル出しピース(L形ピース)が装着されていますがホルダー取付後、必ずレベル出しピースを取り外して下さい。(図4)

レベル出しピースは、ホルダーを下側に引っ張ると簡単に外れます。

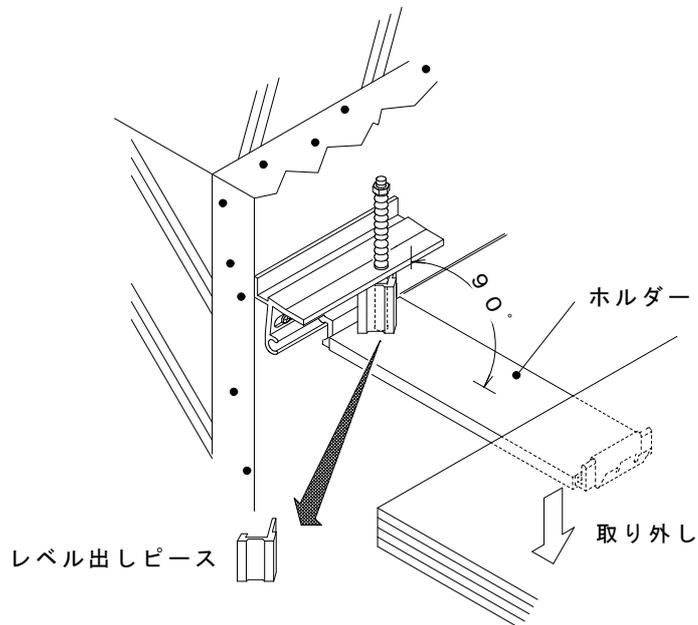


図4

3-2. ホルダーユニットの取付

※SX(A X)-200G、300G(クリアランス200、300)

1. ホルダーユニットにあけられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじでホルダーユニットを固定します。(図5)
2. 補助バーを野縁に載せホルダーユニットを固定します。このとき六角ナットでスプリングの強さを調節して下さい。(図5)

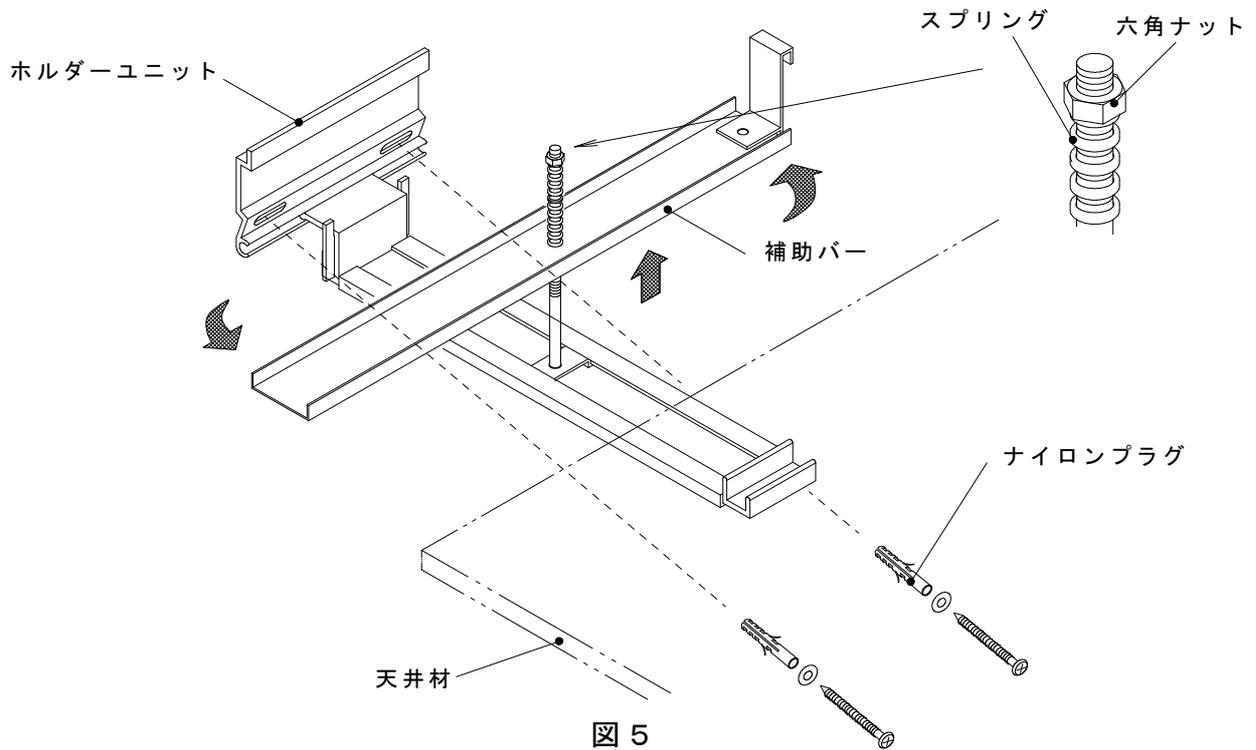


図 5

注 1) ホルダーの取付可能寸法は 25mm ~ 100mm に設計されていますので寸法に応じて必ず六角ナットでスプリングの強さを調節して下さい。

注 2) 補助バーを天井側の野縁に載せ内壁側のホルダー (A 部) に載せるとき天井側の高さに応じて補助バーの掛ける位置を選んで下さい。(図 6, 7)

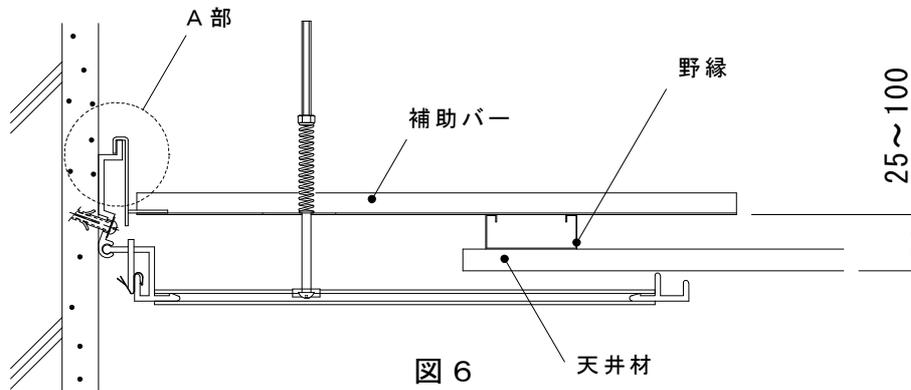


図 6

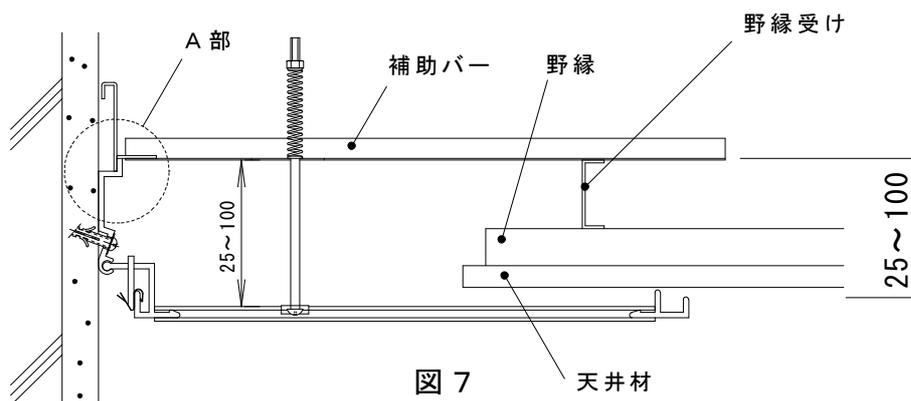


図 7

4-1. カバーの取付

ホルダーユニットにカバーをかぶせ、図8のA部にカバーの片側を掛けます。次にホルダーユニットのクリップに押し付けるようにしてカバーをはめ合います。

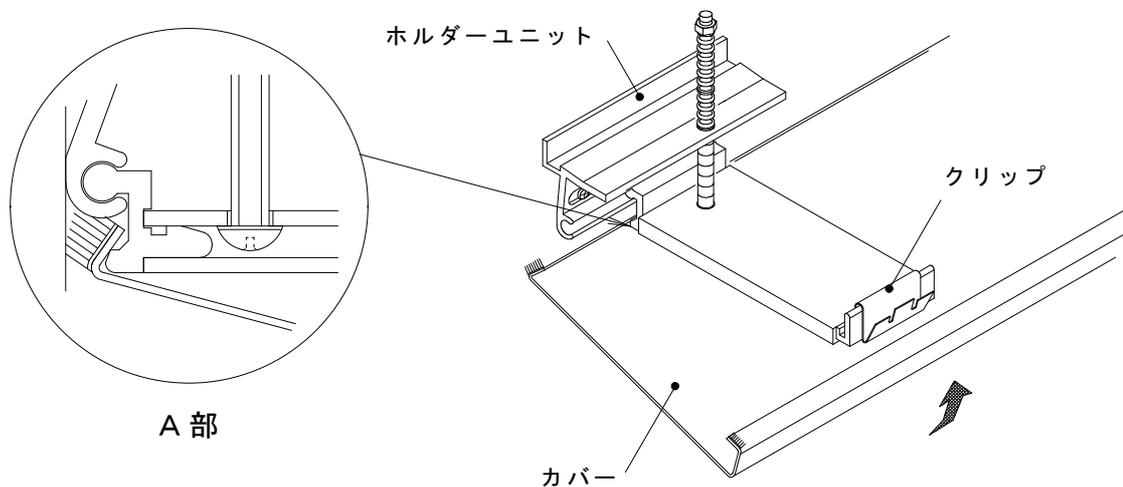


図8

4-2. カバーの取付

※SX(AX)-200G、300G (クリアランス200、300)

ホルダーユニットにカバーをかぶせ、図9のA部にカバーの片側を掛けます。次にホルダーユニットのクリップに押し付けるようにしてカバーをはめ合います。

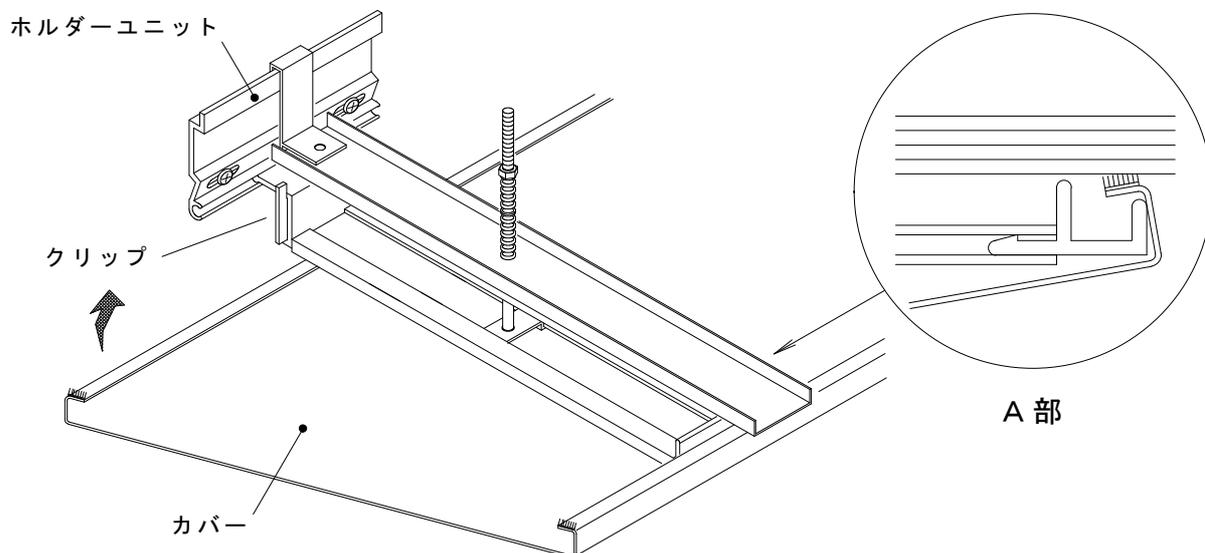


図9

注) カバーのジョイント部は、図10のようにホルダーに半分づつカバーが掛かるようにして下さい。

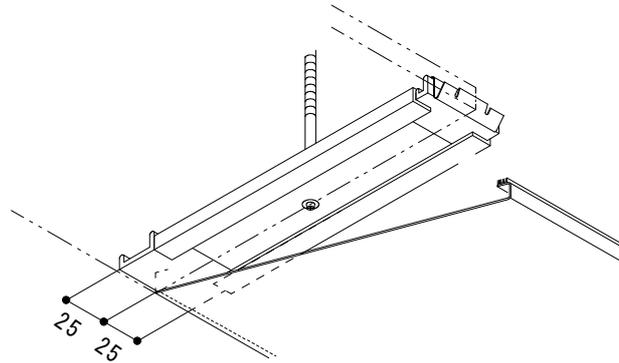


図10

5. カバーのねじ止め

※S X 4 5 - 2 0 0 G、及びS X (A X) 4 5 - 3 0 0 G (クリアランス 2 0 0 , 3 0 0) の場合

図11のようにカバーの取付穴位置に合わせてホルダーユニットにφ3.6の下穴をあけ、カバーにドリルねじで固定します。

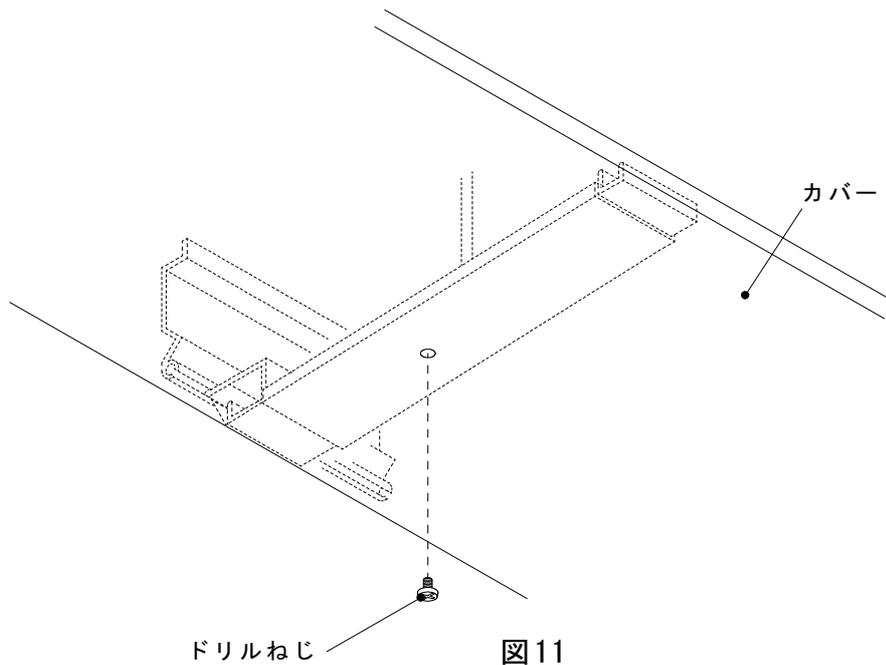


図11

取付工具の仕様方法、エンドカバー取付については、44タイプ参照。

内壁－内壁用SX（AX）55

下地仕上げ

1. 壁面と壁面のクリアランスは、図1、表1のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
 2. 壁面の凹凸は極力避けて下さい。
- ※50F、100Fについては、図のように壁面に欠き込みを設けて下さい。

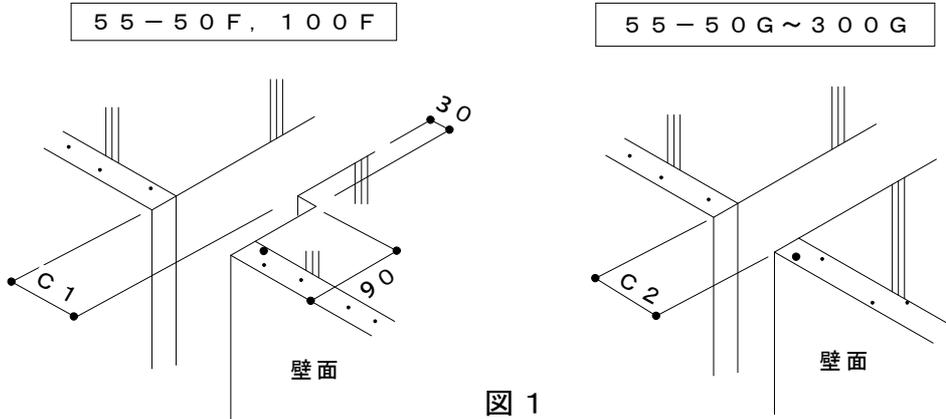


図 1

表 1. C1, C2寸法表

呼 称	C1, C2寸法
SX55 - 50F	50
SX55 - 100F	100
SX(AX)55 - 50G	50
- 100G	100
- 150G	150
- 200G	200
- 300G	300

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

壁面を基準に30mm（40mm、25mm：150G、200G、300G）の位置にレベル墨を打ちます。（図2）

※図のように150G、200G、300Gについては、レベル墨を2ヶ所打ちます。

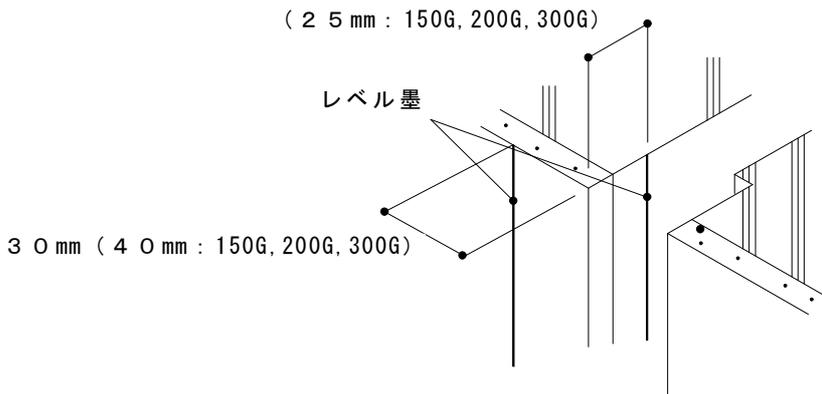


図 2

2. ホルダー取付位置のマーキング

ホルダー取付位置をマーキングしてください。(図3) 取付ピッチは500mmです。

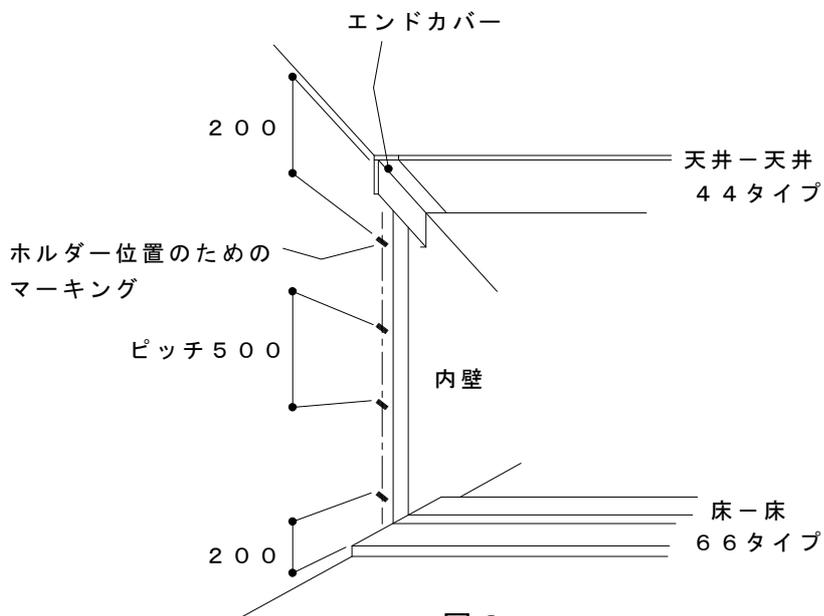


図3

3. ホルダーユニットの取付

ホルダーユニットにあげられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ネジでホルダーユニットを固定します。(図4, 5, 6)

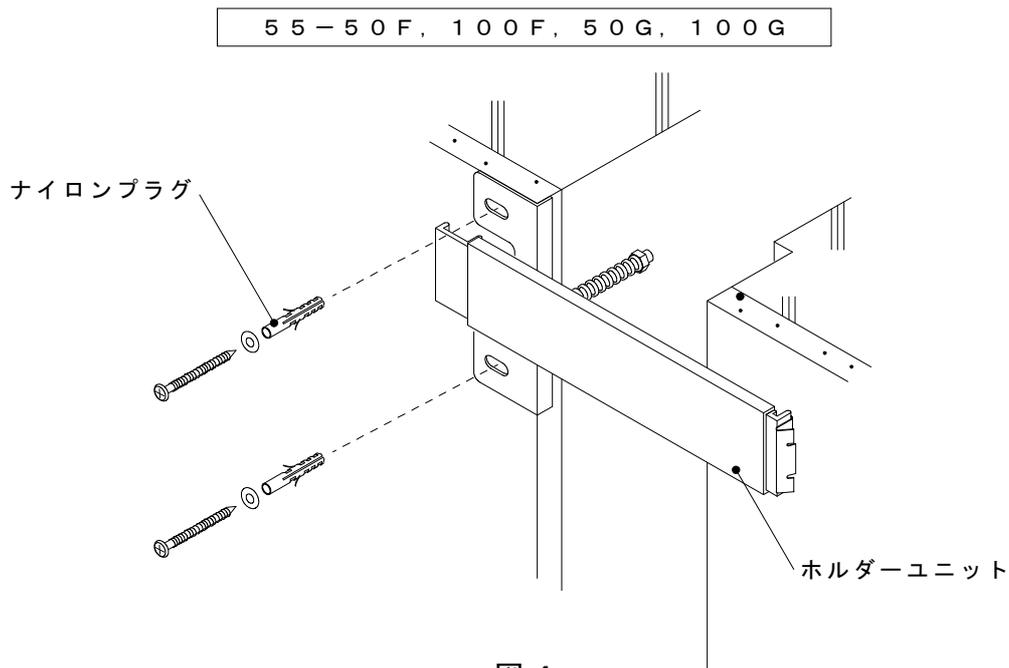
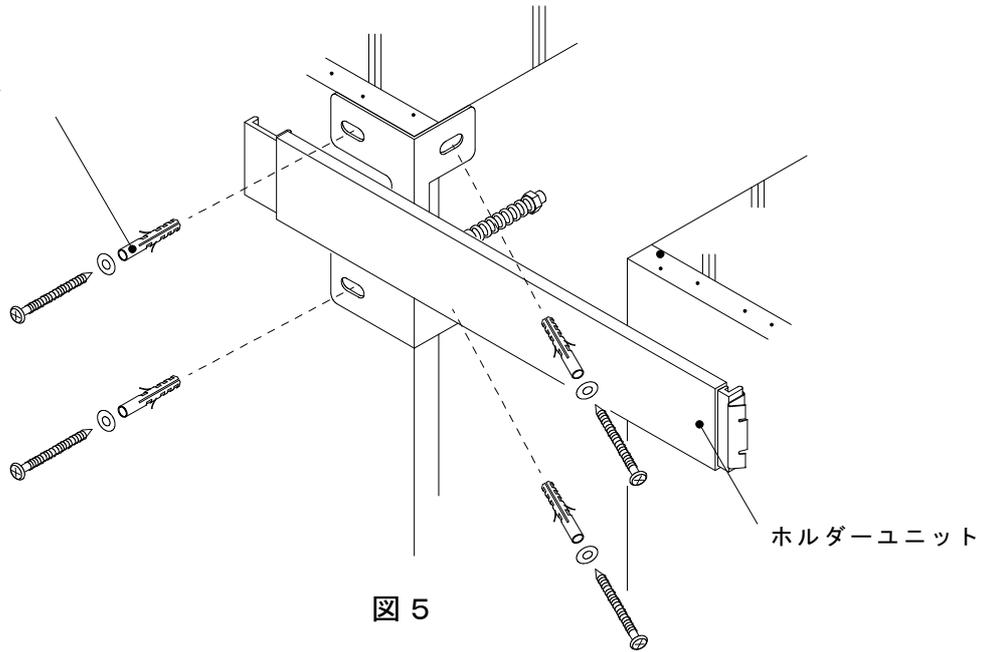


図4

55-150G

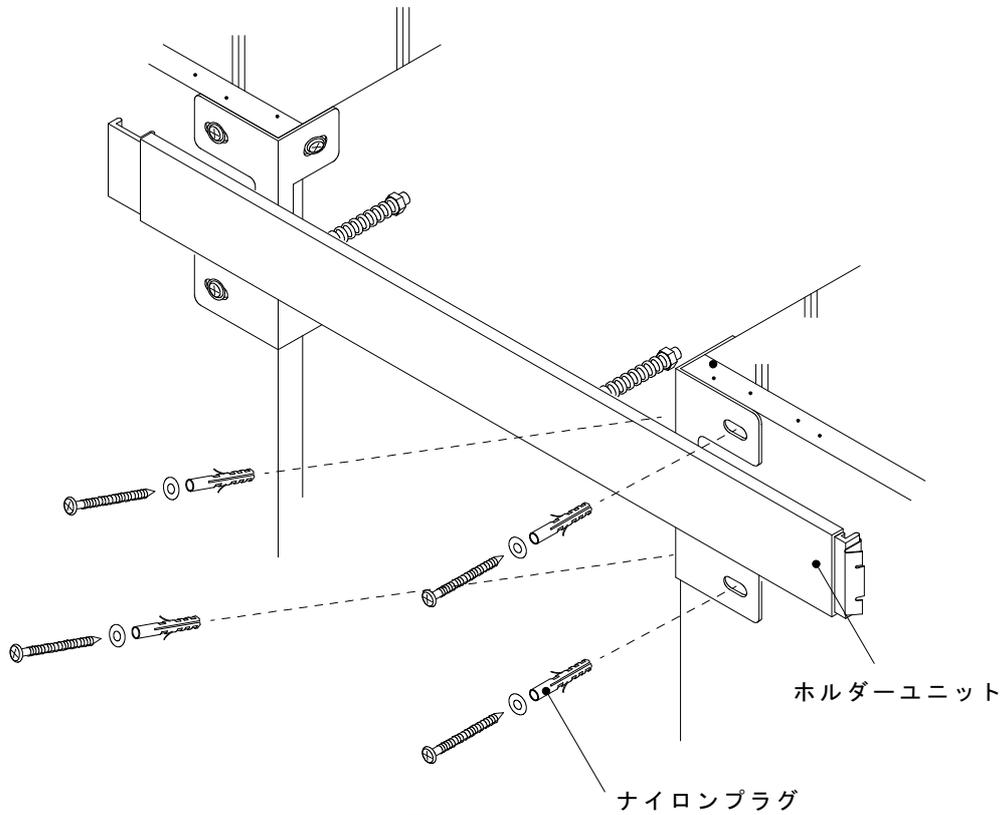
ナイロンプラグ



ホルダーユニット

図 5

55-200G, 300G



ホルダーユニット

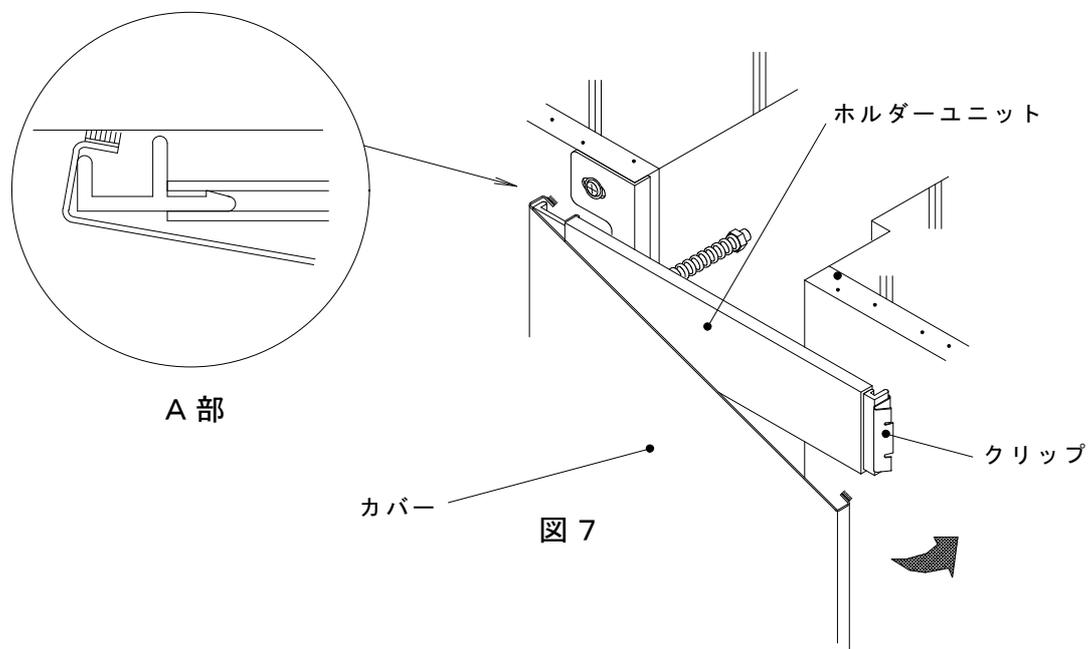
ナイロンプラグ

図 6

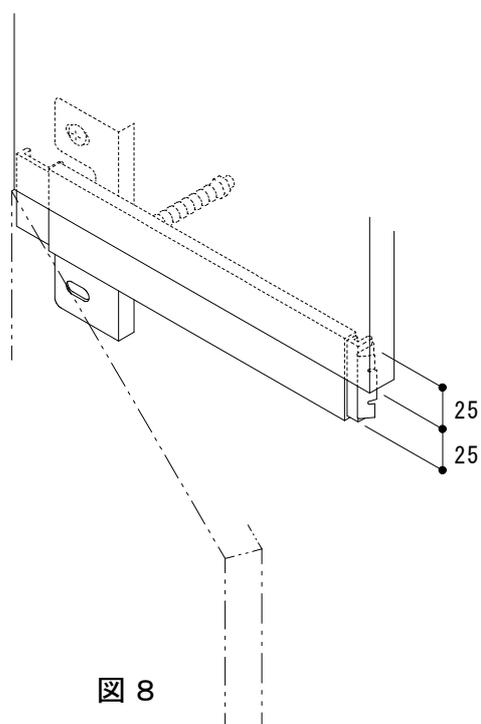
55-3

4. カバーの取付

ホルダーユニットにカバーをかぶせ、図7のA部にカバーの片側を掛けます。次にホルダーユニットのクリップに押え付けるようにしてカバーをはめ合います。



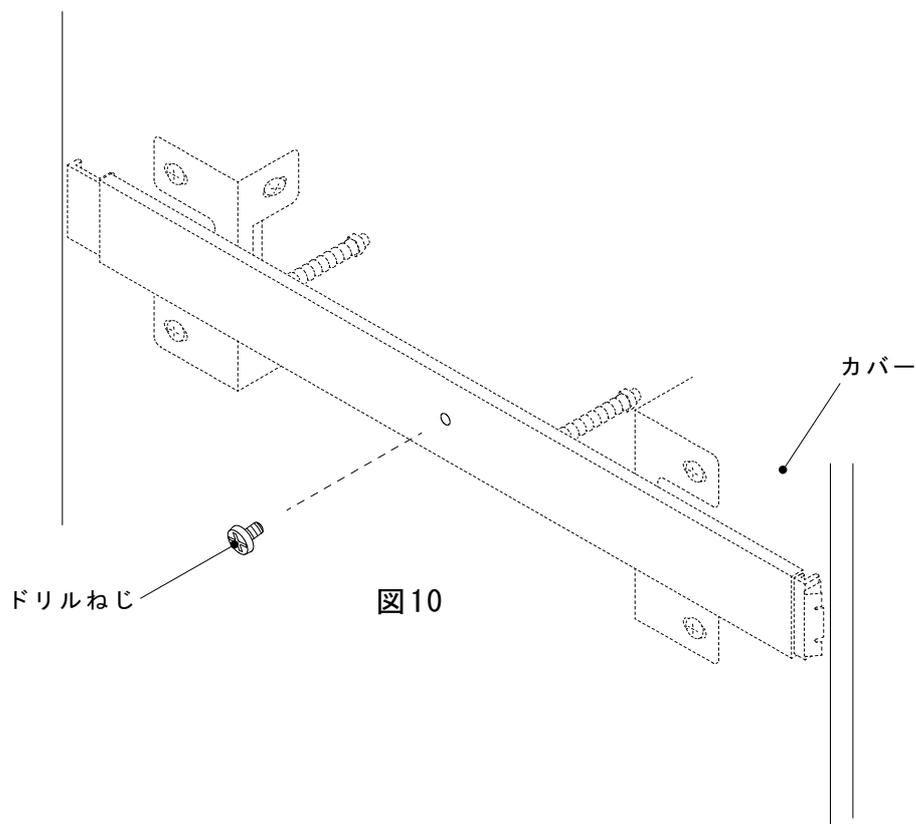
注) カバーのジョイント部は、図8のようにホルダーに半分づつカバーが掛かるようにして下さい。



5. カバーのネジ止め

※S X 5 5 - 2 0 0 G、及びS X (A X) 5 5 - 3 0 0 G (クリアランス 2 0 0 , 3 0 0) の場合

図10のようにカバーの取付穴位置に合わせてホルダーユニットにφ3.6の下穴をあけ、カバーにドリルねじで固定します。



取付工具の仕様方法、エンドカバー取付については、44タイプ参照。

内壁－内壁ｺｰﾅｰ用S X (A X) 4 5 (B)

下地仕上げ

1. 壁面と壁面のクリアランスは、図1、表1のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
 2. 壁面の凹凸は極力避けて下さい。
- ※50F、100Fについては、図のように壁面に欠き込みを設けて下さい。

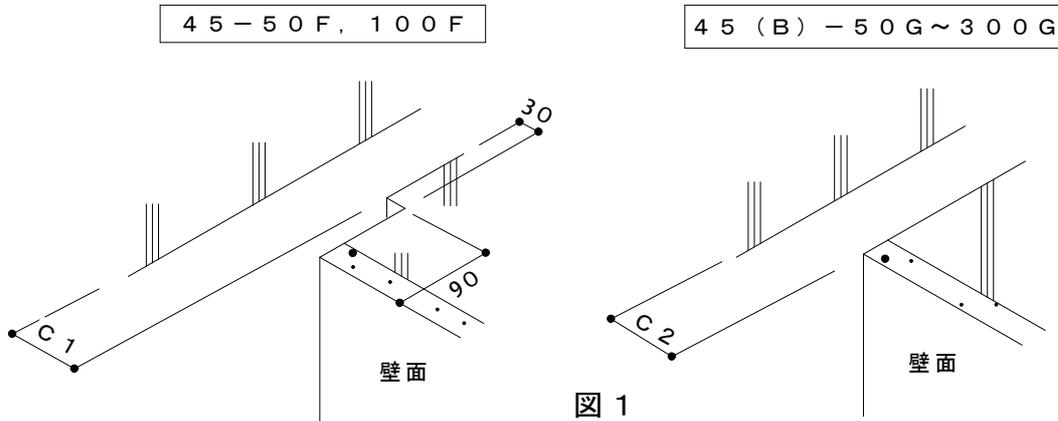


表 1. C 1, C 2 寸法表

呼 称	C 1, C 2 寸法
SX45 - 50F	50
SX45 - 100F	100
SX(A X) 45 - 50G	50
- 100G	100
- 150G	150
SX(A X) 45B - 200G	200
- 300G	300

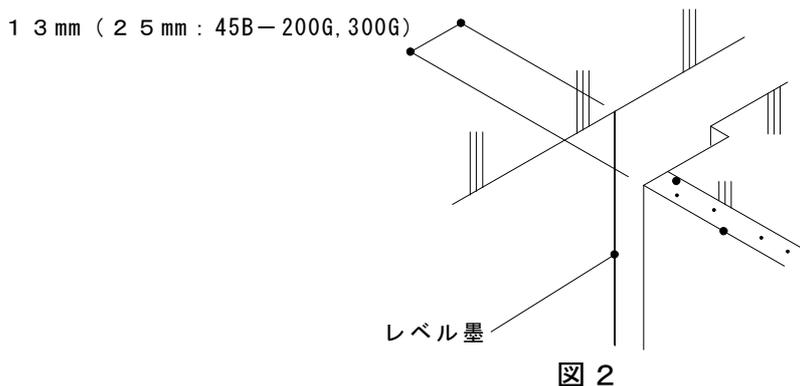
取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

壁面を基準に13mm(25mm: 45B-200G, 300G)の位置にレベル墨を打ちます。(図2)



2-1. ホルダーユニットの取付

ホルダーユニットにあけられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじでホルダーユニットを固定します。(図3)

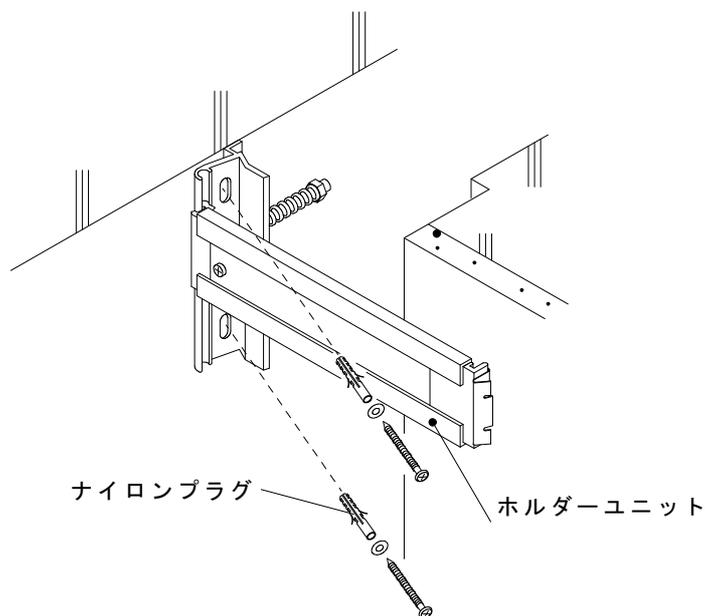


図3

2-2. ホルダーユニットの取付

※SX(A X)-200G、300G(クリアランス200、300)

ホルダーユニットにあけられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し(4ヶ所)、固定ねじでホルダーユニットを固定します。(図4)

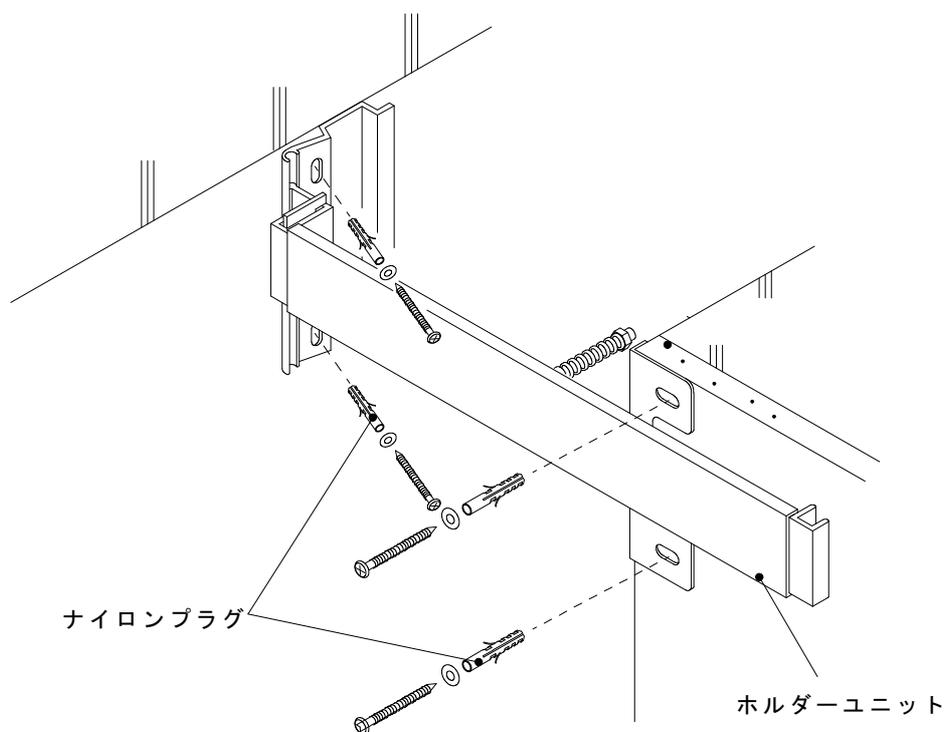


図4

カバーの取付、取付工具の使用方法、カバーのねじ止めおよびエンドカバーの取付については、45タイプを参照。

床—床SX (AX) 66

下地仕上げ

1. 建物のクリアランスは、図1、表1のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
2. フレーム取付面の凹凸は極力避けて下さい。

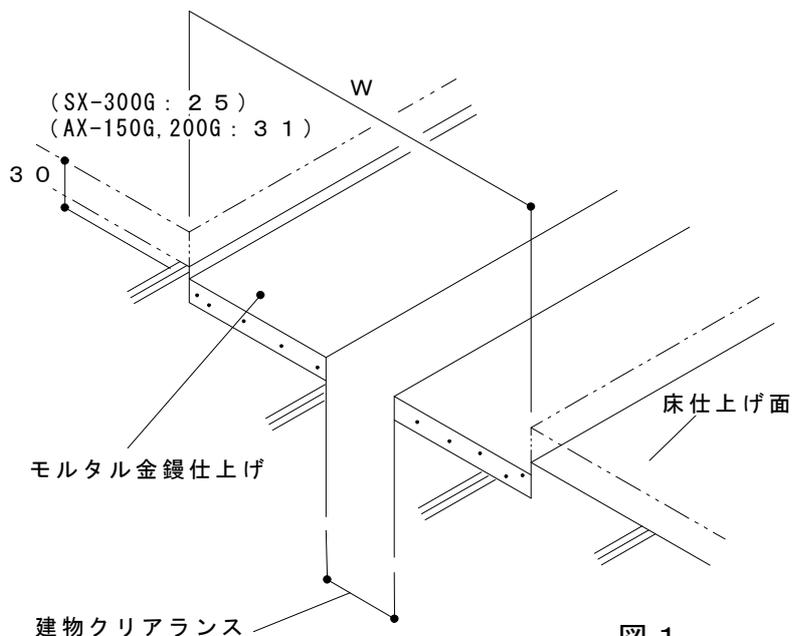


図 1

表 1 . W寸法表

呼 称	W寸法
SX66 — 50F	230
SX66 — 100F	380
SX (AX) 66 — 50G	170
— 100G	300
— 150G	390
— 200G	480
— 300G	600

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. 墨打ち

EXP. J の芯より 1000mm 逃げた位置に図 2 のように逃げ墨を打ちます。

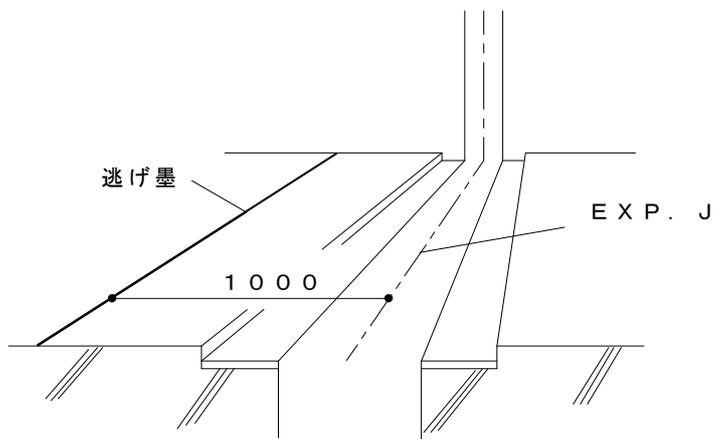


図 2

逃げ墨を基準にフレームを取付するためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A 1， A 2 寸法）は図 3 及び表 2 を参照して下さい。

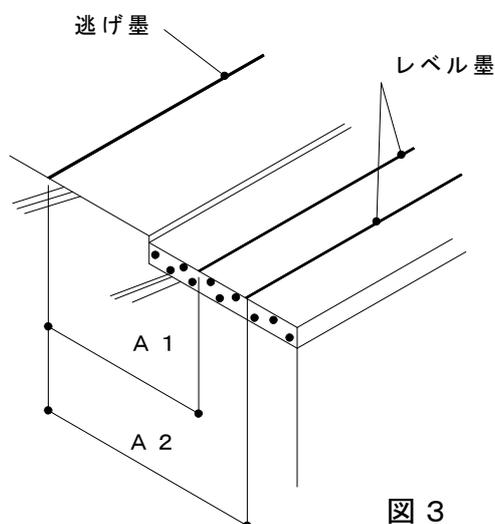


図 3

表 2. A 1, A 2 寸法表

呼 称	A 1 寸法	A 2 寸法
SX66 - 50F	935	
SX66 - 100F	865	915
SX (AX) 66 - 50G	950	
- 100G	910	
- 150G	855	895
- 200G	820	870
SX66 - 300G	770	820

2. フレームの取付

フレームにあげられた穴をレベル墨に合わせφ 8、深さ 60mm の下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ネジでフレームを固定します。（図 4）

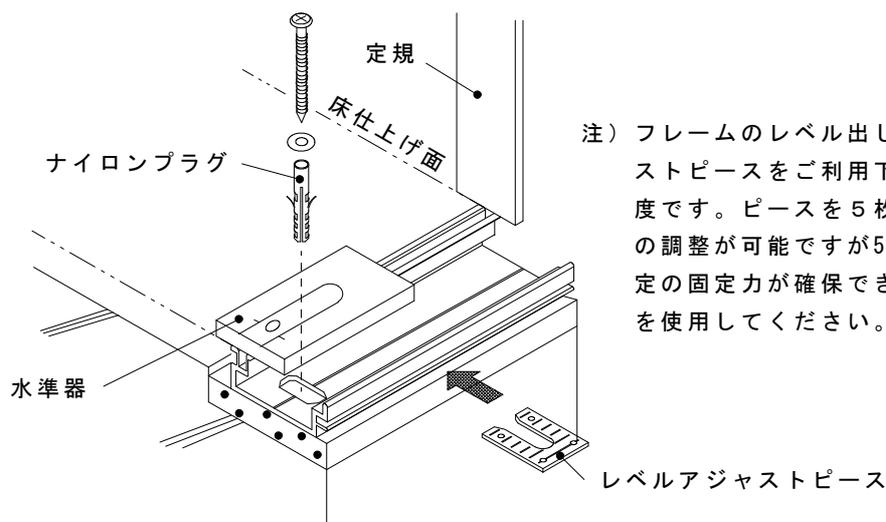


図 4

注) フレームのレベル出しには、付属のレベルアジャストピースをご利用下さい。調整範囲は 10mm 程度です。ピースを 5 枚以上使用すると 10mm 以上の調整が可能ですが 5.0×50 の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため 50mm 以上のネジを使用してください。

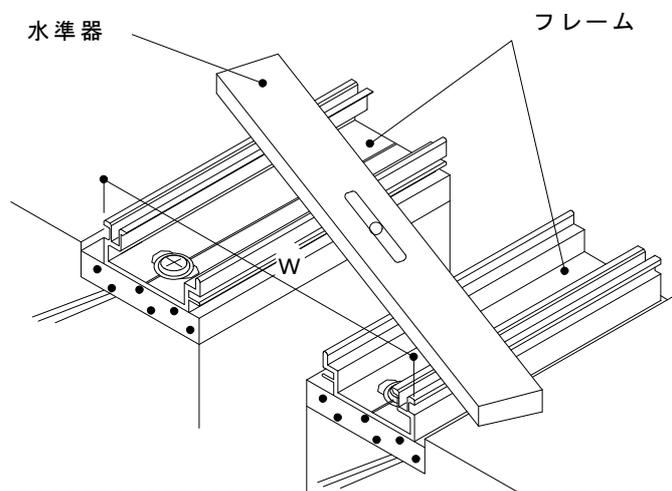


図 5

表 3. W 寸法表

呼 称	W 寸法
SX66 - 50F	200
SX66 - 100F	350
SX (AX) 66 - 50G	150
- 100G	250
- 150G	350
- 200G	450
SX66 - 300G	550

3-1. 補助シートの取付

フレームのA部に補助シートを差し込みます。(図6)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートはロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

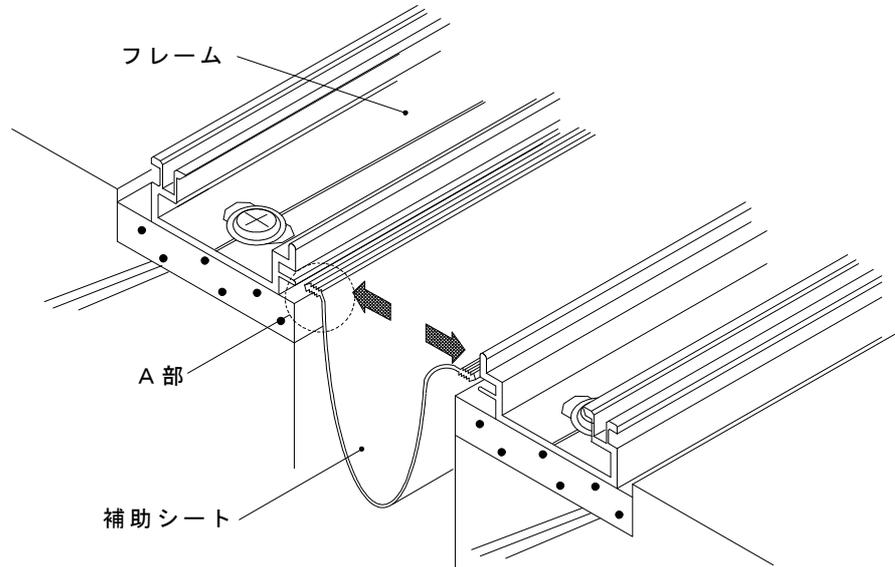


図6

3-2. 外廊下の場合補助シートの取付

補助シートをフレームの下にはさみ込み、ナイロンプラグと固定を用いてフレームを固定します。

注) フレーム固定後、固定ねじ頭部のコーキングを行います。(コーキング材は、別途です。)

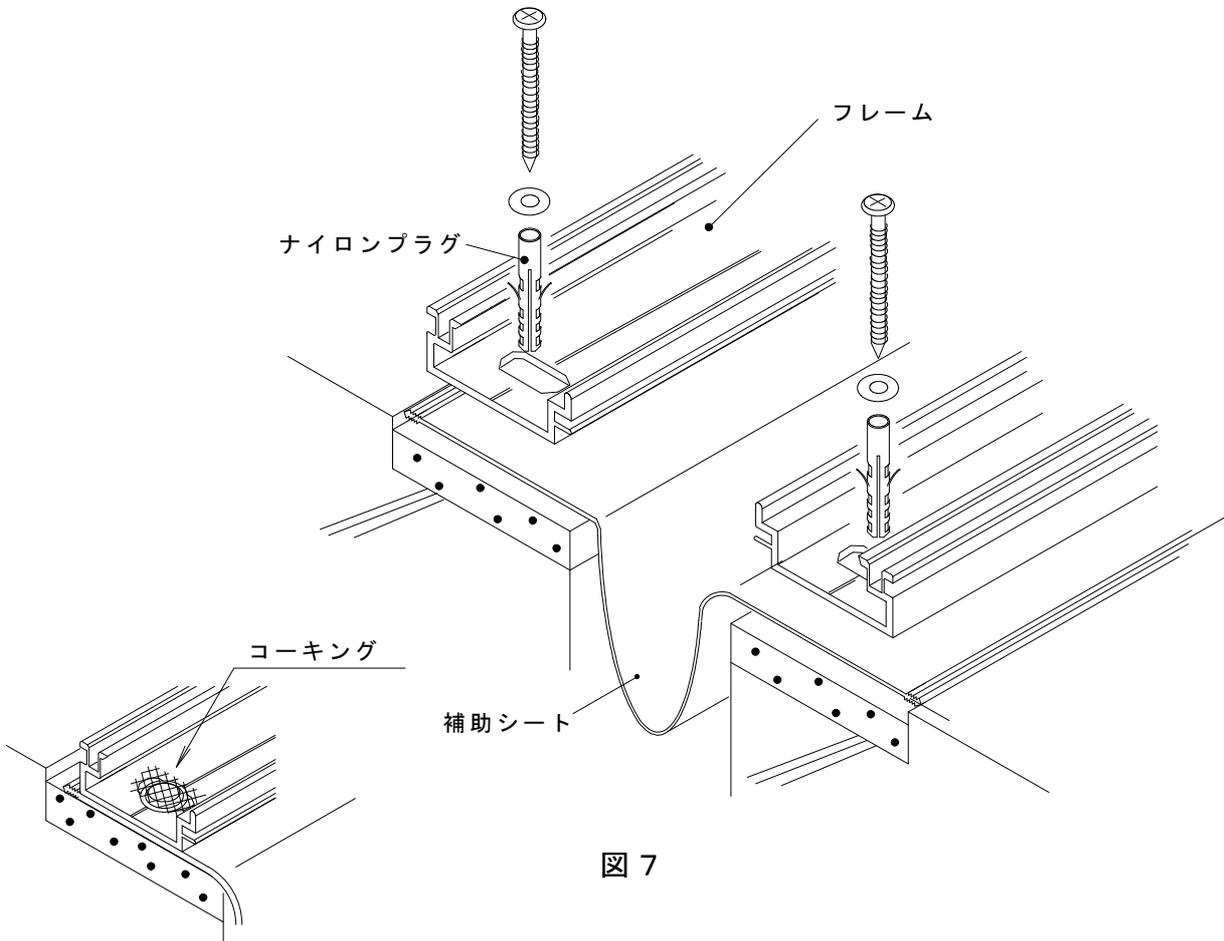


図7

4-1. カバーの取付

スライドプレートをフレームにのせ、カバーの穴に従い皿頭ドリルねじで固定します。（※下穴不要）

注) 300Gタイプについては、カバー穴を基準にフレームにφ3.6の下穴をあけ、皿頭ドリルねじで固定して下さい。

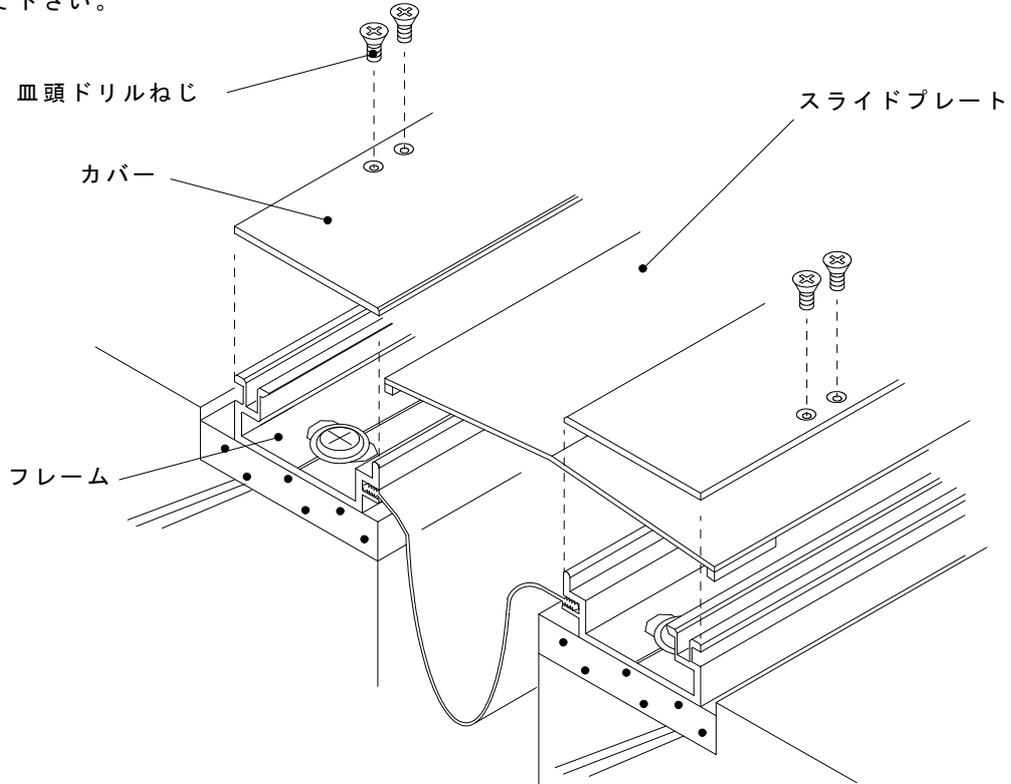


図 8

※カバービス止め時の注意事項

カバーをビス止めするとき両端からネジ止めしていくと真中（中央部）にしわあよせがきてしまうため図9に示すように端から順にネジ止めを行います。

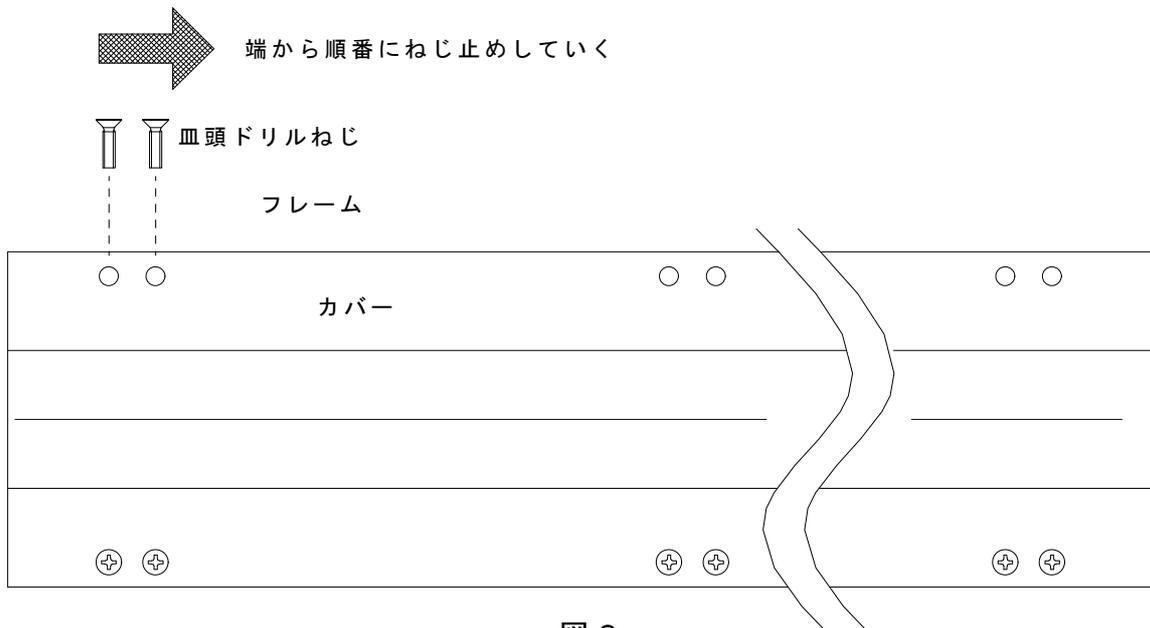


図 9

スライドプレート、カバーの取付（追加：ジョイントが発生する場合）

スライドプレートをフレームの上にのせます。スライドプレートのジョイント部分についてはジョイント金具とスピードナットでスライドプレートを固定してください。（S Xタイプのみ）次に、カバー穴に従い、カバーを皿頭ドリルねじで固定します。（※下穴不要）外部及び直射日光が当たり温度差が大きくなるような場所などに取り付ける場合、必ずカバーとカバーの隙間を3000mmに対してジョイント目地3mmを必ず確保してください。（図10）

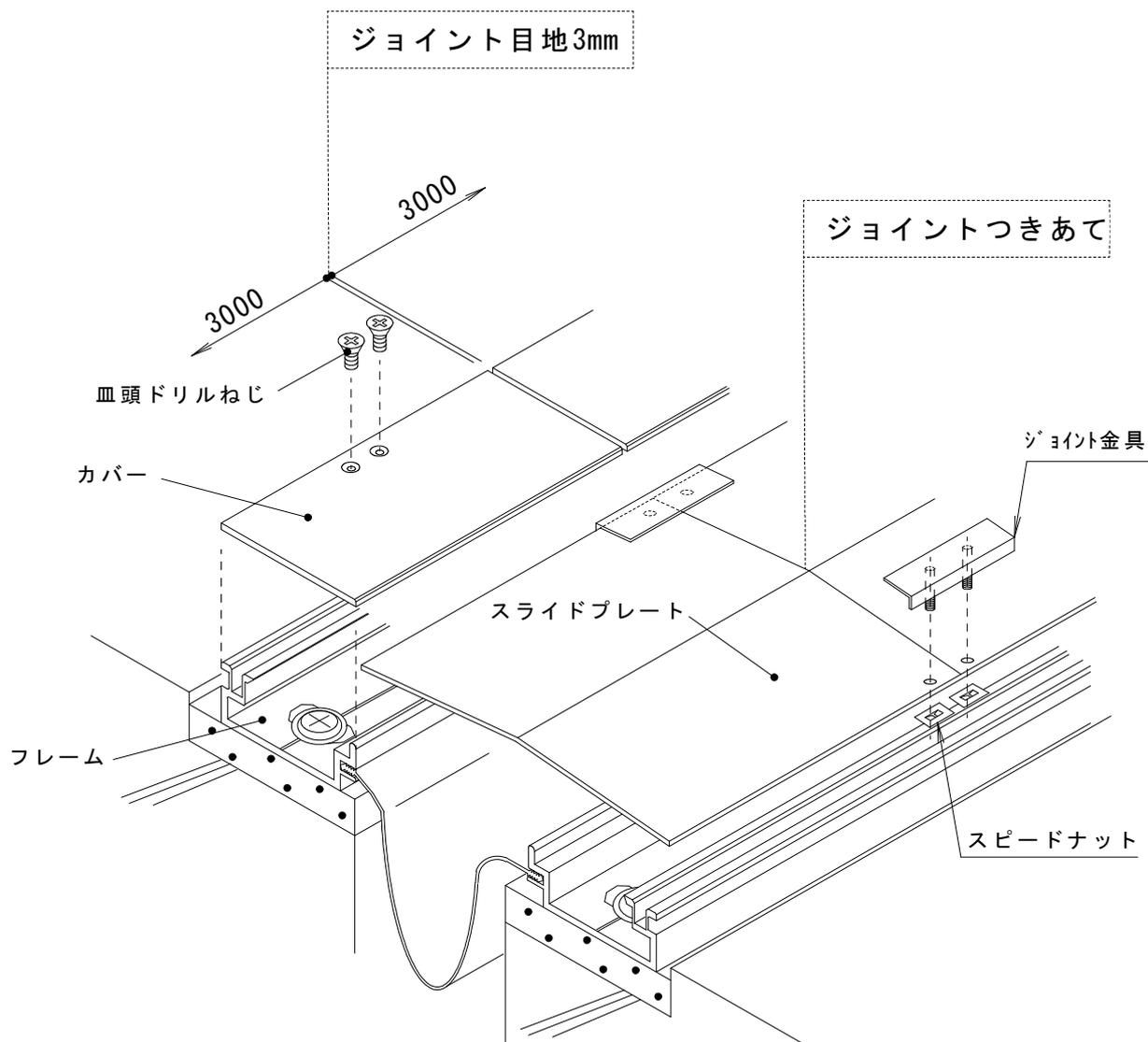


図10

床－内壁SX (AX) 56A

下地仕上げ

1. 建物のクリアランスは、図1、表1のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
2. フレーム取付面の凹凸は極力避けて下さい。

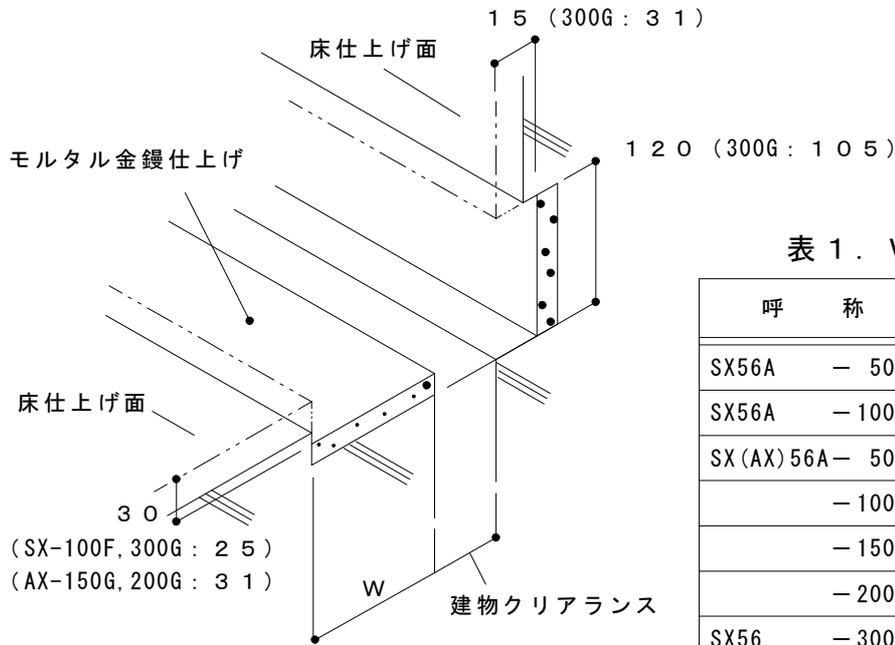


表1. W寸法表

呼 称	W寸法
SX56A - 50F	110
SX56A - 100F	180
SX (AX) 56A - 50G	60
- 100G	100
- 150G	120
- 200G	150
SX56 - 300G	150

図1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. 墨打ち

壁仕上げより1000mm逃げた位置、床仕上げより1000mm上がった位置に図2のように逃げ墨を打ってください。

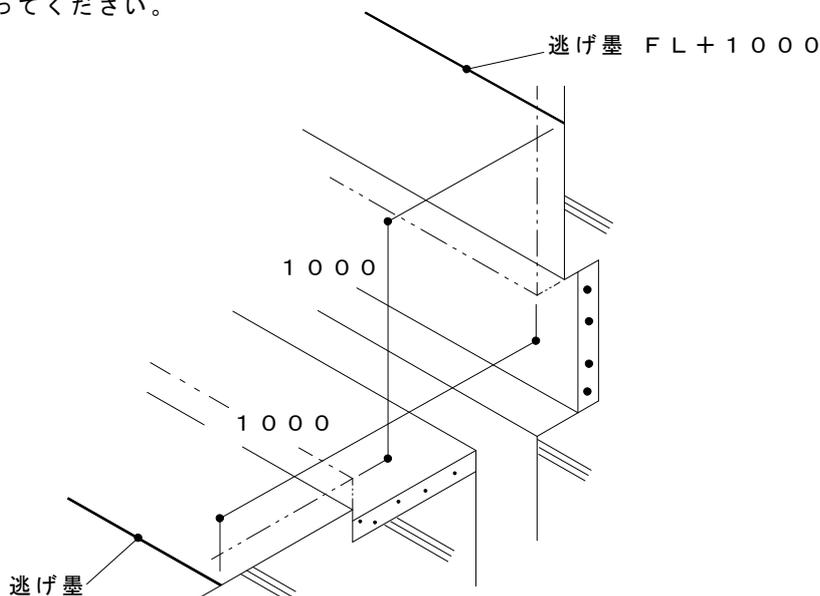
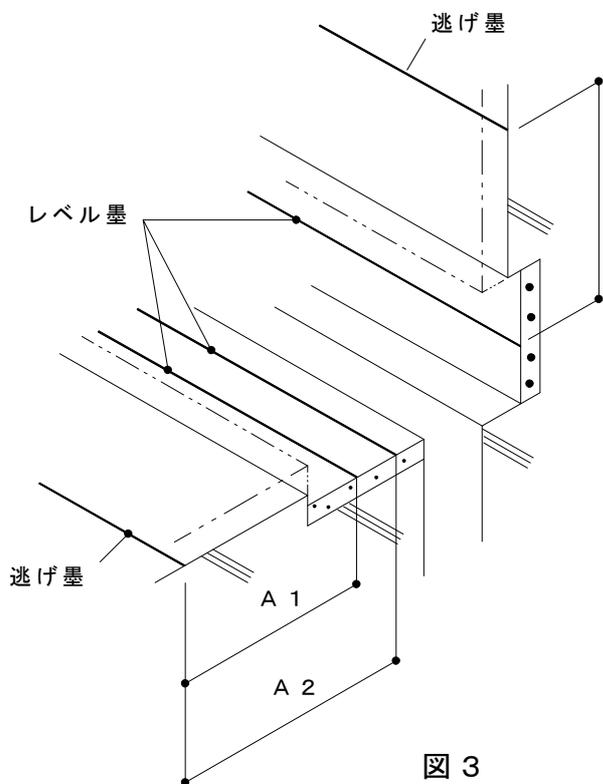


図2

逃げ墨を基準にフレームを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A 1， A 2 寸法）は図 3 及び表 2 を参照して下さい。



9 8 5 (SX-300G, AX-150G, 200G : 9 8 6)

表 2 . A 1 , A 2 寸法表

呼 称	A 1 寸法	A 2 寸法
SX56A - 50F	880	920
SX56A - 100F	775	825
SX (AX) 56A - 50G	925	
- 100G	860	
- 150G	780	820
- 200G	720	770
SX56 - 300G	620	670

図 3

2. 壁側フレームの取付

フレームにかけられた穴をレベル墨に合わせ $\phi 8$ 、深さ 60 mm の下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ネジでフレームを固定します。（図 4）

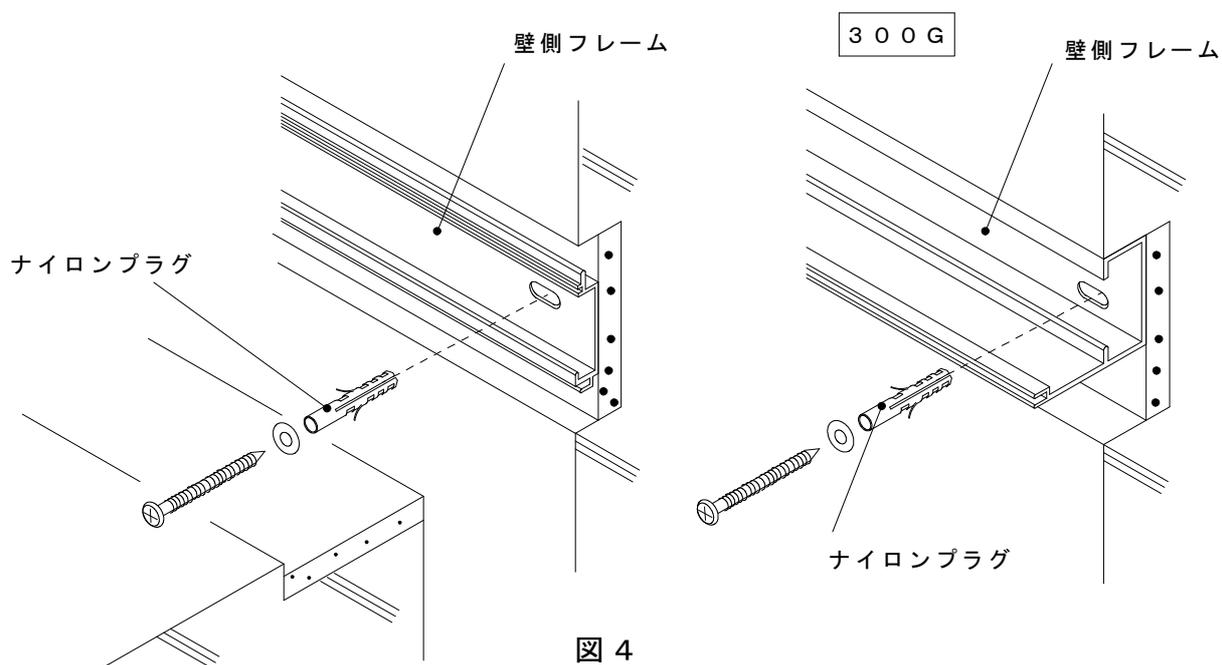


図 4

3. 床用フレームの取付

フレームにあげられた穴をレベル墨に合わせ $\phi 8$ 、深さ60mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじでフレームを固定します。(図5)

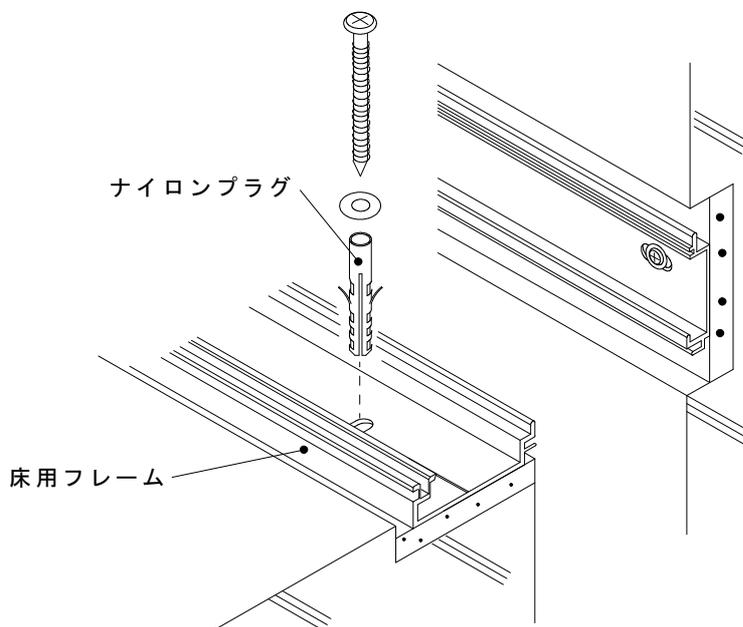


図5

4-1. 補助シートの取付

壁側フレーム、床用フレームのA部に補助シートを差し込みます。(図6)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートはロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

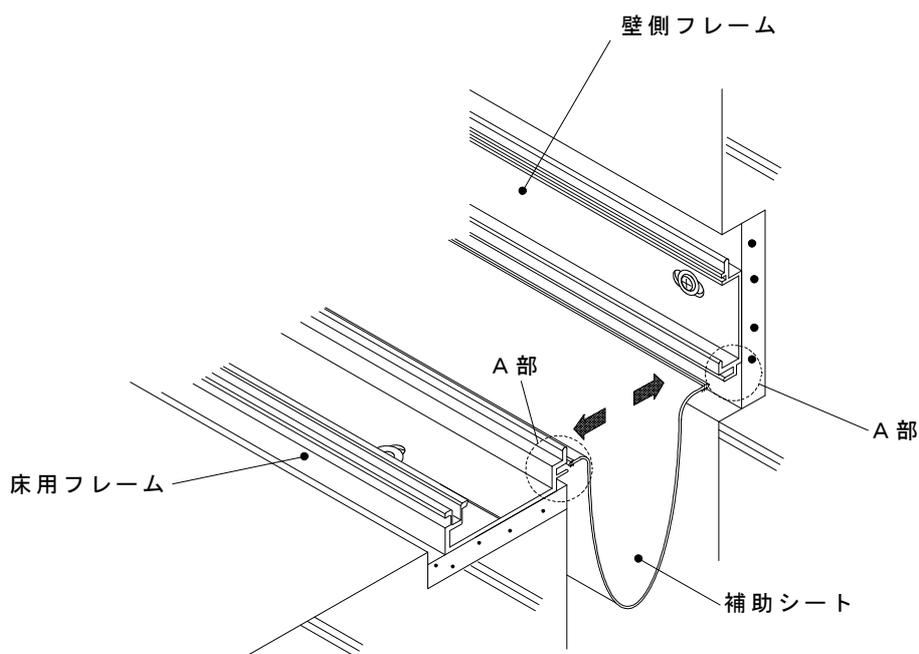


図6

4-2. 外廊下の場合補助シートの取付

補助シートを床用フレーム・壁用フレームの下にはさみ込み、ナイロンプラグと固定を用いてフレームを固定します。

注) フレーム固定後、固定ネジ頭部のコーキングを行います。(コーキング材は、別途です。)

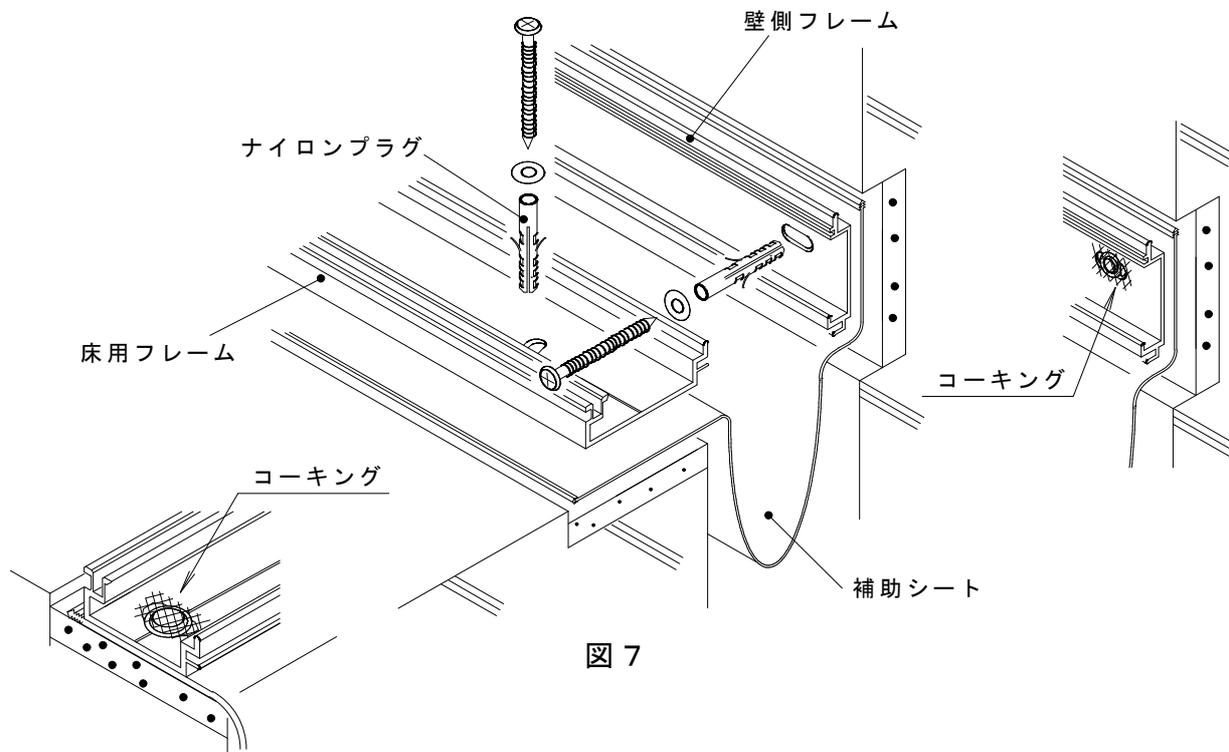


図 7

5. カバーの取付

スライドプレートをフレームにのせ、カバーAは穴に従いの皿頭ドリルねじで固定します。(※下穴不要)

S XタイプのカバーBも穴を基準にフレームにφ3.6の下穴をあけ、皿小ねじで固定して下さい。(図8)

A Xタイプには、壁側フレームにクリップが付いており、カバーBとの固定は上部からの嵌合になります。

またカバーBはクリップの固定のため皿穴は開いていません。壁側フレームの下穴も不要です。

注) S X-300Gタイプについては、カバーA、Bの穴を基準にしてフレームにφ3.6の下穴を開け、皿頭ドリルねじで固定して下さい。

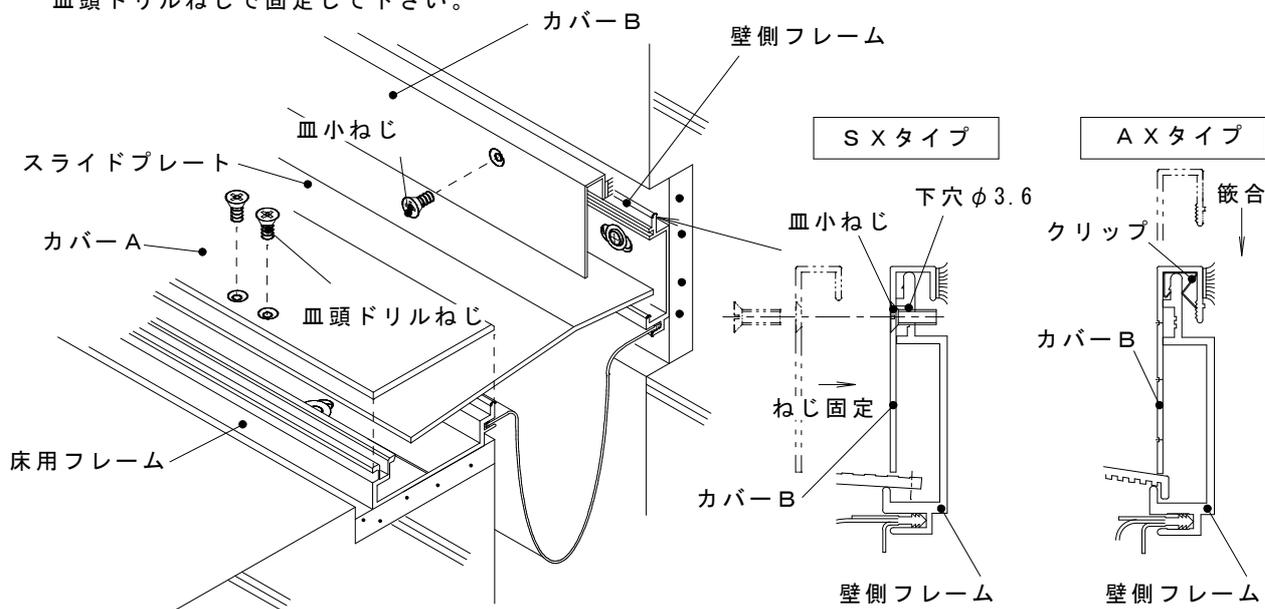


図 8

※カバーねじ止め時の注意事項

カバー A, B をネジ止めするとき両端からねじ止めしていくと真中（中央部）にしわあよせがきてしまうため図 9 に示すように端から順にねじ止めを行います。

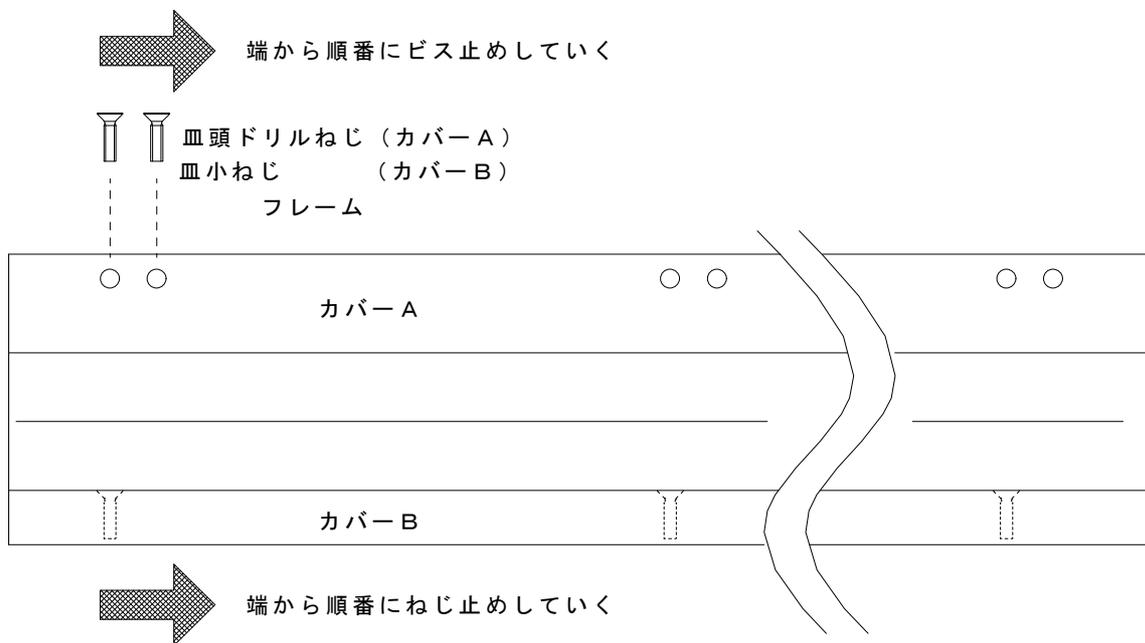


図 9

6. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。（図10）

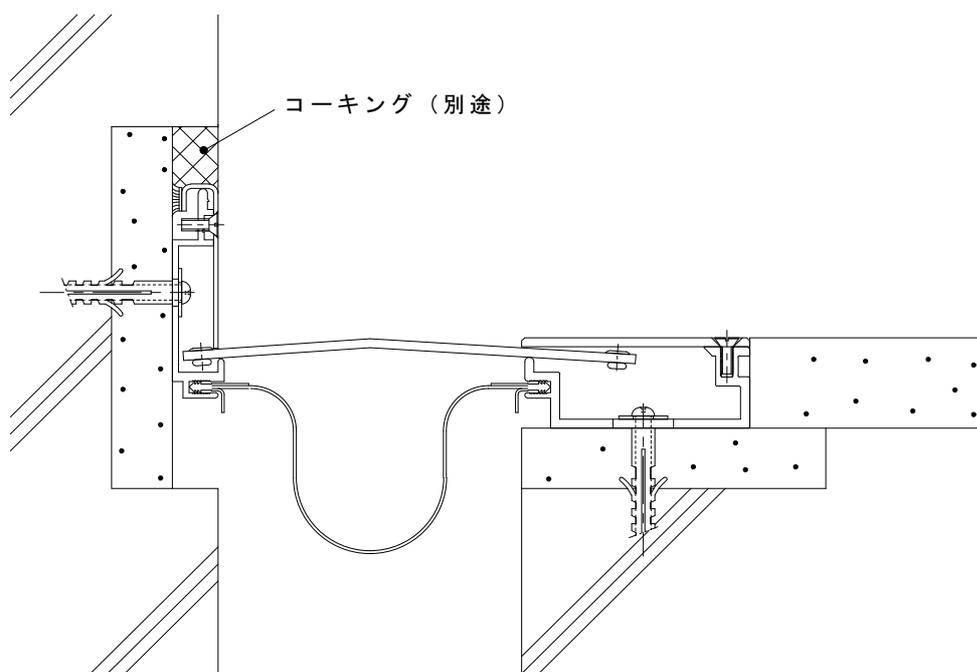


図10